

授業科目	医の倫理				
担当者	桂ノ口結衣				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、その基本的な考え方および理学療法士・作業療法士の倫理綱領等を知る。そのうえで、現代社会における「医の倫理」の諸問題について、議論の要点を把握するとともに、多様な観点・立場から考察する。

■ 到達目標

1. 「医の倫理」の基本的な考え方について述べるができる。2. 理学療法士・作業療法士の職業倫理について述べるができる。3. 医療における倫理問題について、複数の論点を挙げるができる。4. 現代社会の医療における倫理問題について、対象者の立場ならびに医療者としての自らの立場を意識したうえで、理由とともに説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 「医の倫理」の歴史と、理学療法士・作業療法士の職業倫理
- 第2回 「医の倫理」の基礎理論
- 第3回 医療者-患者関係1：インフォームドコンセント、自己決定
- 第4回 医療者-患者関係2：弱さの尊重
- 第5回 小児医療と高齢者医療における倫理問題
- 第6回 終末期と死に関する倫理問題
- 第7回 医療と社会
- 第8回 確認テストと総まとめ

■ 評価方法

毎回のコメントペーパー（6×7=42%）、【科目試験（筆記試験）】（58%）。コメントペーパーの課題は、各回の授業内で指示する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

〈第1回～第4回〉

予習：教科書第1章から第3章までをよく読んでおく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

〈第5回～第7回〉

予習：教科書第4章から第10章（特に第6章から第8章）、および第15章・第16章を精読しておく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

■ 教科書

書 名：テキストブック 生命倫理
 著者名：霜田求（編）
 出版社：法律文化社

■ 参考図書

書名：ケアの社会倫理学：医療・看護・介護・教育をつなぐ

著者名：川本隆史編

出版社：有斐閣

■ 留意事項

授業は、すべての受講者のためにあります。したがって、質問や意見は、ささいなものであれ挑戦的なものであれ、歓迎します。私語は、ほかの学生の学習を妨害することになるので、禁止します。

■ 講義受講にあたって

医療・福祉に関わる倫理的・社会的問題はメディアでもよく報道されています。日頃から問題意識をもってそうした情報を得るようにしましょう。また、いまひとつ問題意識がもちにくい場合、どこにその根があるのかを探ってみましょう。

授業科目	英語コミュニケーション（英会話初級）				
担当者	近藤 未奈				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

この授業では、語彙、リスニング、会話、文法の各技能の演習をバランス良く行い、医療実務に役立つ総合的な英語力の養成をはかります。基礎的な英語文法の確認をしつつ医療関連の語彙を増やし、ロールプレイ方式での会話練習を行うことにより、実際の現場で英語を使うことのできる能力の習得を目指します。

■ 到達目標

医療専門分野に関係した基礎的な英語表現に慣れ、現場で実際に英語が必要とされた時に適切な対応ができる英語運用能力を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：受講にあたっての諸注意
イントロダクション：医療現場で英語を使えることの意義 / 医療の英語はどのようなものかを知る
- 第2回 Welcoming a Patient（患者を迎える）
位置を示す表現 / 病院内施設
- 第3回 Taking Vital Signs（バイタルサイン測定）
バイタルを測る機器類 / 看護物品
- 第4回 Pain Assessment（痛みのアセスメント）
痛みを表す表現 / 痛みの問診術
- 第5回 Feeling So Sick!（症状）
症状チェック表 / 様々な症状
- 第6回 Transferring a Patient（体位変換 / 移乗）
対位 / 動きの表現
- 第7回 Medical Department（診療科目）
診療科と専門医 / 検査のための表現
- 第8回 Review & Medical Terminology（前半のまとめ / 医学英語の構造）
- 第9回 Personal Care（日常生活援助）
身だしなみ用具 / 日常生活援助表現
- 第10回 Giving Medication to a Patient（与薬）
薬剤の種類 / 投薬指示関連の表現
- 第11回 Elimination（排泄）
排泄の表現 / 排尿の仕組み
- 第12回 Chronic Diseases（慢性疾患）
患者情報収集 / 慢性病とは？
- 第13回 Critical Care / Operating Room（急性期 / 手術室）
救急室で / 周手術期看護
- 第14回 Pregnancy Check-up（妊婦健診）
妊娠初期・中期 / 陣痛と出産
- 第15回 Review & Medical Reading（後半のまとめ / 医学英文読解）

■ 評価方法

受講態度（予習・授業への取り組みなど：40%）、小テスト（20%）、【科目試験（筆記）】（40%）を総合的に評価します。

講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。

教科書の予習指示があった場合、指定の箇所の英語を読み、英和辞書などを使いわからない語句の意味を調べ、内容を日本語で理解・説明できるようにしておく。

小テスト対策の勉強は教科書の内容を理解するための予習も兼ねているので、範囲の語句の意味を覚えておくこと。

■ 教科書

書名：Talking with Your Patients in English（アニメで学ぶ看護英語）

著者名：平野美津子, Christine D. Kuramoto, 落合亮太

出版社：成美堂

■ 参考図書

書名：病院スタッフのためのシチュエーション英会話

著者名：服部しのぶ

出版社：メジカルビュー

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。テストについての詳細は初回授業で説明します。

授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。

毎回配布される資料は教科書の一部として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、必ず初回から出席してください。

■ 講義受講にあたって

授業科目	国語表現学 (レポート作成法)				
担当者	岡崎 昌宏				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

レポートの作成など、大学では、自身の考えを練り、それを正確に、過不足なく表現する能力が一層求められる。そしてそれは、社会の様々な場面でも必要となる能力である。この授業では、正確な表現のために必要な知識や技術を習得するとともに、レポートの作成方法を実践的に学ぶ。また、優れた文章を読み、表現技術への意識を高める。

■ 到達目標

自身の考えを整理し、それをレポートなどの形で正確に表現できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 概説—正確な表現の重要性
- 第2回 文章を書くための知識 (1) —表記など
- 第3回 文章を書くための知識 (2) —原稿用紙の使い方、段落など
- 第4回 正確な文章のために (1) —説明不足の文をなくす
- 第5回 正確な文章のために (2) —過度な説明、重複説明をなくす
- 第6回 正確な文章のために (3) —長くなってしまった文を、短くする
- 第7回 正確な文章のために (4) —句読点への意識を高める、語彙力を高める
- 第8回 論文・レポートの文章を読み、その表現の特徴を学ぶ
- 第9回 レポートを書く (1) —様々な事実を集める
- 第10回 レポートを書く (2) —意見の方向を定める
- 第11回 レポートを書く (3) —自説の明確な根拠を考える
- 第12回 レポートを書く (4) —基本的な展開方法を知る
- 第13回 レポートを書く (5) —レポートを書き、推敲する
- 第14回 様々な文章に接し、表現への意識を高める
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

平常点 (授業中の課題への取り組みも含む) 100%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

前回までの内容をよく復習したうえで授業にのぞむこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

授業科目	人間関係学				
担当者	非常勤講師				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

よりよい人間関係を築き、営むことは日常生活や専門職としての活動においてなくてはならないものである。本講義では人間関係について社会心理学や臨床心理学の視点から、講義だけでなく個人ワーク・グループワークを通して基礎的素養・応用知識を身につける機会にします。

■ 到達目標

学んだことを今後の日常生活や専門職としての活動の中で活かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・人間のこころとは
- 第2回 自分自身について考えてみよう
- 第3回 コミュニケーションとは？① -対人認知と社会的認知
- 第4回 コミュニケーションとは？② -コミュニケーションの要素
- 第5回 なぜ人は他者に好感を持つのか？ -対人魅力
- 第6回 自分の表現の仕方 -自己提示と自己開示
- 第7回 集団の影響
- 第8回 ストレスの仕組みを学ぶ
- 第9回 自分の気持ちの伝え方 ① -自分の表現の特徴を知る
- 第10回 自分の気持ちの伝え方 ② -3つの自己表現
- 第11回 相手の話しの聴き方 ① -自分の気持ちと相手の価値観
- 第12回 相手の話しの聴き方 ② -基本的な傾聴技法
- 第13回 傾聴技法のロールプレイ -わたしの悩み
- 第14回 問題解決のロールプレイ
- 第15回 総合的ふりかえり

■ 評価方法

毎回のワークへ取り組みの態度やレスポンスカードの提出（40%）、確認レポートの提出（60%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

特になし

■ 参考図書

適宜紹介します

■ 留意事項

本講義では個人およびグループでのワークが多くあります。欠席や遅刻のないように注意すること。

■ 講義受講にあたって

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ				
担当者	山口忍（実務経験者）				
実務経験者の概要	広島大学附属病院・京都大学附属病院の耳鼻咽喉科にて35年以上の経験				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

コミュニケーションの基本的スキルを身に着ける演習及び、傾聴の意味を理解する。適切なコミュニケーションが、人間の本能に根差した対応であることを理解する。

■ 到達目標

初対面の方に、不快感を与えず近づいていける。医療者の発言が対象者及びご家族にどのようにとらえられるかを知る。

■ 授業計画

- 第1回 「挨拶」は何のためにし、「笑顔」はどういう意味を持つか
- 第2回 「聴く」と「聞く」の違いを学ぶ
- 第3回 コミュニケーションにおけるポジショニング
- 第4回 やまびこのレッスン
- 第5回 声を出す、話すということ
- 第6回 医療関係者に言われて嫌だった言葉
- 第7回 〃 －グループでまとめ、発表する
- 第8回 人間の本能とコミュニケーション

■ 評価方法

小テスト20% 【科目試験（筆記試験）】70%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

2コマ目から成績判定のための小テストを実施しますので、授業内の内容を復習する（15分程度）こと。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

演習は照れずに積極的に行うこと。臨床では対象者の方を選ぶことはできないので、自身が苦手とするタイプの人とも明るくコミュニケーションができるようになる練習として、演習に取り組むこと。

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ				
担当者	大根茂夫（実務経験者）・中村靖子（実務経験者）・辻郁（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	大根茂夫／中村靖子（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害及び嚥下障害の患者を担当した） 辻郁（作業療法士として病院や保健所で失語症や嚥下障害を有する障害者に介入した）				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ・神経系の基礎を復習する。大根茂夫（実務経験者）
- ・摂食嚥下障害の基礎について学び、摂食嚥下障害の方への関わり方について学ぶ。中村靖子（実務経験者）

■ 到達目標

- ・神経系の基礎知識を身につける。大根茂夫（実務経験者）
- ・摂食嚥下障害に関する必要な基礎知識を身につけ、基本的な関わり方について理解する。中村靖子（実務経験者）

■ 授業計画

- 第1回 神経系の復習① 中枢神経系：大脳、間脳 大根茂夫（実務経験者）
- 第2回 神経系の復習② 中枢神経系：小脳、脳幹、脊髄 大根茂夫（実務経験者）
- 第3回 神経系の復習③ 末梢神経系：脳神経、脊髄神経、自律神経 大根茂夫（実務経験者）
- 第4回 神経系の復習① 練習問題：国家試験問題とその解説 大根茂夫（実務経験者）
- 第5回 摂食嚥下障害とは 中村靖子（実務経験者）
- 第6回 摂食嚥下障害：チームアプローチ、評価 中村靖子（実務経験者）
- 第7回 摂食嚥下障害：訓練、食事介助 演習含む 中村靖子（実務経験者）
- 第8回 摂食嚥下障害：口腔ケアの意義と方法 演習含む 中村靖子（実務経験者）

■ 評価方法

筆記試験80% 実技のレポート20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・復習を行うこと。
- ・空き時間を利用し実技練習を行うこと。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション
著者名：稲川利光
出版社：学研メディカル秀潤社

■ 留意事項

摂食嚥下障害演習時の持ち物は追って連絡します。

■ 講義受講にあたって

臨床や国家試験に必要な知識です。積極的に取り組んでください。

授業科目	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ				
担当者	大西環（実務経験者）・平林容子（実務経験者）・大根茂夫（実務経験者） 中村靖子（実務経験者）・辻郁（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	大西環／平林容子／大根茂夫／中村靖子（言語聴覚士として病院などに勤務しコミュニケーション障害及び嚥下障害の患者を担当した） 辻郁（作業療法士として病院や保健所で失語症や嚥下障害を有する障害者に介入した）				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ・失語症とはどのような言語障害であるかを理解し、コミュニケーションの取り方について学ぶ。大西環／平林容子（実務経験者）
- ・講義のほか、言語障害の方との対話会も実施。大西環／平林容子／大根茂夫／中村靖子（実務経験者）

■ 到達目標

- ・失語症が他の言語障害とどのように異なるのか、概略を説明できるようになる。
- ・有効なコミュニケーション方法を知り、自ら工夫しコミュニケーションを図れるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 失語症の基礎知識 失語症とは 言語障害の特徴と症状 平林容子（実務経験者）
- 第2回 失語症の基礎知識 失語症のタイプ分類 平林容子（実務経験者）
- 第3回 失語症状と失語症検査の概要 大西環（実務経験者）
- 第4回 模擬対話会 大西環、平林容子（実務経験者）
- 第5回 模擬対話会のフィードバックとコミュニケーションの工夫
対話会の準備について 大西環（実務経験者）
- 第6回 対話会 大西、平林、大根、中村（実務経験者）
- 第7回 対話会 大西、平林、大根、中村（実務経験者）
- 第8回 国家試験対策 中村靖子（実務経験者）

■ 評価方法

- 小テスト100%
- 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・授業後は復習を行うこと。
- ・グループでの準備や活動をしっかり行うこと。

■ 教科書

書 名：絵でわかる言語障害
著者名：毛東真知子
出版社：学研

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

臨床や国家試験に必要な知識です。積極的に取り組んでください。

授業科目	心理学				
担当者	鈴木暁子(実務経験者)				
実務経験者の概要	大学病院や精神科病院で臨床心理士としての勤務経験を持つ。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT 選択 / OT 必修

■ 内 容

心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。

■ 到達目標

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 心理学の考え方①
- 第2回 心理学の考え方②
- 第3回 ト라우マについて
- 第4回 人の性格①
- 第5回 人の性格②
- 第6回 知能と記憶
- 第7回 学習①
- 第8回 学習②
- 第9回 動機づけと情動①
- 第10回 動機づけと情動②
- 第11回 社会心理学入門①
- 第12回 社会心理学入門②
- 第13回 人と音楽①
- 第14回 人と音楽②
- 第15回 臨床に活かすコーチング

■ 評価方法

【科目試験(筆記)】90% 授業態度10%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

講師の指示に従ってください。

■ 教科書

書 名：改訂版 はじめて出会う心理学
 著者名：長谷川寿一 他
 出版社：有斐閣アルマ

■ 参考図書

書名：心理学概論

著者名：山内弘継・橋本宰監修

出版社：ナカニシヤ出版

■ 留意事項

配布資料が多いので整理方法をよく考えて下さい。

■ 講義受講にあたって

登録が終了したら座席を決めますので、指定された席に座ってください。

授業科目	言語学				
担当者	松井 理直				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

医療ミスを引き起こす原因の1つとなる論理判断の錯誤について、言語学の立場から考察を行う。

■ 到達目標

医療現場におけるコミュニケーション・ミスについて理解を深めることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 導入：医療ミスを引き起こす原因について
- 第2回 ことばと論理の関係 (1)：連言判断における過誤
- 第3回 ことばと論理の関係 (2)：選言判断における過誤
- 第4回 ことばと論理の関係 (3)：排他的選言をめぐる過誤
- 第5回 ことばと論理の関係 (4)：含意判断における過誤
- 第6回 ことばと論理の関係 (5)：「言い換え」とトートロジー
- 第7回 ことばと確率：医療診断におけるエビデンス
- 第8回 擬陽性問題について
- 第9回 前提確率から見た患者の立場と治療者の立場の違い
- 第10回 仮説と錯誤
- 第11回 第一種のエラーと第二種のエラー
- 第12回 統計学の基礎
- 第13回 有意水準と第一種のエラー
- 第14回 検定力と第二種のエラー
- 第15回 授業のまとめと到達度の確認

■ 評価方法

授業内に毎回行うミニテスト：50% 【科目試験(筆記試験)】50%
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

基本的に授業中に全て理解することを目標とするが、復習に必要な時間として50分程度を目安とする。予習に関しては、特に必要としない。なお、授業内容に関しては教科書を用いず、適宜プリントを配布する。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

復習をきちんと行い、次回の授業までに全ての内容を理解できるようにしておくこと。

■ 講義受講にあたって

選択科目であるため、内容に十分に興味を持っていることを前提として授業を行う。本授業を選択するかどうかを決める際に、ものごとを論理的に判断することが要求され、国語の能力とともに、数学の能力が要求される点に十分留意されたい。

授業科目	医療英語				
担当者	近藤 未奈				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、また、専門用語の単語の成り立ちを学びます。英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習し、ある程度の長さの英文や、英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。以上を通じて、理学療法士・作業療法士として必要不可欠な国際的な学術論文を理解する土台を養います。

■ 到達目標

医学英語に特有の語彙や表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（受講にあたっての諸注意）
医学英語の基本構造
- 第2回 接尾辞と接頭辞
- 第3回 英語文献を読むための必須文法項目（1）
- 第4回 身体部位の用語
- 第5回 骨の用語
- 第6回 英語文献を読むための必須文法項目（2）
- 第7回 筋肉の用語
- 第8回 神経の用語
- 第9回 英語文献を読むための必須文法項目（3）
- 第10回 英文読解（1）症例を読む その1
- 第11回 英語論文の基礎知識（1）論文・抄録の構造と読み方
- 第12回 英文読解（2）論文の抄録（アブストラクト）を読む
- 第13回 英語論文の基礎知識（2）英語データベースの利用方法
- 第14回 英文読解（3）カルテを読む
- 第15回 英文読解（4）症例を読む その2

■ 評価方法

受講態度（予習や授業中の発表など:30%）、小テストおよびレポート課題（30%）、【科目試験(筆記)】（40%）の結果を総合的に評価します。

講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成しておくこと。

■ 教科書

書名：音声と例文でおぼえる基本医療英語1000
著者名：笹島茂, Chad Godfrey, 小島さつき
出版社：南雲堂

■ 参考図書

書名：Dr. 押味の あなたの医学英語 なんとかします！
著者名：押味貴之
出版社：メジカルビュー

書名：医者も知りたい面白医学英語事典
著者名：木村専太郎
出版社：花乱社

■ 留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。テストの詳細は初回授業で説明します。
授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。
毎回配布される資料は教科書として扱い、過去に配布されたものも毎回持ってきてください。
成績評価基準の詳細や、その他諸注意については初回授業で伝えるので、受講の意思のある場合は必ず初回から出席してください。

■ 講義受講にあたって

授業科目	情報処理学				
担当者	永井 文子				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

Microsoft Windows[®] および Microsoft Office[®] アプリケーションを使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な PC 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。

■ 到達目標

- ・ 講義支援システム「Moodle」へのアクセス方法と課題提出方法を理解し利用できる。
- ・ PC から利用する Web メールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。
- ・ PC 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。
- ・ PC (Windows) 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。
- ・ 文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。
- ・ 表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。
- ・ プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。
- ・ セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。

■ 授業計画

- 第 1 回 授業概要。ブラウザの利用①。学校メール(G-mail)利用開始(アドレス／パスワード設定)。eメール送受信。講義支援システム Moodle の利用開始 (ID / パスワード設定、ログイン／ログアウト)。PC キーボードのタイピング練習方法。
- 第 2 回 Windows10画面構成と基本操作確認。
ファイル管理。(フォルダ及びファイル作成と Moodle からの、ファイル取得と保存の練習。)ブラウザの利用②。G-mail における添付ファイルの扱い。Google ドライブへのファイル保存。情報倫理 (ネット・電子メール利用の基礎知識とマナー)。
- 第 3 回 文書作成①
Word 上での日本語入力 (ローマ字入力と各種変換操作)。
Word 画面構成と基本操作。新規文書作成と既存文書更新。ファイル保存と管理。
- 第 4 回 文書作成②
文書作成／編集における書式設定 (文字書式、段落書式、ページ書式)。
Word で作成する表 (表罫線とセル内書式)
- 第 5 回 文書作成③
オブジェクト (図形、イラスト、画像) の扱い (挿入と加工／文字列との関係)。
- 第 6 回 文書作成課題 (Word 課題)
作成・提出。
- 第 7 回 表計算①
Excel 画面構成紹介。セル／シート／ブック、入力と四則計算 (自動再計算の利用)、セルの書式設定。
- 第 8 回 表計算②
集計表における数式 (四則計算、関数①)、絶対参照と相対参照。

- 第9回 表計算③
関数②。
グラフの作成と編集。
- 第10回 表計算④と文書作成④
分析機能（データベース機能）。
Office 連携（Excel → Word）と利用形式。
- 第11回 表計算課題（Excel 課題）
作成・提出。
- 第12回 プレゼンテーション①
プレゼンテーションと資料の関係。
PowerPoint 概要、スライドの作成①テキスト入力。スライドの追加と削除。
- 第13回 プレゼンテーション②
オブジェクト挿入と加工。
プレゼンテーション機能（スライド切替・アニメーション設定・スライドショー）。
- 第14回 プレゼンテーション③
Office 連携（Excel グラフと表の利用と形式）とプレゼンテーションファイル作成練習。
総合演習準備（総復習）。
- 第15回 総合演習課題
作成・提出。

■ 評価方法

提出課題（8～10回）40%、総合演習課題60%（但し、受講態度に著しく問題がある場合は減点対象とします）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

PC キーボードのタイピングスキルを各自時間と環境を工夫してトレーニングすることを時間外の学習として必須とする。

期初に案内する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」に到達するよう継続して練習すること。講義内で使用したファイルは、必要にクラウド上に保存可能ですが、外部メディア（USB メモリ等）に保存したい場合は自身で用意して持参すること。（USB メモリは各自が使用しやすいもので構わない。他科目との共用も可。各自で使用・管理できるものを持参）

■ 教科書

書名：Office2016で学ぶコンピュータリテラシー（ISBN：978-4-407-34060-0）

著者名：小野目如快

出版社：実教出版

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	医療情報学				
担当者	周藤俊治				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

現代の保健・医療・福祉の分野において欠かせない ICT の活用に必要な基礎知識として①デジタルデータがどのように発生しネットワーク上を流れているのか、②医療機関にどのようなシステムが導入・運用されているのか、③情報の収集や活用に関して講義を行なう。

■ 到達目標

- ①情報に関する計算ができる（情報量（A/D 変換），転送速度）。
- ②保健医療情報システムの概要や、関連法規について説明できる。
- ③データのとりまとめ（代表値，散布度）や統計資料について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 情報学（Ⅰ） 情報とは
- 第2回 情報学（Ⅱ） 情報量の計算について
- 第3回 情報学（Ⅲ） ネットワーク技術について
- 第4回 情報学（Ⅳ） 情報セキュリティ
- 第5回 保健医療情報システム（Ⅰ） 医用画像について
- 第6回 保健医療情報システム（Ⅱ） 電子カルテについて
- 第7回 保健医療情報システム（Ⅲ） 施設内の情報システムについて
- 第8回 保健医療情報システム（Ⅳ） 施設間の情報システムについて
- 第9回 統計基礎（Ⅰ） 尺度・度数分布について
- 第10回 統計基礎（Ⅱ） 代表値について
- 第11回 統計基礎（Ⅲ） 散布度について
- 第12回 医療統計（Ⅰ） 病院の統計資料
- 第13回 医療統計（Ⅱ） 比と率と割合
- 第14回 医療統計（Ⅲ） 相対危険度
- 第15回 医療情報の倫理 医の倫理・情報の倫理・関連法規について

■ 評価方法

学習成果（提出課題や小テスト）で100%とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<http://www.medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

講義資料は適宜配布します

■ 講義受講にあたって

小テストは3回実施の予定です

授業科目	統計学				
担当者	周藤俊治				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

取得したデータを集計し有効に活用するには、統計の基礎を理解するとともに取り扱う能力を身につける必要がある。そこで、本講義では PC を利用しデータを取り扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。

■ 到達目標

PC を用いて代表値や散布度などの指標を算出できる
 PC を用いてわかりやすい表・グラフを作成できる
 推定や検定の内容を理解し適切な検定法を選択できる

■ 授業計画

- 第1回 記述統計（Ⅰ）度数分布表
- 第2回 記述統計（Ⅱ）度数分布図
- 第3回 記述統計（Ⅲ）代表値
- 第4回 記述統計（Ⅳ）散布度
- 第5回 推定（Ⅰ）大数の法則
- 第6回 推定（Ⅱ）中心極限定理
- 第7回 推定（Ⅲ）正規分布による推定
- 第8回 推定（Ⅳ）t 分布による推定
- 第9回 検定（Ⅰ）二標本 t 検定
- 第10回 検定（Ⅱ）一標本 t 検定
- 第11回 検定（Ⅲ）ウィルコクソンの符号順位検定
- 第12回 検定（Ⅳ）カイ二乗検定
- 第13回 検定（Ⅴ）多重比較法
- 第14回 判断分析（Ⅰ）感度・特異度
- 第15回 判断分析（Ⅱ）ROC 曲線

■ 評価方法

学習成果（提出課題や小テスト）で100%とする。
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義情報（<http://www.medbb.net>）および、講義中に配付した資料を基に予習・復習すること。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

講義資料は適宜配布します

■ 講義受講にあたって

PCを用いて授業を行います

授業科目	文学				
担当者	小林 信				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

日本の近現代の文学史を振り返りながら、明治期、大正期、昭和期（戦前・戦後）の代表的作家の作品を読み、その批判的精神を理解する。

■ 到達目標

日本の近現代の文学の代表的作家の作品を読むことを通して、その作家の生き方や人となり、批判的精神を理解し、今後の学生生活ならびに社会生活のなかで必要とされる「自立して生きる力」を養うことをめざす。

■ 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業計画・形態の説明）
自己紹介（興味・関心のある作家、作品、分野など）調べ、発表したい作家を選び記述・発表。
- 第2回 日本の近現代文学史概説（文学思潮、作家、作品など）
- 第3回 (ex) 石川啄木の文学について
時代背景や作品を通して作家像を解説
- 第4回 石川啄木の作品を読む「一握の砂，呼子と口笛，時代閉塞の現状」
（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論（意見の発表）
- 第5回 (1) 森鷗外の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第6回 森鷗外の作品を読む「礼儀小言，当流比較言語学，遺言」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く。）討論。
- 第7回 (2) 夏目漱石の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第8回 夏目漱石の作品を読む「現代日本の開化，イズムの功過，私の個人主義」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第9回 (3) 芥川龍之介の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第10回 芥川龍之介の作品を読む「文芸的な、あまりに文芸的な、或旧友へ送る手記，或阿呆の一生，点鬼簿」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第11回 (4) 永井荷風の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第12回 永井荷風の作品を読む「浮世絵の鑑賞，新婦朝者日記，断腸亭日乗」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第13回 (5) 坂口安吾の文学について
グループでの発表（時代背景や作品を通して作家像を解説）
- 第14回 坂口安吾の作品を読む「墮落論，続墮落論，日本文化私観」
グループでの発表（内容を理解し、主張を読みとり人物像を描く）、討論。
- 第15回 授業のまとめ（反省、課題、調べてみたい作家など）
各自の発表以外の作家1名についての感想（800字以内）

■ 評価方法

平常点 (50%)
発表レジュメ (50%)

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業に関係する作家の作品 (事前に配布) を読んで授業に臨むこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

取り上げられている作家の作品を出来るだけ読んでおくこと

授業科目	教育学				
担当者	川村 光				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

教育とはどのようなものか、教育を行う指導者に求められるものはなにか、指導者が学生に教育を行う学校とはどのようなものなのか、さらには、学校を取り巻く社会とはどのようなものなのかということに関する基礎的な内容について学びます。

■ 到達目標

1. 教育の特徴、指導者に求められる力量、学校の機能、社会構造の変容について説明できる。
2. 授業で取り上げた内容について、自分の意見を主体的に述べるができる。

■ 授業計画

- 第1回 教育学の授業に関するオリエンテーション
- 第2回 話すことと聞くこと①（伝える技術の学修）
- 第3回 話すことと聞くこと②（伝える技術の実践）
- 第4回 教育することの特徴
- 第5回 教育とは何か①（事例をもとに検討）
- 第6回 教育とは何か②（ボノボの事例）
- 第7回 教育とは何か③（まとめ）
- 第8回 教育を取り巻く社会構造の変容
- 第9回 社会構造と家庭教育①（良妻賢母の登場）
- 第10回 社会構造と家庭教育②（昭和の教育ママ）
- 第11回 社会構造と家庭教育③（三歳児神話）
- 第12回 指導者の成長
- 第13回 隠れたカリキュラム
- 第14回 学校の機能
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

授業中に実施する小テスト：60点 小課題：4点×10回

※小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：人にわかりやすく伝える方法と、人の話に耳を傾げるための方法について考えておくこと。また、必要に応じてそれらを表現できるように準備しておくこと。

復習：人に対してわかりやすく伝えることができたのか、人の話に耳を傾げることができたのかということについて振り返りを行うこと。また、必要に応じて振り返りを報告できるように準備しておくこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

グループワークを行ったり、意見を発表したりすることがあります。積極的、主体的に授業に参加してください。また、協働的な姿勢が必要になります。

授業科目	法学概論				
担当者	家 正治				
実務経験者の概要					
学 科 名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

「社会あるところに法あり」という法格言があります。社会規範には道德規範、宗教規範、習俗規範、法規規範などがありますが、それらの中で法規規範はどのような特徴を有するかを把握し、また今日の国内法と国際法が当面する主要問題と課題を考察します。

■ 到達目標

本講義を通じて、国内社会における「人の支配」に対する「法の支配」、また国際社会における「力の支配」に対する「法の支配」について理解することを目指します。そして、その中で、リーガル・マインド、「法的ものの考え方」に接近することにいたします。

■ 授業計画

- 第1回 「法学」を学ぶにあたって
- 第2回 法とは何か — とくに法と道德について
- 第3回 法の発展と法の体系
- 第4回 近代国家と憲法
- 第5回 憲法と国民主権主義
- 第6回 憲法と基本的人権尊重主義
- 第7回 憲法と平和主義
- 第8回 憲法と権力分立（三権分立）
- 第9回 法と裁判 — とくに裁判基準について
- 第10回 国内法と国際法の関係
- 第11回 戦争の違法化と安全保障の法体制
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）
- 第13回 国際経済のシステムと諸課題について
- 第14回 地球環境の保護の法体制
- 第15回 国内社会と国際社会における「法の支配」

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】70%
出席を含む平常点 30%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回授業の始めに若干の時間を割き、国内社会で生起している法的問題を取り上げて検討することいたします。一般新聞の、とくに政治、経済、社会面に留意しておいて下さい。

■ 教 科 書

書 名：法学入門〔最新版〕
著者名：末川博 編
出版社：有斐閣

■ 参考図書

書名：現代法学入門〔最新版〕
著者名：伊藤正己・加藤一郎 編
出版社：有斐閣

■ 留意事項

積極的に質問や意見などの発言を歓迎いたします。

■ 講義受講にあたって

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

授業科目	国際社会と日本				
担当者	家 正治				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

国際社会の構造とその現状を理解し、現代の国際社会が直面する戦争と平和の問題、途上国問題、人権問題、地球環境問題などの全人類的課題をとり上げながら、その中で占める日本の位置と役割について考察します。

■ 到達目標

国際社会の構造や実態を把握し、国際社会を規律している原則や規範について理解し認識するとともに、現代国際社会において日本の占める位置と立場と係わりについて理解できるように努めます。

■ 授業計画

- 第1回 国際社会の成立とそこでの日本
- 第2回 国際社会の発展とそこでの日本の位置と係わり
- 第3回 国際社会を動かす主要なアクターと日本
- 第4回 戦争の違法化と国際紛争の平和的解決（日本の係わりを含めて）
- 第5回 勢力均衡政策から集団安全保障体制へ（日本の係わりを含めて）
- 第6回 平和維持活動（PKO）の役割と日本の位置
- 第7回 軍縮の現状とその阻害要因および日本の役割
- 第8回 日米安全保障体制の展開と現状
- 第9回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 歴史的展開
- 第10回 先進国と途上国をめぐる経済問題 — 現状と実態
- 第11回 人権の国際的保障（国際人権保障）の発展
- 第12回 人権の国際的保障（国際人権保障）と日本
- 第13回 難民問題とその庇護と保護および日本の対応
- 第14回 地球環境の保護と国際協力 -とくに日本の役割について-
- 第15回 今後の国際社会と日本

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（70%）
出席を含む平常点（30%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

国際社会で生起している具体的な事例をとり上げながら、授業を行ないたいと思います。毎日、できるだけ一般新聞の国際面を読むように心掛けて下さい。

■ 教科書

書 名：国際関係〔全訂版〕
著者名：家正治／岩本誠吾／桐山孝信／戸田五郎／西村智郎／福島崇宏 著
出版社：世界思想社

■ 参考図書

書名：国際機構〔第四版〕
著者名：家正治／小畑郁／桐山孝信 編
出版社：世界思想社

■ 留意事項

積極的に質問や意見などの発言を歓迎いたします。

■ 講義受講にあたって

問題意識をもつとともに日常的な勉学への努力を望みます。

授業科目	物理学				
担当者	石井田 啓太				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

症状を科学的に分析し、的確な治療法を決定するのに必要な思考力の基盤となる物理学の知識を学ぶ。特に、身体運動の基本を扱う力学を中心に扱う。

■ 到達目標

多様な症状に関係する物理の法則を見出すことができる能力、更に医療法を改良したり、創造したりすることができる。また、能力の基となる知識を修得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 基本計算・基礎数学の確認（リメディアル理系の内容確認）
- 第2回 力とは 力の合成と分解
- 第3回 物体にはたらく力
- 第4回 質点にはたらく力のつりあい
- 第5回 第1回～第4回の内容について総復習・小テスト
- 第6回 剛体にはたらく力のつりあい
- 第7回 力のモーメントとは 力のモーメントの基本計算
- 第8回 力のモーメントのつりあい
- 第9回 力のモーメントに関する種々の問題
- 第10回 第5回～第9回の内容について総復習・小テスト
- 第11回 力学的エネルギー保存の法則
- 第12回 運動量保存の法則
- 第13回 圧力と浮力
- 第14回 電流と磁場 音波と電磁波
- 第15回 総合演習や復習、まとめ

■ 評価方法

小テスト2回（各15%）

【科目試験（筆記試験）】（70%）に加え、平常点を加味する。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

復習：講義内容の理解を深める為の演習プリントを完成させる
予習は課さないので復習に時間を割きましょう。

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

運動学や治療学の基礎となる科目であるので、十分理解できるように取り組むこと。
無断欠席や遅刻に注意してください。

■ 講義受講にあたって

授業科目	生物学				
担当者	林 研				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体を理解するための、より基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。前半では生物を理解するために最も重要な「細胞」と「遺伝子」について解説します。後半では、それを踏まえた上で動物の身体の様々なたらきを見ていきます。日常的な身体のはたらきが細胞や遺伝子のレベルとそのままつながっていることを理解してください。

■ 到達目標

生物学の基礎的な概念や、用語をしっかりと身に着けることが目標となります。細胞や遺伝子について、またその生体内での具体的なはたらきについての概念を、単なる暗記ではなく、意味を理解した上で使いこなしていけることが望まれます。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、生物とは何か
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞分裂と発生
- 第4回 細胞の分化と幹細胞
- 第5回 神経・筋・骨
- 第6回 遺伝
- 第7回 遺伝子の発現
- 第8回 ゲノム科学
- 第9回 酵素
- 第10回 エネルギーの生成
- 第11回 血液と免疫
- 第12回 内分泌系と自律神経系
- 第13回 恒常性の調節
- 第14回 刺激の受容
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（80%）、小テスト1回（20%）
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回配布する復習問題を、次の週までに解いておくこと。

■ 教科書

書 名：生物学 ヒトと環境の生命科学
著者名：川崎祥二・古庄律 編著
出版社：建帛社

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	福祉住環境論				
担当者	山田 隆人 (実務経験者)				
実務経験者の概要	東大阪市住宅改造助成事業検証活動検証活動員 (NPO 法人への委託事業、平成 22 年 1 月～現在に至る) 「平成 26 年度 福祉用具・住宅改修研修会」, 講師 「住環境調整及び居住支援」研修会講師, 三重県作業療法士会研修会, 2018.10.20 専門作業療法士 (作業療法士協会) 二級建築士免許証				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

OT・PT の職能の一つとして、日常生活活動の支援がある。環境因子である居住環境を改善することで、対象者の生活機能の維持・向上を計ります。本講義では、居住環境の改善に関連する制度や施策、関連する職能との連携および居住環境改善を行う為の基礎知識を学びます。

■ 到達目標

居住環境改善に関する法制度や社会状況を理解する
高齢者や障害者の暮らしの状況を理解する
障害の特性を理解し、環境支援の方法を理解する

■ 授業計画

- 第 1 回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 2 回 介護保険制度の概要
- 第 3 回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 4 回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
- 第 5 回 福祉住環境とマネジメント
- 第 6 回 図面を見る読む
- 第 7 回 建築物の構造と留意点
- 第 8 回 体の大きさと寸法
- 第 9 回 福祉住環境整備の共通基本的技術
- 第10回 生活行為別福祉住環境整備の手法 玄関
- 第11回 生活行為別福祉住環境整備の手法 トイレ
- 第12回 生活行為別福祉住環境整備の手法 浴室
- 第13回 生活行為別福祉住環境整備の手法 その他
- 第14回 住環境整備課題 1
- 第15回 住環境整備課題 2

■ 評価方法

課題提出 (100%), 出席状況 (無断欠席や遅刻は 1 回につき -5点)

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。
教科書は最新版を購入すること。

■ 教科書

書名：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト

著者名：東京商工会議所

出版社：東京商工会議所

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	自然科学概論				
担当者	林 研				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

現代医療は科学であり、医療にたずさわるには、科学的なものの考え方や基本的な科学知識を身に付けておく必要があります。この科目では科学の基礎を押さえるために、①科学とは何かを歴史と哲学から学ぶ、②高校理科の重要なところを改めて確認する、③現代科学の様々な分野を見渡して多様なトピックを知る、という3つの角度からアプローチします。

■ 到達目標

人間の身体を理解する土台となる基礎知識と科学的素養を身につけることが目標となります。科学の各分野の知識を整理し、何か不明なことがあればすぐ調べて理解できる素地が作られることが望めます。また、特にひとつのテーマについてしっかり考えてまとめる論述をできるようになってもらいます。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス、科学の歴史
- 第2回 科学の方法
- 第3回 ニュートンと力学
- 第4回 回転運動と仕事
- 第5回 宇宙と物理
- 第6回 物質
- 第7回 物質の状態
- 第8回 物質の変化
- 第9回 エネルギーと環境
- 第10回 進化と遺伝子
- 第11回 地球科学
- 第12回 人体理解の歴史
- 第13回 脳科学
- 第14回 シミュレーションの科学
- 第15回 科学と社会

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（100%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

補助資料で復習問題を出したときは、各自解いておくこと。

■ 教科書

書 名：使用しません。適宜プリントを配布します。

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	栄養学				
担当者	仲村 祐江 (実務経験者)				
実務経験者の概要	基礎的な栄養素の知識に加え、管理栄養士として病院、クリニックでの栄養指導歴30年以上の経験を生かし、日本人の食生活の移り変わりを解説する。現代の生活習慣病予防のためライフステージごと食事摂取基準を理解する。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	選択

■ 内 容

人体と栄養素の相互作用について栄養学の基礎を学ぶ。体内での栄養素の消化吸收、エネルギー利用や生体の構成材料利用など栄養素の役割と生理や代謝のしくみを学ぶ。

■ 到達目標

1. 栄養学の概念を理解する。
2. 人間が生活活動を維持するために必要な栄養素の役割を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 栄養の概念
- 第2回 タンパク質の栄養1
- 第3回 タンパク質の栄養2
- 第4回 タンパク質の栄養3
- 第5回 糖質の栄養1
- 第6回 糖質の栄養2
- 第7回 糖質の栄養3
- 第8回 脂質の栄養1
- 第9回 脂質の栄養2
- 第10回 脂質の栄養3
- 第11回 消化吸收と栄養素1
- 第12回 消化吸收と栄養素2
- 第13回 ビタミン・ミネラル
- 第14回 食事摂取基準
- 第15回 高齢者の栄養 / まとめ

■ 評価方法

受講態度20%
【科目試験（筆記試験）】80%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

栄養学は、専門用語が多いため授業前にテキストや配布資料に目を通して確認をしておいてください。復習も必ず行い授業内容の理解に努めてください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：基礎栄養学
著者名：奥恒行・柴田克己編集
出版社：南江堂

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

各栄養素が自分の体内において相互作用しあい、健康維持されていることを理解しましょう。

授業科目	基礎ゼミナール				
担当者	専任教員・他				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
	作業療法学専攻	開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

自分自身の療法士として将来像を具体化し、求められる態度、療法士としてのコミュニケーション技能、対象者の理解、リスク管理の概要、プレゼンテーション方法、学習への態度と学習方法などについて、講義とグループ活動を通して学ぶ。

■ 到達目標

1. 自分の将来像をイメージし、早期に大学生としての学習方法や学習に対する構えをつくることができる
2. 療法士として求められる態度・知識・技能を知り、一歩でも近づくための方向付けを行うことができる
3. 他者の意見を理解する能力、自分の考えを整理して表現する能力、情報を収集し整理する力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを修得する
 - ①授業をしっかり聞いてノートがとれる
 - ②時間内で学んだことを図やテーマでまとめることができる
 - ③ディスカッションをして集団で考えをまとめることができる

■ 授業計画

- 第1回 プレイメントテスト（これまでの学習状況を確認しよう）
- 第2回 オリエンテーション（基礎ゼミについて、大学生活に関わる内容について、など）
- 第3回 ソーシャルネットサービスの利用時のマナーと防犯について学ぼう
- 第4回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第5回 違法薬物について学ぼう（薬物乱用防止講演会）
- 第6回 現代社会と基礎経済を学ぼう
- 第7回 先輩セラピストの話を聞いてみよう
- 第8回 先輩セラピストの話を聞いてみよう（ディスカッション・まとめ）
- 第9回 ハラスメントについて学ぼう
- 第10回 療法士としてのリスク管理について学ぼう①
- 第11回 療法士としてのリスク管理について学ぼう②（一次救急救命法 AED の使用方法）
- 第12回 障がいのある当事者の話 1
- 第13回 障がいのある当事者の話 1（ディスカッション・まとめ）
- 第14回 障がいのある当事者の話 2
- 第15回 障がいのある当事者の話 2（ディスカッション・まとめ）
- 第16回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第17回 自分自身のマナーについて見直そう（マナーアップ研修）
- 第18回 興味あるテーマについて調べよう
- 第19回 興味あるテーマについて調べよう
- 第20回 障がいのある当事者の話 3
- 第21回 障がいのある当事者の話 3（ディスカッション・まとめ）
- 第22回 障がいのある当事者の話 4
- 第23回 障がいのある当事者の話 4（ディスカッション・まとめ）
- 第24回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう

- 第25回 興味あるテーマについて調べてレポートしよう
- 第26回 人権研修
- 第27回 人権研修（ディスカッション・まとめ）
- 第28回 国家試験問題を解いてみよう / 目指すセラピスト像となすべきこと ディスカッション
- 第29回 目指すセラピスト像となすべきこと 振り返りとディスカッション
- 第30回 目指すセラピスト像となすべきこと 振り返りとディスカッション

■ 評価方法

ノートの内容、整理された図やテーマの内容、ディスカッションへの参加態度等を毎回10点満点で採点し、最終評価とする。

そのため、欠席するとその日の成績が0点となるため注意すること。

また、基礎ゼミナールの資料集や、講義に必要な資料は持参すること。不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料の準備不足など）は減点対象である。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

「次回の課題」が提示された場合には、取り組んで授業に臨むこと

特に、ディスカッションの前には、自分に考えをまとめておく（各回考えておくべき事項を伝えます）

各授業終了後には、リアクションペーパーの作成により、授業内容を振り返る

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

積極的に参加し、取り組みましょう

講師の都合により日程を変更する可能性があります

授業に欠席した場合は、その日の評価は0点となります。

■ 講義受講にあたって

授業科目	医の倫理				
担当者	桂ノ口結衣				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

「医の倫理」の思想的系譜を概観し、その基本的な考え方および理学療法士・作業療法士の倫理綱領等を知る。そのうえで、現代社会における「医の倫理」の諸問題について、議論の要点を把握するとともに、多様な観点・立場から考察する。

■ 到達目標

1. 「医の倫理」の基本的な考え方について述べるができる。2. 理学療法士・作業療法士の職業倫理について述べるができる。3. 医療における倫理問題について、複数の論点を挙げるができる。4. 現代社会の医療における倫理問題について、対象者の立場ならびに医療者としての自らの立場を意識したうえで、理由とともに説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 「医の倫理」の歴史と、理学療法士・作業療法士の職業倫理
- 第2回 「医の倫理」の基礎理論
- 第3回 医療者-患者関係1：インフォームドコンセント、自己決定
- 第4回 医療者-患者関係2：弱さの尊重
- 第5回 小児医療と高齢者医療における倫理問題
- 第6回 終末期と死に関する倫理問題
- 第7回 医療と社会
- 第8回 筆記試験

■ 評価方法

毎回のコメントペーパー（6×7=42%）、【科目試験（筆記試験）】（58%）。コメントペーパーの課題は、各回の授業内で指示する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

〈第1回～第4回〉

予習：教科書第1章から第3章までをよく読んでおく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

〈第5回～第7回〉

予習：教科書第4章から第10章（特に第6章から第8章）、および第15章・第16章を精読しておく。

復習：配布する課題文を読む。授業のノート・資料を読み返し、重要な概念・論点を説明できるようにする。

■ 教科書

書 名：テキストブック 生命倫理
 著者名：霜田求（編）
 出版社：法律文化社

■ 参考図書

書名：ケアの社会倫理学：医療・看護・介護・教育をつなぐ

著者名：川本隆史編

出版社：有斐閣

■ 留意事項

授業は、すべての受講者のためにあります。したがって、質問や意見は、ささいなものであれ挑戦的なものであれ、歓迎します。私語は、ほかの学生の学習を妨害することになるので、禁止します。

■ 講義受講にあたって

医療・福祉に関わる倫理的・社会的問題はメディアでもよく報道されています。日頃から問題意識をもってそうした情報を得るようにしましょう。また、いまひとつ問題意識がもちにくい場合、どこにその根があるのかを探ってみましょう。

授業科目	チーム医療論				
担当者	井上悟・大西環・辻郁・中村靖子・齋藤典昭・岡崎満希子・大根茂夫・平林容子・林部美紀・足立一・吉田文（すべて実務経験者）				(オムニバス)
実務経験者の概要	オムニバス形式の内、主担当の井上は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院に必須のチーム医療の実際の経験がある。特に医療安全、感染制御等のチームのリスク・マネージャーを経験していた。中村/大根/平林：言語聴覚士として病院などに勤務し、コミュニケーション障害及び嚥下障害の臨床経験がある。齋藤/岡崎：言語聴覚士として施設などに勤務し、小児領域の言語聴覚療法の臨床経験がある。作業療法士は各専門分野の臨床チーム実践が豊富にある。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

今改めて、チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について紹介する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について紹介する。

■ 到達目標

チーム医療が求められる理由とチーム医療の事例、現状について認識する。
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のチームでの役割・業務・等について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 PT：チーム医療とは？ 今更、なぜチーム医療が求められるのか？井上（実務経験者）
 第2回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（摂食嚥下障害）中村（実務経験者）
 第3回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（知的能力障害）齋藤（実務経験者）
 第4回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（発達障害）岡崎（実務経験者）
 第5回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（運動障害性構音障害）大根（実務経験者）
 第6回 ST：言語聴覚療法の基礎とチームでの役割（失語症）平林（実務経験者）
 第7回 OT：作業療法の専門性（辻）（実務経験者）
 第8回 OT：メイクアップを切り口としたチーム実践の実際（林部）（実務経験者）
 第9回 OT：スポーツを切り口としたチーム実践の実際（足立）（実務経験者）
 第10回 OT：動物介在を切り口としたチーム実践の実際（吉田）（実務経験者）
 第11回 OT：事例検討演習（辻）（実務経験者）
 第12回 PT：チームモデルとチーム医療の条件：井上（実務経験者）
 第13回 PT：チーム医療実践具体事例1：医療安全・感染制御：井上（実務経験者）
 第14回 PT：チーム医療実践具体事例2：がん、呼吸・循環器：井上（実務経験者）
 第15回 PT：チーム医療実践具体事例3：リハビリテーション・チーム：井上（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験またはレポート）】 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書 名：絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで 第2版
 著者名：毛東真知子
 出版社：Gakken 2376円

■ 参考図書

書名：チーム医療を成功させる10か条
著者名：福原麻希
出版社：中山書店, 2013年,3150円（最新版で）

■ 留意事項

オムニバスのため、各回の講義内容、順序・等については変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

授業科目	障害者スポーツ入門				
担当者	島 雅人 (実務経験者)・相原一貴 (実務経験者)・足立一 (実務経験者)・山田隆人 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・島 雅人：日本パラリンピック委員会 スポーツ医・科学・情報サポート事業 バイオメカニクス担当 (公財) 日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員 (2015～) スペシャルオリンピックス日本 認定コーチ (MATP 2010～、ユニファイドサッカー 2016～)、スポーツコーチ (2017～)、ローカルトレーナー (2018～) ・相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 ・足立 一：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) ・山田隆人：(公財) スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ (2016～) 				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	自由選択

■ 内 容

障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて、講義と実技実習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障がいに応じたスポーツの工夫や、障がい者との交流をはかり、障がい者スポーツ指導者としての導入を図る。本講義を履修することで、地域の障がい者で初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。島 雅人 (実務経験者)、相原一貴 (実務経験者)、足立一 (実務経験者)、山田隆人 (実務経験者)

■ 到達目標

1. 障がい者福祉施策と障がい者スポーツについて概説できる。
2. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる。
3. 身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解できる。
4. 日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる。
5. 障がい者との交流をはかり、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できる。

■ 授業計画

- 第1回 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ 1 (0.5)、障がい者スポーツの意義と理念 1 (1.0)：島 (実務経験者)
- 第2回 障がい者スポーツの意義と理念 (1.0)、文化としてのスポーツ (0.5)：島 (実務経験者)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (1.5)：足立 (実務経験者)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義 (0.5)：足立 (実務経験者)
(公財) 日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度 (1.0)：足立 (実務経験者)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1.0) 安全管理 1 (0.5)：山田 (実務経験者)
- 第6回 安全管理 2 (0.5) ボランティア論 1 (1.0)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第7回 ボランティア論 2 (1.0)、スポーツと栄養 (0.5)：相原 (実務経験者)
- 第8回 スポーツと心理 (1.5)：足立 (実務経験者)
- 第9回 障がいの理解とスポーツ (身体、知的、精神、視覚など) (1.5)：山田 (実務経験者)
- 第10回 障がい者のスポーツ指導における留意点 1 (1.5)：山田 (実務経験者)
- 第11回 全国障害者スポーツ大会の概要 (1.0) 島 (実務経験者)
全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (0.5) 島 (実務経験者)
- 第12回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第13回 障がいに応じたスポーツの工夫・実施 (実技) (1.5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第14回 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)：島・相原・足立 (実務経験者)・山田 (実務経験者)
- 第15回 障がい者との交流 (実技) 学外 (1.5)：島・相原・足立 (実務経験者)・山田 (実務経験者)

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】50% 、 課題レポート50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書 名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>

著者名：(公財)日本障がい者スポーツ協会 編

出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書 名：よくわかる障がい者スポーツ

著者名：藤田紀昭

出版社：PHP

書 名：みんなちがってそれでいい

著者名：宮崎 恵理 重本 沙絵

出版社：ポプラ社

書 名：スポーツでひろげる国際理解 5 知ろう・やってみよう障がい者スポーツ

著者名：中西 哲生

出版社：文溪堂

書 名：パラリンピックとある医師の挑戦

著者名：三枝義浩（著）

出版社：講談社

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。

欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

授業科目	障害者スポーツ指導論				
担当者	島 雅人 (実務経験者)・相原一貴 (実務経験者)・足立一 (実務経験者) 山田隆人 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・島 雅人：日本パラリンピック委員会スポーツ医・科学・情報サポート事業バイオメカニクス担当(公財)日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導員(2015～)スペシャルオリンピックス日本 認定コーチ(MATP 2010～、ユニファイドサッカー2016～)、スポーツコーチ(2017～)、ローカルトレーナー(2018～) ・相原一貴：理学療法士として病院やデイサービス等で実務経験あり。 ・足立一：(公財)スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ(2016～) ・山田隆人：(公財)スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドサッカー 認定コーチ(2016～) 				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	自由選択

■ 内 容

障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域における障がい者スポーツのリーダー的役割が担えるよう、知識と技術の習得を図る。障がい者スポーツ指導における留意点や心理的側面について学ぶ。全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障がい区分に関する理解を座学にて学習する。全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につける。

島 雅人 (実務経験者)、相原一貴 (実務経験者)、足立一 (実務経験者)、山田隆人 (実務経験者)

■ 到達目標

1. 障がい者スポーツ指導に関する専門的な知識と技術を身につけることができる。
2. 障がい者スポーツ指導に留意点や心理的側面について理解することができる。
3. 全国障害者スポーツ大会の歴史、目的と意義、実施競技、障害区分を理解できる。
4. 全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習を通して知識と技術を身につけることができる。

■ 授業計画

- 第1回 文化としてのスポーツ (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第2回 障がい者のスポーツ指導における留意点 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第3回 全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第4回 全国障害者スポーツ大会の実施競技 (1. 0)、全国障害者スポーツ大会の障害区分 (0. 5)：島 (実務経験者)
- 第5回 全国障害者スポーツ大会の障害区分 (1. 5)：島 (実務経験者)
- 第6回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)：山田 (実務経験者)・島 (実務経験者)
- 第7回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 陸上 (1. 5)：山田 (実務経験者)・島 (実務経験者)
- 第8回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第9回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 サッカー (1. 5)：山田 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第10回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第11回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 グランドソフトボール (1. 5)：島 (実務経験者)・相原 (実務経験者)
- 第12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (実技) 学外 水泳 (1. 5)：島 (実務経験者)

- 第13回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実技）学外 水泳（1. 5）
：島（実務経験者）
- 第14回 最重度障がい者のスポーツの実際（実技）学内 ボッチャ 他（1. 5）
：島（実務経験者）・足立（実務経験者）
- 第15回 最重度障がい者のスポーツの実際（実技）学内 ボッチャ 他（1. 5）
：島（実務経験者）・足立（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】50% 、 課題レポート50%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の講義前までに、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

日頃から障がい者スポーツに関する情報を意識して得るようにしてください。テレビやインターネットで多くの情報を得ることができます。また、地域や大学が主催するイベントに参加して、できる限り障がい者スポーツに関わる機会を多く設定してください。実体験を通じて障がい者スポーツの魅力を感じ、自分自身が出来ることについて考え行動することを望みます。

■ 教科書

書名：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>
著者名：（公財）日本障がい者スポーツ協会 編
出版社：ぎょうせい

■ 参考図書

書名：パラスポーツルールブック パラリンピックを楽しもう
著者名：陶山 哲夫（監修），コンデックス情報研究所（編著）
出版社：清水書院

書名：発達障がい児の感覚を目覚めさせる運動発達アプローチ タイプ別やる気スイッチが入る運動あそび
著者名：森嶋 勉
出版社：合同出版

書名：身体と動きで学ぶスポーツ科学 運動生理学とバイオメカニクスがパフォーマンスを変える
著者名：深代千之（著），内海良子（著）
出版社：東京大学出版会

書名：地域生活からみたスポーツの可能性：暮らしとスポーツの社会学
著者名：後藤貴浩
出版社：道和書院

書名：よくわかるスポーツマネジメント
著者名：柳沢 和雄（編著），清水 紀宏（編著），中西 純司（編著）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

本科目は、中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するために必修となる科目である。
欠席した場合は資格取得が出来なくなるため、出席に関しては十分注意すること。

■ 講義受講にあたって

実技の内容を含む講義日は学校指定のジャージを着用すること。

授業科目	スポーツ医学				
担当者	佐藤 睦美・他				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT:必修/OT:自由

■ 内 容

スポーツによる傷害、内科的疾患、トレーニングや栄養についての基礎を学ぶ

■ 到達目標

スポーツ活動の場において、医療スタッフ・指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得する

■ 授業計画

- 第1回 スポーツ傷害総論
- 第2回 スポーツと栄養
- 第3回 トレーニング
- 第4回 数字から見るスポーツ
- 第5回 アスレチックリハビリテーション
- 第6回 スポーツ現場におけるサポート①
- 第7回 スポーツ現場におけるサポート②
- 第8回 スポーツ現場におけるサポート③

■ 評価方法

講義内課題・レポート 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義で学んだ内容をしっかりと復習すること

■ 教科書

書 名：教科書指定無し（配布資料で講義を行う）

■ 参考図書

書 名：やさしい学生トレーナーシリーズ4 新・スポーツ医学
 著者名：メディカル・フィットネス協会（監修）
 出版社：嵯峨野書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

連絡事項は Moodle の科目ページを通じて行うので、各自確認を怠らないこと

授業科目	リハビリテーション概論				
担当者	井上悟（実務経験者）				
実務経験者の概要	担当者は30年間大学病院での臨床経験があり、急性期病院におけるリハビリテーション医療の実際の経験がある。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

リハビリという言葉は、一般社会でも非常によく使われるようになった。通常、疾病や外傷によって生じた障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域を示しているに過ぎない。リハビリテーション本来の理念を歴史的背景を含め紹介する。

■ 到達目標

リハビリテーション (rehabilitation) を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。

■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションとは？（講義オリエンテーション含）
- 第2回 リハビリテーションの概念・理念・定義
- 第3回 健康・疾病・障害の概念と分類
- 第4回 障害論（国際障害分類、国際生活機能分類）
- 第5回 廃用症候群とは
- 第6回 障害の心理と障害受容
- 第7回 リハビリテーションの過程（評価とは？ 評価学の重要性）
- 第8回 リハビリテーションの諸段階1：医学的・職業的リハビリテーション
- 第9回 リハビリテーションの諸段階2：社会的・教育的リハビリテーション
- 第10回 医療とリハビリテーションに関わる諸問題
- 第11回 チーム・アプローチ（リハ専門職の役割、評価と記録の重要性）
- 第12回 ADL,QOL の概念と評価法
- 第13回 地域リハビリテーションと高齢者対策
- 第14回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律1
- 第15回 リハビリテーションを支える社会保障制度と法律2

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験またはレポート）】 70%、授業態度 30%で総合評価します。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと

■ 教科書

書 名：リハビリテーション概論（第3版）
 著者名：上好秋孝・田島文博
 出版社：永井書店，2014年（最新版で）,3000円税別

■ 参考図書

■ 留意事項

指定の教科書は後期開講のリハビリテーション医学の参考書として利用可能。各回の講義テーマ、内容については関連する講義の進捗状況により変更することがあります。

■ 講義受講にあたって

授業科目	リハビリテーション医学				
担当者	非常勤講師				
実務経験者の概要	医療機関において、医師として業務に従事している。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

リハビリテーション医学の目的は、病気や外傷により生じた障害を医学的に診断・治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することです。主な対象となる疾患を紹介し、どのように目的を達成していくかを受講者とともに考えます。

■ 到達目標

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができ、リハビリテーション関連職種 of 専門家をを目指すための明確な動機付けができることを期待しています。

■ 授業計画

- 第1回 障害の評価（主に神経学的所見の取り方・診かた）
- 第2回 脳卒中各論①（脳梗塞・診断）
- 第3回 脳卒中各論②（脳梗塞・治療）
- 第4回 脳卒中各論③（出血性脳卒中）
- 第5回 脳卒中各論④（脳卒中のリハビリテーションⅠ）
- 第6回 脳卒中各論⑤（脳卒中のリハビリテーションⅡ）
- 第7回 脊髄損傷①
- 第8回 脊髄損傷②
- 第9回 末梢神経障害
- 第10回 神経変性疾患
- 第11回 骨・関節疾患
- 第12回 内部疾患（循環器・呼吸器）
- 第13回 小児疾患
- 第14回 高齢者のリハビリテーション・まとめ①
- 第15回 まとめ②
- 第16回 <試験>

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】 80%、小テスト 20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業後も、教科書（資料が配布された場合はその資料も）を参考にして復習すること。

■ 教科書

書名：リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版
著者名：三上真弘（監修）、出江紳一・加賀谷斉（編）
出版社：南江堂

■ 参考図書

書名：リハビリテーション概論 改訂第3版
著者名：上好昭孝、田島文博（編）
出版社：永井書店

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

私語や無断で席を離れるなど、他の受講者および講師の迷惑になる行為は、言うまでもなく厳禁です。多職種での協力が大事である医療・福祉・介護分野で働くための最低限の常識やマナーを身につけて講義に臨んでください。

授業科目	介護概論				
担当者	橋本 卓也				
実務経験者の概要	通所・訪問リハビリテーション及び福祉サービスを提供している福祉施設において障害当事者が安寧に、また自律（自立）して暮らせる介護・介助の実践や介護者に対する指導・助言等を行ってきた。特に重度障害者に対しては、自律の視点から、また、認知症高齢者についてはパーソンセンタードケアに基づいた介護・介助の在り方を実践・提供してきた				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

近年、重視されている「キュアからケアへ」という概念に内包されている「治療から全人間的ケアへ」「医学モデルから生活・社会モデルへの転換」という視点を共有するとともに、介護・介助実践におけるジレンマについても考察・言及する。また、重い障害をもつ人たちから提起された「介助者手足論」という考え方を通して利用者の尊厳を支えるケアのあり方や自立（自律）支援を目指すケアについて理解を深める。さらに「認知症」800万人時代といわれている現代における認知症高齢者に対する「家族介護」「在宅介護」のあり方を考える。

■ 到達目標

- ①日本が抱える介護問題の実態及びその要因について理解することができる。
- ②利用者本位、当事者本位の視点にたった介護・介助のあり方について考察することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本が抱える介護問題の背景（日本の近代化と少子・高齢化問題）
- 第2回 介護の原理性（介護の本質及び全人間的視点にたったケアのあり方について）
- 第3回 介護・介助実践を通して生起するジレンマについて
- 第4回 アシュリー事件を通して見えてくる重い障害をもつ人たちに対する介助のあり方・価値等について
- 第5回 感情労働としてのケアワークについて
- 第6回 「介助者手足論」という理論から見えてくる利用者本位の視点に立ったケアのあり方とは
- 第7回 グリーフケアについて
- 第8回 認知症高齢者に対する家族介護・在宅介護のあり方について（NHKの映像を通して）

■ 評価方法

授業中に課すレポート（3回）:100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護問題に関する記事・ニュース等について関心をもつこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：①母よ殺すな②アシュリー事件
著者名：①横塚晃一②児玉真美
出版社：①生活書院②生活書院

■ 留意事項

授業への積極的参加を望む。介護者－被介護者両者の視点から介護（介助）の在り方を学ぶこと

■ 講義受講にあたって

授業科目	疫学・公衆衛生学				
担当者	白井 文恵				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学について学習する。

■ 到達目標

健康に生活するとはどのようなことか、健康に生活することを保障する社会の仕組みについて理解する。

■ 授業計画

- 第1回 衛生学・公衆衛生学序論
- 第2回 保健統計
- 第3回 疫学
- 第4回 疾病予防と健康管理
- 第5回 主な疾病の予防、環境保健
- 第6回 母子保健、学校保健
- 第7回 高齢者の保健・医療・介護、精神保健
- 第8回 まとめ

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業後に教科書を読んでおくこと

■ 教科書

書 名：シンプル公衆衛生学2019
出版社：南江堂

■ 参考図書

書 名：厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2019/2020
出版社：厚生労働統計協会

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	障害者福祉論				
担当者	橋本 卓也				
実務経験者の概要	知的障害児入所施設において4年（指導員）、通所リハ・訪問リハ系の総合福祉施設において17年間、医療・福祉的視点から作業療法士並びに社会福祉士として障害者の方々の地域生活・就労支援等を行ってきた。現在も「障害者自立生活支援センター（2カ所）」の運営委員・監事を行っている				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

障害者福祉に関する理念・価値・法制度及び障害構造等を体系的に理解するとともに障害をもつ人たちの生活・教育・雇用・施設環境等の実態を通して彼らを排除する社会構造への関心と支援のあり方を模索する。また、障害をもつ人たちがおかれている現状を把握し、「医学モデル」という狭義の捉え方ではなく、「生活・社会モデル」の視点からこの問題を考える。

■ 到達目標

- ①障害者福祉の理念・価値及び障害をもつ人たちの生活実態を把握することができる。
- ②障害をもつ人たちの生活ニーズを解決するための制度・施策等を把握し、支援のあり方を考察することができる。
- ③障害者福祉に関する医学モデルと生活・社会モデルの差異を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
障害者福祉の理念及び価値
- 第2回 障害者の法的定義と日本の障害者の実態
- 第3回 日本の障害者福祉施策体系
- 第4回 障害者の雇用・就労の現状と課題
- 第5回 障害者の所得保障と経済的負担軽減
- 第6回 障害者制度・施策の変遷（支援費制度から障害者総合支援法へ）
- 第7回 障害者施設論（世界の情勢と課題及び地域移行について）
- 第8回 障害者の権利擁護と障害者虐待防止法（権利侵害の実態と要因）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：よくわかる障害者福祉
著者名：小澤 温（編）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

当該科目は、スポーツ指導員（初級）に必要な科目である。欠席すると取得が難しくなるため健康管理等に留意して欠席がないように心がけること。

■ 講義受講にあたって

授業科目	老人福祉論				
担当者	橋本 卓也				
実務経験者の概要	通所・訪問系施設においてデイケア企画や訪問リハビリテーションを通じて要介護高齢等の生活支援を行ってきた。現在も介護保険研修の講師、地域ケア会議等のスーパーバイザーを行っている				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

現代日本の高齢者を取り巻く現状と福祉課題を考察するとともに介護保険制度、地域包括ケアシステムについて理解する。また、権利擁護の視点から高齢者に対する虐待・孤立死等の要因を探る。更に国の認知症施策としてある認知症祖初期集中支援チームについても学ぶ。

■ 到達目標

- ①高齢者福祉の社会的背景、理念、目標等について理解することができる。
- ②介護保険を中心とする高齢者福祉施策と、それに基づいた様々な施策と具体的実践について説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本の高齢者の実態と高齢者を取りまく現状
- 第2回 介護保険制度について
- 第3回 地域包括ケアシステムについて
- 第4回 認知症の症状と日本の現状
- 第5回 認知症初期集中支援チームについて
- 第6回 孤独死・孤立死の現状について
- 第7回 セルフ・ネグレクトについて
- 第8回 地域における見守りネットワークについて

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】80% 小テスト20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと。

■ 教 科 書

■ 参考図書

書 名：高齢者に対する支援と介護保険制度
著者名：岡田進一 橋本正明（編著）
出版社：ミネルヴァ書房

■ 留意事項

授業に対して積極的な参加を望む（態度、発言、小テストへの取り組みなど）

■ 講義受講にあたって

授業科目	感染症学				
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)				
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として各種感染症を含む診療業務に従事している。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

感染症と人・微生物との関わり、感染防御機構、感染症の検査と診断、治療、そして感染予防策について学習する。感染症は、リハビリテーション領域において、特に注意が必要であり、各種感染症について基本的理解ができるように解説する。

■ 到達目標

1. 微生物と感染症、感染防御機構について基本的理解ができる
2. 代表的な感染症について、病原微生物とその感染経路、臨床像、診断と治療法を理解する
3. 院内感染および感染予防対策について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 感染症総論 (1) 微生物と感染症、感染防御機構
 第2回 感染症総論 (2) 感染症の検査と診断、感染症の治療
 第3回 感染症各論 (1) 呼吸器感染症、結核
 第4回 感染症各論 (2) 消化器感染症、食中毒、肝炎
 第5回 感染症各論 (3) 尿路感染症、性感染症、皮膚・粘膜の感染症
 第6回 感染症各論 (4) 人獣共通感染症、寄生虫感染症、新興感染症、感染症トピックス
 第7回 感染制御学 (1) 院内感染、薬剤耐性菌、標準予防策、感染経路別予防策
 第8回 感染制御学 (2) リハビリテーション業務における感染対策、国家試験対策

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)】 80% 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書 名：臨床微生物、医動物 (NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 3)
 著者名：矢野久子、安田陽子
 出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：病原体・感染・免疫 第2版
 著者名：藤本秀士
 出版社：南山堂

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 講義受講にあたって

授業科目	医療安全学				
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)				
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として医療安全業務を含む診療業務に従事している。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療職を取りまく社会的環境を理解する。次に、事故発生のメカニズムと事故分析、事故対策について学習する。また、事故事例の分析を通して医療機関における安全対策のありかたについて考える。

■ 到達目標

1. 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する
2. 事故の発生要因について説明できる
3. 医療機関における安全対策を説明できる

■ 授業計画

- 第1回 医療事故の疫学、頻度、医療事故事例の紹介
- 第2回 医療事故の定義、分類、医療事故の報告制度
- 第3回 医療事故発生のメカニズム
- 第4回 医療事故分析、事故対策
- 第5回 医療機関における安全対策 (1)
- 第6回 医療機関における安全対策 (2)
- 第7回 医療事故後の対応、医療事故に関する法的責任
- 第8回 リハビリテーション業務における安全対策

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)】70%、提出課題 30%、

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書 名：医療安全 (NURSING GRAPHICUS 看護の統合と実践 2)
 著者名：松下由美子、杉山良子、小林美雪
 出版社：MC メディカ出版

■ 参考図書

書 名：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン
 著者名：日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会
 出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 講義受講にあたって

授業科目	基礎解剖学				
担当者	永瀬 佳孝 (実務経験者)				
実務経験者の概要	歯科医師としての実務経験があり、大阪大学、北海道医療大学、森ノ宮医療大学、宝塚医療大学での解剖学、神経解剖学、神経生理学の研究を実施				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に学ぶ。

■ 到達目標

人体構造の基礎的知識を覚えている。
運動器系や神経系の解剖学を学ぶための基礎を作る。

■ 授業計画

- 第1回 解剖学総論、基礎医学を学ぶ意味
1. 細胞・組織・器官・系 2. 肉眼解剖と組織学 3. 系統解剖と局所解剖学 4. 発生学 5. 体表解剖学 6. 人体の正常・異常・個体差 7. 解剖学的姿勢 8. 基本的な解剖学用語
- 第2回 骨学総論 1. 骨の肉眼的構造 2. 髄腔と骨髓 3. 体腔
- 第3回 関節靭帯学総論
1. 線維性連結 2. 軟骨性連結 3. 滑膜性連結 4. 関節の一般構造 (関節包、滑膜、滑液)
5. 関節の特殊構造 (関節円板、関節半月、関節靭帯、関節唇)
- 第4回 筋学総論
1. 筋の分類 (平滑筋と横紋筋) 2. 随意筋と不随意筋 3. 骨格筋の基本形態 4. 腱と腱膜 5. 筋の附着 (起始と停止) 6. 筋の作用 (屈曲・伸展、内転・外転、内旋・外旋) 7. 主動筋、拮抗筋、協力筋 8. 骨格筋の補助装置 (筋膜、支帯、筋間中隔、筋滑車、滑液包、腱鞘)
- 第5回 神経学総論1
1. 中枢神経系と末梢神経系 2. 求心性神経と遠心性神経 3. 白質と灰白質 4. 神経細胞 (神経細胞体、樹状突起、軸索、髄鞘) 5. 神経線維と神経
- 第6回 神経学総論2
1. 脊髄の白質と灰白質 (前柱、後柱、前索、側索、後索) 2. 脊髄の区分 (頸髄～尾髄) 3. 脊髄髄節と脊髄神経 (髄節、前根と後根、前枝と後枝)
- 第7回 組織および胚葉
1. 組織 (上皮組織、支持組織) 2. 胚葉 (外胚葉、中胚葉、内胚葉) 3. 三層性胚盤と器官・組織形成
- 第8回 循環器系総論
1. 血管系の役割 2. 血管 (動脈・毛細血管・静脈の構造) 3. 動脈・静脈と動脈血・静脈血 4. 吻合 5. 終動脈
- 第9回 心臓
1. 心筋細胞 2. 心臓の位置 3. 心臓を包む膜 4. 心臓の内腔 (心房と心室) 5. 肺循環と体循環
- 第10回 心臓 (続き)
1. 房室弁 (腱索と乳頭筋、左房室弁・右房室弁) 2. 動脈弁 (肺動脈弁・大動脈弁) 3. 心臓の血管 (冠状動脈、冠状静脈洞)
- 第11回 動脈系
1. 大動脈 2. 大動脈弓 (腕頭動脈、左総頸動脈、左鎖骨下動脈) 2. 頭頸部に分布する動脈 3. 上肢帯と上肢に分布する動脈 4. 胸部内臓・腹部内臓に分布する動脈

第12回 動脈系 (続き)

1. 脳の動脈

第13回 胎児循環

1. 胎盤
 2. 臍静脈と臍動脈
 3. 静脈管(アランチウス管)
 4. 卵円孔
 5. 動脈管(ボタロー管)
- リンパ系
1. リンパ管とリンパ節
 2. 胸管
 3. 右リンパ本幹
 4. 脾臓

第14回 呼吸器系

1. 鼻腔
2. 咽頭と喉頭
3. 気管・気管支
4. 肺・胸膜
5. 呼吸筋

第15回 消化器系

1. 口腔
2. 咽頭
3. 食道
4. 胃・腸管

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験) 60%】 毎回授業ノートを提出40%: 未提出あるいは不完全なものの提出は減点の対象(一回につき, -5点)

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

予習: 指定した教科書の範囲を手書きでノートにまとめてくること。(2時間)

復習: 授業の終わりに指定した事項を覚えること。(2時間)

■ 教科書

書名: 解剖学 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)

著者名: 野村 巖 (編)

出版社: 医学書院 (ISBN-13: 978-4260020084)

■ 参考図書

■ 留意事項

体調管理も能力に含まれるので、遅刻・欠席には注意すること。

呼名している時間があったいないので、授業終了時のノート提出により出席とする。

■ 講義受講にあたって

臨床実習において学習不十分を実感する学生が多いので、解剖学・生理学はすべての基本となるので、しっかり勉強すること。

授業科目	解剖学基礎実習				
担当者	山田 隆人				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は、作業療法支援を行う上で必要となる。講義では、骨格、関節靭帯、筋系の形態を機能に関連付けて理解を深める。

■ 到達目標

骨格の位置や構造、作用を理解できる
 関節靭帯の構造や作用を理解できる
 筋の位置や構造、作用を理解できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、解剖学総論
- 第2回 骨学総論
- 第3回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭
- 第4回 骨学各論：上肢、下肢
- 第5回 関節靭帯総論
- 第6回 頭頸部、体幹の関節と靭帯
- 第7回 上肢の関節と靭帯
- 第8回 下肢の関節と靭帯
- 第9回 筋学総論
- 第10回 上肢帯、上肢の筋
- 第11回 前腕・手の筋
- 第12回 下肢帯・大腿の筋
- 第13回 下腿・足の筋
- 第14回 頭頸部の筋
- 第15回 胸腹部・背部の筋

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）50%】 課題及び実技テスト50% 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

実技と教科書資料を確認しておくこと

■ 教科書

書 名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版
 著者名：野村巖 編集
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス

著者名：相磯貞和 訳

出版社：南江堂

■ 留意事項

基本的な人体の構造を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。

作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	運動器系の解剖学				
担当者	山田 隆人				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。

■ 到達目標

運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。

■ 授業計画

第1回 全身骨格とその分類

1. 骨の標本を使って全身骨格を作る。
2. 全身骨格を軸骨格と付属性骨格に分ける。
3. 付属性骨格をさらに分類する。
4. 海綿骨と緻密骨を区別する。

第2回 脊柱と体表解剖学

1. 椎骨の基本構造。
2. 頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨について観察する。
3. 自分自身の体で椎骨を触知する。

第3回 上肢帯骨と体表解剖学

1. 肩甲骨の各部を観察する。
2. 鎖骨の各部を観察する。
3. 肩甲骨と鎖骨を触知する。
4. 肩甲骨と鎖骨の動きを理解する。

第4回 胸郭と体表解剖学

1. 胸骨の各部
2. 胸骨角
3. 肋硬骨と肋軟骨
4. 真肋と仮肋
5. 肋骨の各部
6. 第一肋骨（前斜角筋結節と鎖骨下動脈溝）
7. 頸肋と腰肋
8. 胸骨と肋骨の触知

第5回 自由上肢と体表解剖学

1. 上腕骨の各部
2. 橈骨の各部
3. 尺骨の各部
4. 手の骨
5. 手根溝
6. 自由上肢骨の触知

第6回 脊柱と胸郭の連結

1. 椎骨間の連結
2. 椎間板
3. 環軸関節（正中環軸関節と外側環軸関節、環椎十字靭帯）
4. 胸郭の連結
5. 肩鎖関節
6. 胸鎖関節

第7回 上肢の関節と靭帯

1. 肩関節
2. 腕尺関節
3. 腕橈関節
4. 上橈尺関節
5. 下橈尺関節
6. 手関節
7. 手根中手関節
8. 中手指節関節
9. 指節間関節

第8回 下肢帯骨と骨盤

1. 寛骨
2. 腸骨
3. 坐骨
4. 恥骨
5. 骨盤

第9回

1. 大腿骨
2. 脛骨
3. 腓骨
4. 膝蓋骨
5. 足の骨

第10回 股関節と仙腸関節

1. 股関節の構造と動き
2. 仙腸関節の構造と動き

第11回 膝関節、脛腓関節と足関節

1. 膝関節の構造と動き
2. 脛腓関節の構造と動き
3. 足関節の構造と動き

第12回 頭蓋骨その1

1. 頭蓋を構成する骨
2. 頭蓋骨の連結
3. 泉門

第13回 頭蓋骨その2

1. 眼窩 2. 鼻腔 3. 副鼻腔 4. 側頭下窩 5. 翼口蓋窩 6. 顎関節

第14回 総復習1

復習のための練習問題とその解説

第15回 実技試験

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)50%】小テスト 40% 実技試験 10% 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

毎授業内容についての小テストを次回の講義時間に実施します。小テストまでに、授業で確認した内容を各自復習を行って下さい。

身体構造である解剖学的な視点に加え、運動学的な視点、触診などを演習的に行っていく予定である。触診などの技術的な内容は、必ず復習して置くこと。実技テストでは、触診などの技術的な内容を確認する。

■ 教科書

書名：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版

著者名：野村巖 編集

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

基本的な人体の構造を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。

作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	神経系の解剖学				
担当者	大井康浩				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

中枢神経系および末梢神経系の構成および機能を理解し、感覚（上行路）、運動（下行路）の伝導路を学ぶ

■ 到達目標

解剖学は他の医療系科目の基礎となる重要な科目であり、神経解剖学を学ぶことにより、中枢神経系、末梢神経系の神経系疾患、リハビリテーションを理解を助けるための基礎をつくる。

■ 授業計画

- 第1回 髄膜、脳室、脳脊髄液脊髄：各部の名称、前根、後根
- 第2回 大脳：1. 溝、回、葉 2. 大脳皮質 3. ブロードマン野 4. 運動野、体性感覚野 5. 優位半球 6. 神経線維の種類
- 第3回 大脳：大脳基底核、内包、大脳辺縁系[扁桃体]
- 第4回 大脳辺縁系[海馬]
間脳：視床上部、視床、視床下部
中脳：中脳蓋、中脳被蓋、大脳脚
- 第5回 橋：橋底部、橋被蓋
延髄：オリーブ、錐体交叉、網様体
小脳：構造（皮質・髄質・小脳核）とその機能
- 第6回 末梢神経系：脊髄神経前枝、脊髄神経後枝
- 第7回 末梢神経系：腕神経叢
- 第8回 末梢神経系：脳神経 《嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経
- 第9回 末梢神経系：脳神経 《顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経》
自律神経系： 交感神経、副交感神経
- 第10回 下行性伝導路： 錐体路、錐体外路（パーキンソン氏病）、反射
- 第11回 上行性伝導路：温痛覚、非識別性触圧覚、識別性触圧覚・深部感覚
- 第12回 上行性伝導路：1. 無意識的な深部感覚：脊髄小脳路・副楔状束小脳路 2. 関連痛
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習
- 第15回 総復習

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

質問はいくらでもして下さい。復習を毎回行い、自分で調べて理解して下さい。

■ 教科書

書名：PT・OT・STのための解剖学

著者名：渡辺正仁 監修

出版社：廣川書店

■ 参考図書

書名：消って忘れない解剖学（PT・OT 必修シリーズ）

著者名：井上 馨、松村 讓兒

出版社：羊土社

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	内臓系の解剖学				
担当者	赤松 香奈子・今野 雅允				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連機関と合わせて理解する。適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
呼吸器系；鼻腔、咽頭
- 第2回 呼吸器系；喉頭、声帯、気管
- 第3回 呼吸器；胸腔、肺
- 第4回 消化器系；口腔、歯列、唾液腺、舌
- 第5回 消化器系；食道、胃
- 第6回 消化器系；小腸、大腸
- 第7回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第8回 消化器系；後腹膜臓器、消化管の脈管
- 第9回 泌尿器系；腎臓
- 第10回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第11回 生殖器系；男性生殖器
- 第12回 生殖器系；女性生殖器
- 第13回 内分泌系；視床下部と脳下垂体、甲状腺、副腎、精巣と卵巣、膵臓
- 第14回 感覚器系；視覚器
- 第15回 感覚器系；聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器
テスト前総復習

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに復習プリントを配布するので、復習しておくこと。講義で配布する資料のみでなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。

■ 教科書

書 名：PT・OT・STのための解剖学
著者名：渡辺 正仁
出版社：廣川書店

■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス 原書第6版
著者名：F.H.Netter
出版社：南江堂

■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと

■ 講義受講にあたって

解剖学は今後学ぶ科目の基礎科目である。ここで理解できていないとのちに学ぶ科目の理解が困難となること間違いなし。単なる暗記にとどまらず、人間全体の生活や疾病と合わせて、人体への学びを深めていけるようにする。

授業科目	内臓系の解剖学				
担当者	赤松 香奈子				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

医学の基礎である解剖学のうち内臓系について、単なる形態構造のみの学習にとどまらず、関連する器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。

■ 到達目標

医療専門職として必要な内臓系の構造と機能を、関連機関と合わせて理解する。
適切な専門用語を用いて説明することができることを目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
呼吸器系；鼻腔、咽頭
- 第2回 呼吸器系；喉頭、声帯、気管
- 第3回 呼吸器；胸腔、肺
- 第4回 消化器系；口腔、歯列、唾液腺、舌
- 第5回 消化器系；食道、胃
- 第6回 消化器系；小腸、大腸
- 第7回 消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓
- 第8回 消化器系；後腹膜臓器、消化管の脈管
- 第9回 泌尿器系；腎臓
- 第10回 泌尿器系；尿管、膀胱
- 第11回 生殖器系；男性生殖器
- 第12回 生殖器系；女性生殖器
- 第13回 内分泌系；視床下部と脳下垂体、甲状腺、副腎、精巣と卵巣、膵臓
- 第14回 感覚器系；視覚器
- 第15回 感覚器系；聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器
テスト前総復習

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに復習プリントを配布するので、復習しておくこと。講義で配布する資料のみでなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。

■ 教 科 書

書 名：PT・OT・STのための解剖学
著者名：渡辺 正仁
出版社：廣川書店

■ 参考図書

書名：ネッター解剖学アトラス 原書第6版

著者名：F.H.Netter

出版社：南江堂

■ 留意事項

遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと

■ 講義受講にあたって

解剖学は今後学ぶ科目の基礎科目である。ここで理解できていないとのちに学ぶ科目の理解が困難となること間違いなし。単なる暗記にとどまらず、人間全体の生活や疾病と合わせて、人体への学びを深めていけるようにする。

授業科目	生理学 I				
担当者	木村 晃大 (実務経験者)				
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 細胞と内部環境 (総論)
- 第2回 筋肉 1 (筋、運動)
- 第3回 筋肉 2 (筋肉)
- 第4回 神経 1 (神経)
- 第5回 神経 2 (神経)
- 第6回 末梢神経 (神経)
- 第7回 自律神経
- 第8回 中枢神経 1 (神経、運動)
- 第9回 中枢神経 2 (神経)
- 第10回 中枢神経 3 (感覚)
- 第11回 中枢神経 4 (感覚)
- 第12回 中枢神経 5 (言語)
- 第13回 代謝 1 (栄養・代謝)
- 第14回 代謝 2 (体温調節)
- 第15回 前期総括

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 70%】 復習プリントの提出 10% 各講義後の小テスト 10% 本試験前のプレテスト 10%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学 (第4版)
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

■ 講義受講にあたって

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

授業科目	生理学Ⅱ				
担当者	木村 晃大 (実務経験者)				
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

人体の各臓器がいかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

■ 授業計画

- 第1回 血液1 (血液)
- 第2回 血液2 (免疫)
- 第3回 循環器1 (循環)
- 第4回 循環器2 (循環)
- 第5回 呼吸器1 (呼吸)
- 第6回 呼吸器2 (呼吸)
- 第7回 腎臓1 (排尿)
- 第8回 腎臓2 (排尿・呼吸 (酸・塩基平衡))
- 第9回 消化器1 (消化・吸収)
- 第10回 消化器2 (咀嚼・嚥下・排便)
- 第11回 内分泌1
- 第12回 内分泌2
- 第13回 内分泌3 (内分泌・生殖)
- 第14回 性と生殖 (生殖)
- 第15回 後期総括

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 70%】 復習プリントの提出 10% 各講義後の小テスト 10% 本試験前のプレテスト 10%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学 (第4版)
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

■ 講義受講にあたって

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

授業科目	生理学Ⅲ				
担当者	赤松 香奈子				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

人体の各臓器のそれぞれの機能と構造を理解する

■ 到達目標

生理現象を理論的に考察できるようになる

■ 授業計画

- 第1回 細胞：細胞の構造と機能、浸透圧、膜電位、シグナル伝達
- 第2回 神経：神経細胞の構造と機能、シナプス、筋組織、筋収縮のしくみ
- 第3回 中枢神経系1：脳と脊髄の構造と機能、大脳と脳幹
- 第4回 中枢神経系2：大脳基底核、大脳皮質の機能局在
- 第5回 自律神経系：末梢神経系の構造と機能、自律神経の特徴と調節、化学伝達物質
- 第6回 感覚器：体性感覚、痛みの受容、聴覚、平衡感覚、視覚、味覚、嗅覚
- 第7回 血液：血液の組成、血漿蛋白質の組成と機能、造血
- 第8回 消化器1：消化器の基本構造、咀嚼と嚥下、消化管の運動と機能
- 第9回 消化器2：消化と吸収のしくみ、肝臓の機能
- 第10回 呼吸器：呼吸器の構造と機能、呼吸運動、ガス交換
- 第11回 循環器1：循環系の基本構造、心臓、心電図
- 第12回 循環器2：循環調節機構、リンパ循環、胎児循環
- 第13回 腎・泌尿器1：腎臓の構造と機能、クリアランス
- 第14回 腎・泌尿器2：水と電解質、再吸収と排泄
- 第15回 内分泌：ホルモンの種類と調節、生殖：男性の生殖機能、女性の生殖機能、妊娠

■ 評価方法

科目試験（筆記試験）100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

系統ごとに復習プリントを配布するので、復習しておくこと。講義で配布する資料のみでなく、さまざまな参考書等を用いて理解を深めること。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版
 著者名：岡田隆夫、長岡正範
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：国家試験の達人 PT・OT シリーズ 運動解剖生理学編
 著者名：理学療法科学学会編
 出版社：株式会社 アイベック

■ 留意事項

基本的な人体の生理機能を学びます。内容は国家試験で求められる内容を基本としています。
作業療法士の国家試験では、出題数が多い教科です。しっかり学びましょう。
※遅刻・欠席はルールに従って必ず届けを出すこと

■ 講義受講にあたって

授業科目	生理学実習				
担当者	木村 晃大 (実務経験者)				
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。木村 晃大 (実務経験者)

■ 到達目標

人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。

■ 授業計画

- 第1回 実習オリエンテーション
- 第2回 講義・機器取扱い実施確認1
- 第3回 講義・機器取扱い実施確認2
- 第4回 講義・機器取扱い実施確認3
- 第5回 講義・機器取扱い実施確認4
- 第6回 実習1
- 第7回 実習2
- 第8回 実習3
- 第9回 実習4
- 第10回 実習5
- 第11回 解説(講義)
- 第12回 解説(講義)

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)50%】実習レポート(50%)

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

生理学実習では、参考書などを調べて考えることで、“課題を自分で解決する事が出来る様になる事”を一つの目標にしています。

また、全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。レポートの評価では①内容のオリジナリティ、②各項目について深く理解しようとする努力が認められるかどうか、を重視します。

同学年、前年度の物を問わず、レポートのコピーはカンニングと同様の行為であり、一切認められません。発覚した場合には厳罰をもって対応します。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書名：標準生理学(第7版)

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

■ 講義受講にあたって

出席や実習中の態度も成績評価に含みます。レポート提出は期限厳守のこと。レポート未提出は再履修とします。被験者の安全や守秘義務を守る事を念頭にして、真剣に取り組むこと。

授業科目	運動学総論				
担当者	長谷川昌士				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	2 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

関節の基本構造と機能を学習する。運動器である上肢の運動、下肢の運動、脊柱・体幹の運動について理解を深める。

■ 到達目標

1. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係
2. 運動技能を獲得するうえでの運動学習の理論的枠組み
3. 運動を継続するためのエネルギー供給機構について

■ 授業計画

- 第1回 コースオリエンテーション
- 第2回 運動器の構造と機能1
- 第3回 運動器の構造と機能2
- 第4回 肩複合体の運動学1
- 第5回 肩複合体の運動学2
- 第6回 肘関節・前腕の運動学1
- 第7回 肘関節・前腕の運動学2
- 第8回 肩・肘関節・前腕についての演習
- 第9回 手関節・手指の運動学1
- 第10回 手関節・手指の運動学2
- 第11回 手関節・手指の運動学3
- 第12回 手関節・手指についての演習
- 第13回 股関節の運動学1
- 第14回 股関節の運動学2
- 第15回 膝関節の運動学1
- 第16回 膝関節の運動学2
- 第17回 足関節・足部の運動学1
- 第18回 足関節・足部の運動学2
- 第19回 下肢についての演習
- 第20回 脊柱・体幹の運動学1
- 第21回 脊柱・体幹の運動学2
- 第22回 脊柱・体幹についての演習
- 第23回 顔面と頭部の運動学1
- 第24回 顔面と頭部の運動学2
- 第25回 運動学習1
- 第26回 運動学習2
- 第27回 運動学習についての演習
- 第28回 運動のためのエネルギー供給機構1
- 第29回 運動のためのエネルギー供給機構2
- 第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】 講義中毎回実施の振り返りテスト 20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容は必ず教科書、参考書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。

■ 教科書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学
著者名：石川朗 種村留美 小島悟
出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：筋骨格系のキネシオロジー
著者名：嶋田智明ほか監訳
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ 講義受講にあたって

授業科目	運動学各論				
担当者	長谷川昌士				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	2単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

生体力学の基礎を学習する。運動学的分析手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。その応用として立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解を深める。呼吸や心臓における運動療法について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。筋力増強について学習し、その技術を演習形式にて理解を深める。

■ 到達目標

1. 運動学的分析手法（床反力、体重心、関節モーメント）を理解する。
2. 立ち上がりや歩行の運動学的分析を理解する。
3. 呼吸や心臓における運動療法について理解する。
4. 筋力増強、ストレッチングにおける理論および一般的な実施方法について理解する。

■ 授業計画

- 第1回 コースオリエンテーション
- 第2回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎 1
- 第3回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎 2
- 第4回 身体運動の記述と解釈に必要な力学の基礎 3
- 第5回 姿勢と姿勢制御の仕組み 1
- 第6回 姿勢と姿勢制御の仕組み 2
- 第7回 運動学的分析（立ち上がり） 1
- 第8回 運動学的分析（立ち上がり） 2
- 第9回 運動学的分析（歩行） 1
- 第10回 運動学的分析（歩行） 2
- 第11回 運動学的分析（歩行） 3
- 第12回 運動学的分析（歩行） 4
- 第13回 日常生活における活動分析
- 第14回 日常生活における作業分析
- 第15回 生体力学の確認試験と振り返り
- 第16回 呼吸における運動学
- 第17回 換気中の筋活動
- 第18回 呼吸リハビリテーション（呼吸法）
- 第19回 呼吸リハビリテーション（ストレッチング）
- 第20回 身体運動のエネルギー代謝
- 第21回 運動処方について
- 第22回 心臓リハビリテーション（運動療法）
- 第23回 心臓リハビリテーション（生活指導）
- 第24回 呼吸・心臓リハビリテーション確認試験と振り返り
- 第25回 筋力増強訓練の効果
- 第26回 筋力増強訓練の訓練方法
- 第27回 活動を用いた筋力増強訓練方法の演習

第28回 ストレッチングの効果
第29回 ストレッチングの方法
第30回 最終確認試験と振り返り

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80％】 講義中毎回実施の振り返りテスト 20％
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内容は必ず教科書、参考書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。

■ 教科書

書名：15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学
著者名：石川朗 種村留美 小島悟
出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：基礎バイオメカニクス
著者名：江原義弘、山本澄子、石井慎一郎
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

■ 講義受講にあたって

授業科目	運動学実習				
担当者	山田 隆人				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動学総論、運動学各論により習得した基礎知識・技術を踏まえ、実際に行われている動作を分析する実習を通して、作業療法の基礎となる人体の運動のしくみについて理解を深める。

■ 到達目標

基本動作を観察する視点を身につけること
 観察した動作を運動学的用語で説明することができるようになること
 観察した動作を運動学・運動力学的に分析することができるようになること

■ 授業計画

第1回 上肢の機能解剖
 第2回 上肢の関節運動
 第3回 上肢の関節の可動性に関する演習
 第4回 下肢の機能解剖
 第5回 下肢の関節運動
 第6回 下肢の関節の可動性に関する演習
 第7回 頭頸部体幹の運動
 第8回 筋力
 第9回 姿勢とアライメントの評価
 第10回 関節モーメントと筋活動
 第11回 関節モーメントと筋活動演習
 第12回 動画解析演習
 第13回 立ち座りの運動学の演習
 第14回 歩行
 第15回 歩行の動画解析演習

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）50%】課題の提出・レポート・報告等50%、欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：-10点、事前届出あり：-2点 試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の予習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト
 著者名：小柳磨毅、西村敦、山下協子、大西秀明著
 出版社：金原出版株式会社

■ 参考図書

書名：理学療法・作業療法テキスト 運動学実習

著者名：石川郎、種村留美、小島悟、小林麻衣著

出版社：中山書店

書名：基礎バイオメカニクス

著者名：山本澄子、石井慎一郎、江原義弘著

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

人の運動を映像等で解析することを行います。スマホやカメラを使用します。更に、動画解析にはPCを使用します。

■ 講義受講にあたって

実習において、演習及びレポート作成を行います。

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	生涯人間発達学				
担当者	橋本卓也（実務経験者）、井口知也（実務経験者）、吉田 文（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	橋本卓也：通所・訪問系の総合施設で発達領域（知的障害児（者）及び脳性麻痺等）、身体障害領域（高齢期含む）一部精神科領域の方々の作業療法を担当 井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者へ健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供 吉田 文：精神科病院にて青年期～高齢期の方の作業療法を担当、青年期の発達障害のある方へ地域生活支援講座を提供				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法においては、ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解することは、ひとの生活を考える上で重要である。乳幼児期を中心にひとの生涯の発達について、各実務経験者がライフサイクルとひとの作業との関係、作業療法と結びつけながら講義等により学習をすすめる。

■ 到達目標

1. 原始反射と姿勢反応について理解する
2. 乳児期～青年期までの子どもの発達について理解する
3. 成人期・壮年期・高齢期（老年期）の発達について理解する

■ 授業計画

- 第1回 発達理論① エリクソンの発達理論（人間発達とは）
橋本卓也（実務経験者）
- 第2回 発達理論② ピアジェの発達理論：橋本卓也（実務経験者）
- 第3回 乳児の発達（0～3か月）（遊びの発達を含む）
橋本卓也（実務経験者）
- 第4回 乳児の発達（4～6か月）（遊びの発達を含む）
橋本卓也（実務経験者）
- 第5回 乳児の発達（7～12か月）（遊びの発達を含む）
橋本卓也（実務経験者）
- 第6回 幼児の発達（1～3歳）（遊びの発達を含む）
橋本卓也（実務経験者）
- 第7回 幼児の発達（4～5歳）（遊びの発達を含む）
橋本卓也（実務経験者）
- 第8回 学童期～青年期の発達（遊びの発達を含む）
橋本卓也（実務経験者）
- 第9回 青年期・成人初期・成人期の発達（余暇活動の発達含む）
吉田 文（実務経験者）
- 第10回 成人初期・成人期と作業バランス
吉田 文（実務経験者）
- 第11回 高齢期（老年期）への準備
吉田 文（実務経験者）
- 第12回 高齢期の発達とライフサイクル
井口知也（実務経験者）
- 第13回 喪失と自己効力
井口知也（実務経験者）
- 第14回 肯定的な高齢期とは
井口知也（実務経験者）
- 第15回 授業のまとめ（まとめテスト含む）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）60%】参加態度10% 提出物10% 小テスト30%、
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1枚程度）を自身で進める、または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：イラストでわかる人間発達学
著者名：上杉雅之 監修
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書名：授業で随時紹介する

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床心理学				
担当者	非常勤講師				
実務経験者の概要	「医療および福祉・教育現場で勤務し、心理的課題のあるクライアントやその関係者を対象とした臨床心理学的支援を行なっている」				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床心理学は「こころの病」や「こころのメカニズム」について学ぶものです。私たちのこころは流動的で環境からの影響を受けながら形成され、揺らぎもします。そうした、こころのありようについて、身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的素養を身につける機会にします。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせるよう習得することを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理査定 (1)：意義と方法 (観察、面接、検査)
- 第3回 臨床心理査定 (2)：発達検査・知能検査
- 第4回 臨床心理査定 (3)：人格検査 (概要)
- 第5回 臨床心理査定 (4)：人格検査
- 第6回 こころの構造 (1)：人格構造論の観点から
- 第7回 こころの構造 (2)：発達論的観点から
- 第8回 精神病理 (1)：統合失調症、気分障害
- 第9回 精神病理 (2)：不安障害、身体表現性障害、人格障害
- 第10回 患者・障害者の心理
- 第11回 臨床心理面接 (1)：目的、基本的技法
- 第12回 臨床心理面接 (2)：来談者中心療法
- 第13回 臨床心理面接 (3)：精神分析
- 第14回 臨床心理面接 (4)：学習理論と行動療法
- 第15回 総合的ふりかえり

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 70%】 講義への参加・貢献 (レスポンスシート等) 30%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業終了後、授業で配布したプリントを見直し、復習しておくこと。

■ 教科書

特になし

■ 参考図書

適宜紹介します

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

授業科目	病理学概論				
担当者	野土 希実 (実務経験者)				
実務経験者の概要	医師として総合病院病理診断科に勤務し病理組織診断を行っている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

疾病の分類と成り立ちを学ぶ。

■ 到達目標

病気が何故、どのようにして起こるか、身体にどのような異常を引き起こすかを理解し、説明が出来る。病気に関わる専門用語の定義が理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 病理学の目的と概要、病因論：内因、外因の概念、疾病の分類
- 第2回 傷害に対する細胞の反応：退行性病変及び進行性病変、再生と創傷の治癒
- 第3回 炎症・感染症：炎症の定義と原因、主に炎症の経時的变化について
- 第4回 免疫：免疫系の仕組みと働き、主に免疫応答の仕組みについて
- 第5回 炎症・感染症：感染による疾患、主に感染経路と病態、病原微生物の種類について
- 第6回 国試対策を含めた試験演習①
- 第7回 毒性病理入門
- 第8回 循環障害：循環系の構造と機能、主に局所循環障害について
- 第9回 老化：老化と寿命、主に老化に伴って増加する疾患について
- 第10回 代謝異常：代謝障害による疾患、主に脂質代謝異常症、糖質代謝異常、ビリルビン代謝について
- 第11回 放射線障害：放射線の副作用のため出現する病変
- 第12回 先天異常・奇形： 先天異常の概念と分類や代表的な先天異常、特に染色体異常について
- 第13回 腫瘍①：腫瘍の定義と分類、腫瘍の進展形式
- 第14回 腫瘍②：腫瘍発生の原因、国試対策のための臓器別の腫瘍
- 第15回 国試対策を含めた試験演習②

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。分からないことは講義中でも遠慮なく質問して下さい。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	一般臨床医学				
担当者	藤岡重和（実務経験者） 岡本文雄（実務経験者） 福山智子（実務経験者） 福原雅之（実務経験者） 竹原友貴（実務経験者） 神納光一郎（実務経験者） 福矢吹裕栄				（オムニバス）
実務経験者の概要	科目担当者である 岡本、竹原、福原、藤岡は、医療機関において医師として診療業務に、福山は看護師として従事した経験がある。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。

■ 到達目標

1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。
2. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、特徴的に現れる症状、治療法を説明できる。
3. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

第1回	救急医学総論 (1)	岡本文雄（実務経験者）
第2回	救急医学総論 (2)	岡本文雄（実務経験者）
第3回	救急医学各論 (1) ショック、心肺停止	神納光一郎（実務経験者）
第4回	救急医学各論 (2) 意識障害、吐血、下血と腹痛	神納光一郎（実務経験者）
第5回	救急医学各論 (3) 外傷、環境障害	神納光一郎（実務経験者）
第6回	産科学	福山智子（実務経験者）
第7回	婦人科学	福山智子（実務経験者）
第8回	皮膚科学	竹原友貴（実務経験者）
第9回	皮膚科学	竹原友貴（実務経験者）
第10回	皮膚科学	竹原友貴（実務経験者）
第11回	眼科学	福原雅之（実務経験者）
第12回	眼科学	福原雅之（実務経験者）
第13回	耳鼻咽喉科学	矢吹裕栄
第14回	耳鼻咽喉科学	矢吹裕栄
第15回	総復習（国家試験対策）	藤岡重和（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書名：PT・OTのための一般臨床医学
著者名：明石 謙
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：救急診療指針 改訂第4版
著者名：日本救急医学会監修
出版社：へるす出版

■ 留意事項

試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

授業科目	内科学 I				
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)				
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患の生体内部の障害について、その病因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 循環器疾患、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 内科学総論
 第2回 循環器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第3回 循環器疾患（1）高血圧、虚血性心疾患
 第4回 循環器疾患（2）弁膜症、先天性心疾患、心筋疾患
 第5回 循環器疾患（3）心不全、不整脈、その他
 第6回 循環器疾患（4）大動脈疾患、末梢動脈疾患、静脈、リンパ管疾患
 第7回 呼吸器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第8回 呼吸器疾患（1）感染性肺疾患、アレルギー性肺疾患
 第9回 呼吸器疾患（2）慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患
 第10回 呼吸器疾患（3）肺腫瘍、肺循環障害
 第11回 呼吸器疾患（4）呼吸不全、呼吸調節の異常、胸膜疾患、その他
 第12回 腎、泌尿器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
 第13回 腎、泌尿器疾患（1）糸球体疾患、全身性疾患と腎障害
 第14回 腎、泌尿器疾患（2）腎不全、電解質異常、泌尿器疾患、その他
 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】小テスト 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
 また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。
 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
 発展的内容を探求したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教科書

書 名：ナースの内科学 第10版
 著者名：奈良信雄
 出版社：中外医学社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版
著者名：大成浄志
出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します

授業科目	内科学Ⅱ				
担当者	藤岡 重和 (実務経験者)				
実務経験者の概要	科目担当者は、医療機関において医師として内科診療業務に従事している。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患の代表的内科疾患について、病因、病態、疫学、臨床像、検査、診断、治療法、予後を学習する。

■ 到達目標

1. 代表的な消化器疾患、代謝、内分泌内疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患について、疫学、予後、病因、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療法を説明できる。
2. 消化器疾患、代謝、内分泌疾患、血液疾患、免疫、アレルギー疾患患者のリハビリテーション留意事項を説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 消化器総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第2回 消化器疾患（1）食道疾患、胃の疾患
- 第3回 消化器疾患（2）小腸、大腸の疾患
- 第4回 消化器疾患（3）肝疾患
- 第5回 消化器疾患（4）胆道疾患、膵疾患、その他
- 第6回 代謝、内分泌総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第7回 代謝、内分泌疾患（1）糖尿病、脂質代謝異常、栄養障害、その他
- 第8回 代謝、内分泌疾患（2）下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 第9回 免疫、アレルギー総論（概要、病因、病態生理、症状、検査と診断）
- 第10回 免疫、アレルギー疾患（1）アレルギー疾患
- 第11回 免疫、アレルギー疾患（2）自己免疫疾患
- 第12回 血液、造血器疾患（1）赤血球系疾患
- 第13回 血液、造血器疾患（2）白血球系疾患、出血性疾患
- 第14回 リハビリテーションと内科臨床について
- 第15回 総復習（国家試験対策）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80％】小テスト 20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。
国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。
発展的内容を探求したい時、理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。

■ 教科書

書名：ナースの内科学 第10版

著者名：奈良信雄

出版社：中外医学社

■ 参考図書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版

著者名：大成浄志

出版社：医学書院

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

内科学を学習するにあたって、内臓解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。授業の前に、十分復習をしておいてください。感染症については、三年生後期の感染症学において詳しく学習します

授業科目	整形外科学 I				
担当者	西田裕希・山田隆人・山本展生（実務経験者）中村憲正（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	山本 展生, 中村 憲正（医師として、臨床現場において整形外科疾患の患者に対して、診察・治療に従事している。）				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。整形外科 I では、整形外科の概要および身体部位別の疾患の理解を深める。

■ 到達目標

運動器の解剖・生理学が理解できる
身体部位別の整形外科疾患の病態が理解できる

■ 授業計画

- 第 1 回 コースオリエンテーション 講義の進行 整形外科疾患（山田）
- 第 2 回 下肢の疾患 足（山田）
- 第 3 回 上肢の疾患 肩（西田）
- 第 4 回 上肢の疾患 肘（西田）
- 第 5 回 上肢の疾患 手（西田）
- 第 6 回 下肢の疾患 股関節1（西田）
- 第 7 回 下肢の疾患 股関節2（西田）
- 第 8 回 下肢の疾患 膝関節（西田）
- 第 9 回 整形外科とは 山本 展生（実務経験者）
- 第10回 整形外科診断総論 山本 展生（実務経験者）
- 第11回 幹の疾患 脊椎疾患 1（山田）
- 第12回 整形外科治療総論 山本 展生（実務経験者）
- 第13回 整形外科疾患総論 山本 展生（実務経験者）
- 第14回 幹の疾患 脊椎疾患 2（山田）
- 第15回 整形外科領域における再生医療について 中村 憲正（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】で判断します。試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う。

■ 教科書

書 名：病気がみえる 11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所岡庭豊編集
出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	整形外科学Ⅱ				
担当者	上里圭吾・山田隆人				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

運動器の解剖・生理を立ち戻り、整形外科疾患の病態を理解することを目的に行う。整形外科Ⅰでは、発生機序による整形外科疾患の理解を深める。

■ 到達目標

運動器の解剖・生理学が理解できる
発生機序別の整形外科疾患の病態が理解できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、末梢神経損傷1 (上里)
- 第2回 末梢神経損傷2 (上里)
- 第3回 外傷1 総論 (山田)
- 第4回 外傷2 区画症候群・複合性局所疼痛症候群 (上里)
- 第5回 外傷3 上肢の骨折 (上里)
- 第6回 外傷4 骨盤・下肢の骨折 (上里)
- 第7回 外傷5 脱臼その他 (上里)
- 第8回 骨南部腫瘍・脊髄腫瘍 (山田)
- 第9回 リウマチ性疾患1 (上里)
- 第10回 リウマチ性疾患2 (上里)
- 第11回 慢性関節性疾患1 (上里)
- 第12回 慢性関節性疾患2 (上里)
- 第13回 代謝性骨疾患 (山田)
- 第14回 その他疾患 (山田)
- 第15回 整形外科リハビリテーション (山田)

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)100%】で判断します。試験時に不正な行為があったと認められた者については、規定に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

各単元で学んだ国家試験の問題を確認・復習すること。理解を深めた内容は、豆テスト等で確認を行う。

■ 教科書

書名：病気がみえる 11 運動器・整形外科
著者名：医療情報科学研究所岡庭豊編集
出版社：株式会社 メディックメディア

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--

授業科目	臨床神経学 I				
担当者	林部 美紀				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

脳や神経の仕組みや働きを理解し、神経症候のメカニズムと症状について講義やグループワークを進めていく。

■ 到達目標

1. 脳や神経の仕組みを理解できる。
2. 脳や神経の働きを理解できる。
3. 脳や神経が障害されることによる症状を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・大脳の機能局在と高次脳機能障害
- 第2回 脳画像の見方・脳血管
- 第3回 錐体路と運動麻痺
- 第4回 錐体路と運動麻痺
- 第5回 上位運動ニューロンと下位運動ニューロン
- 第6回 感覚器系と症状
- 第7回 錐体外路と症状
- 第8回 大脳基底核・小脳と症状
- 第9回 大脳辺縁系と症状
- 第10回 間脳と症状
- 第11回 脳幹と症状（意識障害）
- 第12回 脳神経と症状
- 第13回 脳神経と症状
- 第14回 脊髄・脊髄神経と症状
- 第15回 自律神経系と症状

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）60%】小テスト20% レポート・発表点20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

1年生で学んだ解剖学や生理学を基本にやっていきます。授業前には必ず1年生の時に習ったその単元の復習をしておいてください。その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分以上は復習してください。

■ 教科書

書名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版

著者名：医療情報科学研究所／編集

出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書名：PT・OTのための脳画像のみかたと神経所見

著者名：森 惟明, 鶴見 隆正

出版社：医学書院

■ 留意事項

留意事項：無断欠席・遅刻はしないようにしてください。

■ 講義受講にあたって

3年生で習う身体障害治療学や実習に結びつく、非常に大事な基礎科目です。1年生の解剖学生理学から繋がっています。しっかり復習してください。小テストやレポートでこまめに評価していきます。

授業科目	臨床神経学Ⅱ				
担当者	掛川 泰朗				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床神経学Ⅰの講義内容を踏まえた上で、神経内科疾患の臨床症状について講義やグループワークを進めていく。

■ 到達目標

1. 作業療法の対象となる各神経内科疾患のメカニズムを理解できる。
2. 作業療法の対象となる各神経内科疾患の臨床症状を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・臨床神経学Ⅰの復習
- 第2回 脳血管障害の概要
- 第3回 脳血管障害の具体的な臨床症状
- 第4回 頭部外傷の概要と具体的な臨床症状
- 第5回 脳腫瘍の概要と具体的な臨床症状
- 第6回 パーキンソン病の概要と具体的な臨床症状
- 第7回 脊髄小脳変性症の概要と具体的な臨床症状
- 第8回 多発性硬化症・ギランバレーの概要と具体的な臨床症状
- 第9回 筋萎縮性側索硬化症の概要と具体的な臨床症状
- 第10回 ニューロパチーの概要と具体的な臨床症状
- 第11回 重症筋無力症・周期性四肢麻痺・多発性筋炎の概要と具体的な臨床症状
- 第12回 筋ジストロフィーの概要と具体的な臨床症状
- 第13回 てんかんの概要と具体的な臨床症状
- 第14回 認知症の概要と具体的な臨床症状
- 第15回 その他の神経内科疾患（二分脊椎・脳炎・髄膜炎）の概要と具体的な臨床症状

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）60%】小テスト30% レポート・発表点10% 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床神経学Ⅰを基本にやっていきます。授業前には必ず臨床神経学Ⅰの復習をしておいてください。その日の講義内容は必ずその日のうちに復習してください。その日の講義で用いた図表を見て、その日の講義内容が想起できるようにしてください。少なくとも30分以上は復習してください。

■ 教科書

書 名：病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版
 著者名：医療情報科学研究所／編集
 出版社：メディックメディア

■ 参考図書

書名：ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版
著者名：田崎義昭, 斎藤佳雄他
出版社：南山堂

■ 留意事項

講義の中で、実際の患者データを提示します。必ず守秘してください。無断欠席・遅刻はしないようにしてください。

■ 講義受講にあたって

本講義は、臨床神経学 I を基盤に成り立つ科目です。必ず、臨床神経学 I の内容を理解しておいてください。また、身体障害治療学や実習につながる重要な授業です。小テストやレポートでこまめに評価していきます。

授業科目	精神医学				
担当者	高橋 清武 (実務経験者)				
実務経験者の概要	現在、精神病院で勤務し、精神障害者の治療の経験を有する者				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

主な精神疾患の症状・診断・治療について学習し、国家試験に対応でき、臨床に役立つ知識を習得する。

■ 到達目標

学んだことを今後の専門職としての活動の中や普段の生活に活かせるよう習得することを目指します。臨床の現場で精神症状を呈する患者を担当しても落ち着いて対応できる知識の習得を目指します。

■ 授業計画

- 第1回 精神医学総論 精神医学とは 精神疾患の分類
- 第2回 精神医学総論 診断・検査
- 第3回 精神医学総論
- 第4回 統合失調症
- 第5回 気分障害
- 第6回 神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害
- 第7回 パーソナリティ障害
- 第8回 アルコール、薬物関連障害
- 第9回 器質性精神障害
- 第10回 児童青年期精神障害：精神遅滞、発達障害
- 第11回 摂食障害
- 第12回 てんかん
- 第13回 睡眠障害
- 第14回 治療
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）100%】（ただし無断欠席や遅刻はマイナス評価）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

当日受講した該当項目については、テキストを読んだり配布資料を見直すなどして、より理解を深めておくこと
 次回授業までに、前回の授業内容を十分に復習しておいてください
 授業の前日までに、教科書の講義予定該当ページを読んでおくこと

■ 教科書

書 名：精神医学マイテキスト
 著者名：西川隆・中尾和久・三上章良
 出版社：金芳堂

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。授業中の私語は、まじめに講義を受けようとする生徒の邪魔になるため厳禁です。

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床運動学				
担当者	山岡真・渡部雄太・山田隆人				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

正常の運動学の理論を踏まえて、臨床における病態臨床学を演習等を体験しながら理解を深める

■ 到達目標

正常の運動学の理論の理解を深める
臨床における病態臨床学の理解を深める

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、生体力学
- 第2回 肩甲帯・肩1
- 第3回 肩甲帯・肩2
- 第4回 肘・前腕1
- 第5回 手関節・手1
- 第6回 手関節・手2
- 第7回 骨盤体・股
- 第8回 膝・下腿1
- 第9回 足・足関節1
- 第10回 足・足関節2
- 第11回 脊柱
- 第12回 寝返り
- 第13回 立ち座り
- 第14回 歩行・杖歩行
- 第15回 車椅子移動
- 第16回 試験

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）50%】課題の提出・レポート・報告等50%、欠席、遅刻・早退は減点の対象（一回につき、事前届出なし：-10点、事前届出あり：-2点

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義・演習の最後に、次回の子習課題および範囲について確認を行う。次回の講義、演習までに基本的な内容に関しては予習しておくこと。

■ 教科書

書 名：PT・OTのための運動学テキスト
著者名：小柳磨毅、西村敦、山下協子、大西秀明著
出版社：金原出版株式会社

■ 参考図書

書名：理学療法・作業療法テキスト 運動学実習
著者名：石川郎、種村留美、小島悟、小林麻衣著
出版社：中山書店

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	臨床薬理学				
担当者	名徳 倫明 (実務経験者)・中嶋秀人 (実務経験者)・池田宗一郎 (実務経験者)・ 下村裕章 (実務経験者)・藤岡重和 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	科目担当者である中嶋、池田、下村、藤岡は、医療機関において内科医師として診療業務に従事している。名徳は医療機関において薬剤師として業務に従事していた。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	選択

■ 内 容

リハビリテーション医療は、医師、療法士、看護師、薬剤師、栄養士など多職種によるチーム医療であり、脳神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、精神疾患を有する対象者の理解、評価のために薬理学の基礎的知識が必要とされる。本講義では、薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用、器官毒性とその発現メカニズムを学習する。特に、理学療法士、作業療法士の実地臨床上、重要である神経、筋に作用する薬剤、循環器治療薬、呼吸器治療薬等については、症例提示により実践的知識の修得を目指す。東洋医学の基礎、漢方薬についても学習する。

■ 到達目標

1. 薬剤の体内動態、頻用薬剤の薬理作用、副作用を説明できる。
2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。

■ 授業計画

第1回	臨床薬理学総論 (1)	薬剤の体内動態	名徳倫明 (実務経験者)
第2回	臨床薬理学総論 (2)	頻用薬剤の薬理作用、副作用	名徳倫明 (実務経験者)
第3回	臨床薬理学各論 (1)	脳卒中と治療薬	中嶋秀人 (実務経験者)
第4回	臨床薬理学各論 (2)	神経疾患と治療薬	中嶋秀人 (実務経験者)
第5回	臨床薬理学各論 (3)	呼吸器疾患と治療薬	池田宗一郎 (実務経験者)
第6回	臨床薬理学各論 (4)	各種感染症と治療薬	池田宗一郎 (実務経験者)
第7回	臨床薬理学各論 (5)	循環器疾患、生活習慣病の治療薬 下村裕章 (実務経験者) 藤岡重和 (実務経験者)	
第8回	臨床薬理学各論 (6)	東洋医学の基礎、漢方薬、国試対策 下村裕章 (実務経験者) 藤岡重和 (実務経験者)	

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 100%】

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：臨床薬理学 (NURSING GRAPHICUS 疾患の成り立ち 2)
著者名：古川裕之
出版社：MC メデイカ出版

■ 留意事項

試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床検査医学				
担当者	藤岡重和（実務経験者） 津田泰宏（実務経験者） 和田晋一（実務経験者） 石倉隆（実務経験者） 久田洋一（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	科目担当者である藤岡，津田・久田は、医療機関において医師として診療業務に従事している。和田は臨床検査技師として、石倉はPTとして病院勤務をしている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	前期	選択・必修	PT 必修 OT 選択

■ 内 容

リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRIの検査方法と画像診断を学習する。生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。

■ 到達目標

1. X線、CT、MRIの検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。
2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。

■ 授業計画

第1回	生理機能検査学総論、生理機能検査学各論（1）心電図、運動負荷検査	藤岡重和（実務経験者）
第2回	生理機能検査学各論（2）心電図、運動負荷心電図演習（不整脈、心筋虚血等）	藤岡重和（実務経験者）
第3回	生理機能検査学各論（3）呼吸機能検査、血液ガス検査	和田晋一（実務経験者）
第4回	生理機能検査学各論（4）脳波検査、筋電図検査	和田晋一（実務経験者）
第5回	放射線医学総論、画像診断各論（1）胸部X線、CT検査	
第6回	画像診断各論（2）頭部X線、CT、MRI検査、脳血管造影検査	石倉隆（実務経験者）
第7回	画像診断各論（3）頭部CT、MRI読影演習	石倉隆（実務経験者）
第8回	画像診断各論（4）腹部X線、CT、超音波検査	津田泰宏（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】小テスト20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。

■ 教科書

書名：PT・OTのための画像診断マニュアル
著者名：百島祐貴
出版社：医学教育出版社

■ 参考図書

書名：生理機能検査学
著者名：大久保善朗
出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

授業科目	小児科学				
担当者	早島禎幸（実務経験者）・藪中良彦（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	早島禎幸（小児科医として14年の実務経験） 藪中良彦（理学療法士として、肢体不自由施設で20年、小児訪問リハビリテーションで5年の実務経験）				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法士・作業療法士として必要な子どもの病気の知識を学習する。

■ 到達目標

子どもの疾患に合わせて適切な理学療法及び作業療法を提供するために必要な子どもの病気の原因や病態を知ることが、この科目の目標である。

■ 授業計画

- 第1回 I. 乳幼児健診・予防接種について（早島禎幸）
- 第2回 II. 新生児・未熟児疾患について（藪中良彦）
- 第3回 III. 発達障害について（早島禎幸）
- 第4回 IV. 先天性異常と遺伝子病について（藪中良彦）
- 第5回 V. 神経疾患（特にてんかん）／内分泌・代謝疾患について（早島禎幸）
- 第6回 VI. 脊髄性疾患／末梢神経疾患／筋疾患／骨・関節疾患について（藪中良彦）
- 第7回 VII. 感染症／免疫・アレルギー疾患、膠原病について（早島禎幸）
- 第8回 VIII. 循環器疾患について（藪中良彦）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80％】 予習課題・小テスト 20％
 授業態度、出席状況（欠席－4点、遅刻／早退－2点、居眠り－1点）
 小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

次の授業の範囲を明示するので、その範囲を予習し、不明な2つの項目について調べてまとめを提出することで予習を促す。また、随時小テストを行い、復習を促す。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 小児科学
 著者名：富田豊
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：最新育児小児病学
 著者名：黒田泰弘
 出版社：南江堂

■ 留意事項

毎回出席し、予習・復習をしっかりと行ってください。

■ 講義受講にあたって

3年次で学習する「小児期理学療法治療学」及び「発達障害治療学Ⅰ，Ⅱ」で学ぶ障害のある子どもたちへの理学療法治療及び作業療法治療を理解するための基礎となる小児期の疾患を、「小児科学」でしっかりと学習する。

授業科目	老年医学				
担当者	藤岡重和（実務経験者）・大中玄彦（実務経験者）・藤本宜正（実務経験者）・森田婦美子（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	科目担当である藤岡、大中、藤本は、医療機関において医師として老年期疾患の診療業務に従事している。森田は看護師としての実務経験を持つ。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学習する。老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題についても幅広く解説する。また、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、病態、臨床像、評価、検査（画像、生理機能検査、血液検査を含む）、診断、治療の基礎的な学習する。

■ 到達目標

1. 加齢に伴う生活機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。
2. 加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、症候、評価、検査（画像、生理機能検査を含む）、診断、治療を説明できる。

■ 授業計画

第1回	老年医学総論 (1)	老化と老年病の考え方	藤岡重和（実務経験者）
第2回	老年医学総論 (2)	加齢に伴う生活機能変化	藤岡重和（実務経験者）
第3回	老年医学総論 (3)	高齢者に多い症候とそのアセスメントについて	森田婦美子（実務経験者）
第4回	老年医学総論 (4)	老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化と高齢者へのアプローチ	森田婦美子（実務経験者）
第5回	老年医学総論 (5)	高齢者の医療、介護、福祉、ターミナルケア	森田婦美子（実務経験者）
第6回	老年医学各論 (1)	精神機能の老化と精神疾患（うつ状態、せん妄、認知症、その他）	森田婦美子（実務経験者）
第7回	老年医学各論 (2)	心、血管機能の老化と循環器疾患（心不全、末梢循環障害、その他）	大中玄彦（実務経験者）
第8回	老年医学各論 (3)	呼吸機能の老化と呼吸器疾患（誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患、その他）	大中玄彦（実務経験者）
第9回	老年医学各論 (4)	消化機能の老化と消化器疾患（摂食、嚥下障害、消化器癌、その他）	大中玄彦（実務経験者）
第10回	老年医学各論 (5)	腎機能、内分泌、代謝機能の老化と疾患（腎不全、糖尿病、その他）	大中玄彦（実務経験者）
第11回	老年医学各論 (6)	加齢による免疫機能の変化、高齢者の感染症	大中玄彦（実務経験者）
第12回	老年医学各論 (7)	骨、運動機能の老化と疾患（骨粗鬆症、骨折他）、感覚機能の老化と疾患	藤岡重和（実務経験者）
第13回	泌尿器科総論（解剖と生理、診断と検査法）、代表的な泌尿器疾患（尿路感染症、尿路結石症）		藤本宜正（実務経験者）
第14回	代表的な泌尿器疾患（尿路・生殖器の腫瘍、神経因性膀胱）		藤本宜正（実務経験者）
第15回	総復習（国家試験対策）		藤岡重和（実務経験者）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80％】小テスト 20％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業では、次回までに学習すべき課題を提示しますので、事前学習を必ずしておいてください。
また、次回授業までに、前回の授業内容を各自ノートにまとめて十分に復習してください。
国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。

■ 教科書

書名：標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版
著者名：大内尉義
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：新老年学 第3版
著者名：大内尉義、秋山弘子、折茂肇
出版社：東京大学出版社

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

老年医学を学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学、内科学Ⅰをよく理解しておく必要があります。
授業の前に十分復習をしておいてください。

授業科目	高次脳機能障害学 I				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)				
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識を講義やグループワーク、レポートなどにより理解する。

■ 到達目標

1. 大脳機能を理解することができる。
2. 各々の高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができる。
3. 各々の高次脳機能障害について、検査方法や特徴的な治療方法が分かる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高脳機能障害の概要
- 第2回 注意障害
- 第3回 半側空間無視
- 第4回 その他の失認
- 第5回 記憶障害
- 第6回 失行
- 第7回 失語
- 第8回 前頭葉障害・遂行機能障害

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）60%】小テスト 20% レポート・報告 20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の復習をすること。20分以上は必要である。小テストを実施する。

■ 教科書

書 名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）
 著者名：能登真一
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ①基礎知識のエッセンス
 著者名：山鳥重ほか
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

欠席に気をつけること

■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅱ				
担当者	掛川 泰朗（実務経験者）				
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

高次脳機能障害学Ⅰを基に作業療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害の検査方法を講義やグループワークで学ぶ。

■ 到達目標

1. 各高次脳機能障害の検査方法を理解できる。
2. 各高次脳機能障害の検査を抽出できる。
3. 各高次脳機能障害の特徴を理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・高次脳機能障害の概要・認知機能の検査（HDS-R・MMSE）
- 第2回 注意の評価（TMT・かな拾いテスト）
- 第3回 注意の評価（CAT）
- 第4回 半側空間無視の検査（BIT）
- 第5回 記憶の検査（リバーミード行動記憶検査）
- 第6回 失行の検査（高次動作性検査）
- 第7回 構成障害の検査（コース立方体検査）
- 第8回 遂行機能の検査（WCST・BADS）

■ 評価方法

【科目試験（レポート）60%】発表20% 小テスト20% 授業中の居眠り、私語をするごとに-5点を減点する

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

高次脳機能障害Ⅰの復習をしておく様に。1回につき20分以上はかかる。レポートに表せるように文献を読むこと。

■ 教科書

書 名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）
 著者名：能登真一
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害マエストロシリーズ③リハビリテーション評価
 著者名：鈴木孝治ほか
 出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

授業科目	高次脳機能障害学Ⅲ				
担当者	掛川 泰朗（実務経験者）				
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

高次脳機能障害の各総合検査について、目的を理解し、演習を通して実習技術を習得し、結果より症状をまとめ、障害機序に沿った治療プログラムを立案できるようになる。

■ 到達目標

1. 高次脳機能の検査について解釈ができる。
2. 総合検査結果から症状を分析し、障害機序について考察できるようになる。
3. 障害機序に対応したリハビリテーションプログラムを立案できるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 高次脳機能評価～治療の説明
- 第2回 症例検討1
- 第3回 症例検討発表
- 第4回 症例検討発表と解説
- 第5回 症例検討2
- 第6回 症例検討
- 第7回 症例検討と解説
- 第8回 臨床での高次脳機能障害とまとめ

■ 評価方法

【科目試験（レポート）50%】 報告・発表点50% 授業中の居眠り、私語をするごとに-5点を減点する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

高次脳機能障害学ⅠとⅡで学んだ各高次脳機能障害の症状・評価方法・アプローチ方法を復習しておくこと。

■ 教科書

書 名：高次脳機能作業療法学（標準作業療法学）
 著者名：能登真一
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：高次脳機能障害のリハビリテーション [DVD 付き] 実践的アプローチ
 著者名：本田哲三
 出版社：医学書院

■ 留意事項

欠席・遅刻に注意すること。意欲的に授業に参加すること。

■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

授業科目	作業療法概論				
担当者	辻 郁 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法は人生活機能の改善・向上や活動性の発達・拡大を通して、社会参加の可能性を引き出す働きかけをする。本科目では講義、グループ学習を通して作業療法の基礎を学ぶ

■ 到達目標

- 1) 作業療法実践の枠組みがわかる
- 2) 作業療法実践の実際がわかる
- 3) 作業療法を専門用語を使って説明できる

■ 授業計画

- 第1回 「作業」とは -作業療法にとっての「作業」の意味 作業と作業療法
 第2回 「作業」とは -作業療法にとっての「作業」の意味 作業療法の定義
 第3回 作業療法の原理
 第4回 リハビリテーションの歴史と作業療法
 第5回 作業療法の領域 作業療法の現場
 第6回 世界の作業療法
 第7回 作業療法の理論
 第8回 作業療法の理論
 第9回 作業療法の過程
 第10回 作業療法の過程
 第11回 作業療法の教育
 第12回 作業療法の記録と報告
 第13回 医療福祉制度と作業療法部門の管理・運営
 第14回 作業療法の実際
 第15回 作業療法の実際まとめと報告

■ 評価方法

小テスト (20%)、【科目試験 (筆記試験)】 (80%)
 講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業終了後のノート整理、小テストの事前学習に十分取り組むこと

■ 教科書

書 名：標準作業療法学・専門分野「作業療法概論」
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：作業療法学全書・改訂版「作業療法評価学」
出版社：協同医書出版社

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理に留意すること 教科書を読む ノートをとる わからない点は積極的に質問する

■ 講義受講にあたって

最初の専門科目ですから、興味を持って授業に臨んで下さい。作業療法には分かりづらい或いは説明しづらい点もたくさんありますが、この科目を学ぶことによって作業療法を具体的に理解していきましょう。

授業科目	作業療法総合演習 I				
担当者	辻 郁, 足立 一, 井口 知也, 掛川 泰朗, 林部 美紀, 山田 隆人, 吉田 文 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後, 医療機関, 保健行政で作業療法を実践してきた. 特に保健行政では, 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害, 一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

相互関係学習システムを用いて, 学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し, 同時にリーダーシップ力を修得する.

特に本科目では, 積極的かつ主体的な学生生活を送り, 学生間での情報交換・交流を図ることで本専攻の独自の自己啓発活動を学ぶ

■ 到達目標

- ① リーダーシップに必要な知識と技術を一部修得できている
- ② 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている
- ③ 積極的・主体的な学生生活を送っている

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション グループ分け
- 第2回 作業療法専攻紹介媒体作成 計画
- 第3回 作業療法専攻紹介媒体作成
- 第4回 作業療法専攻紹介媒体作成
- 第5回 作業療法専攻紹介媒体相互フィードバック
- 第6回 地域の施策を知ろう 1
- 第7回 地域の施策を知ろう 2
- 第8回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう 作成計画
- 第9回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう
- 第10回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう
- 第11回 プログラム相互評価
- 第12回 グループ別学習会 1
- 第13回 グループ別学習会 2
- 第14回 一斉試験
- 第15回 試験見直し

■ 評価方法

毎回提出されるレポート 100%、公欠以外の欠席は1回につき5点減点

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

時間内に達成できなかった内容を完成させる
指摘された重要事項を復習する
次回の課題遂行に必要な情報を収集し, 資料等の準備を行う

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく

■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

授業科目	作業療法総合演習Ⅱ				
担当者	辻 郁, 足立 一, 井口 知也, 掛川 泰朗, 林部 美紀, 山田 隆人, 吉田 文 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後, 医療機関, 保健行政で作業療法を実践してきた. 特に保健行政では, 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害, 一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

相互関係学習システムを用いて, 学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し, 同時にリーダーシップ力を修得する.
特に本科目では, 積極的かつ主体的に活動を推進する役割をもつ

■ 到達目標

- ① リーダーシップに必要な知識と技術を一部修得できている
- ② 学年を越えた学生間の情報交換・交流が来ている
- ③ 積極的・主体的に活動を進めることができている

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション グループ分け
- 第2回 作業療法専攻紹介媒体作成 計画
- 第3回 作業療法専攻紹介媒体作成
- 第4回 作業療法専攻紹介媒体作成
- 第5回 作業療法専攻紹介媒体相互フィードバック
- 第6回 地域の施策を知ろう1
- 第7回 地域の施策を知ろう2
- 第8回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう 作成計画
- 第9回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう
- 第10回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう
- 第11回 プログラム相互評価
- 第12回 グループ別学習会1
- 第13回 グループ別学習会2
- 第14回 一斉試験
- 第15回 試験見直し

■ 評価方法

毎回提出されるレポート 100%、公欠以外の欠席は1回につき5点減点

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

時間内に達成できなかった内容を完成させる
指摘された重要事項を復習する
次回の課題遂行に必要な情報を収集し, 資料等の準備を行う

■ 教科書

書 名: 不要

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく

■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

授業科目	作業療法総合演習Ⅲ				
担当者	辻 郁, 足立 一, 井口 知也, 掛川 泰朗, 林部 美紀, 山田 隆人, 吉田 文 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後, 医療機関, 保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では, 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害, 一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

相互関係学習システムを用いて, 学年を越えてグループで課題に取り組むことでコミュニケーションネットワークを経験し, 同時にリーダーシップ力を修得する。

特に本科目では, グループ活動を俯瞰的に把握し, 積極的かつ主体的に活動を推進する役割をもつ

■ 到達目標

- ① リーダーシップに必要な知識と技術を一部修得できている
- ② 学年を越えた学生間の情報交換・交流が出来ている
- ③ 活動の進行状況を総合客観的に捉えて実効ある活動進行が出来ている

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション グループ分け
- 第2回 作業療法専攻紹介媒体作成 計画
- 第3回 作業療法専攻紹介媒体作成
- 第4回 作業療法専攻紹介媒体作成
- 第5回 作業療法専攻紹介媒体相互フィードバック
- 第6回 地域の施策を知ろう1
- 第7回 地域の施策を知ろう2
- 第8回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう 作成計画
- 第9回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう
- 第10回 健康増進に向けた作業療法プログラムを作成しよう
- 第11回 プログラム相互評価
- 第12回 グループ別学習会1
- 第13回 グループ別学習会2
- 第14回 一斉試験
- 第15回 試験見直し

■ 評価方法

毎回提出されるレポート 100%、公欠以外の欠席は1回につき5点減点

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

時間内に達成できなかった内容を完成させる
指摘された重要事項を復習する
次回の課題遂行に必要な情報を収集し, 資料等の準備を行う

■ 教科書

書 名: 不要

■ 参考図書

■ 留意事項

学年を越えたグループ学習であることを念頭に置き、チームビルディング 授業時間外の学習は設定してあるが、可能な限り時間内に達成させ、課題が生じる場合は、具体的な課題内容と達成時期を明確にしておく

■ 講義受講にあたって

各回の授業で何をするのかを十分把握した上で物品や設備、テキストなど十分な準備をすること

授業科目	作業分析学				
担当者	足立一（実務経験者）、林部美紀（実務経験者）、大谷将之（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	実務経験者：足立一、大谷将之は、AMPS（作業遂行能力に関する評価法）認定評価者であり、現場で実践経験がある。 実務経験者：林部美紀はメイクセラピストであり、足立一と共に障害者の身だしなみ講座等の実践経験がある。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業分析の方法を講義し、様々な作業を体験し、演習を行う。作業分析の観点から人の生活技能の観察体験を行う。足立一（実務経験者）、林部美紀（実務経験者）、大谷将之（実務経験者）

■ 到達目標

作業活動を構造的に捉え、分析することができる。作業分析が作業療法にいかに関与するかを理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業とは？（実務経験者：足立一）
- 第2回 工程の分析 理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第3回 動作の分析 理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第4回 運動の分析 理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第5回 運動の分析 理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第6回 認知の分析 理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第7回 メイクアップ体験と作業分析（実務経験者：足立一 林部美紀）
- 第8回 メイクアップ体験と作業分析（実務経験者：足立一 林部美紀）
- 第9回 メイクアップ体験と作業分析（実務経験者：足立一 林部美紀）
- 第10回 ADL 課題分析（実務経験者：足立一）
- 第11回 ADL 課題分析（実務経験者：足立一）
- 第12回 IADL 課題分析の演習（実務経験者：足立一）
- 第13回 IADL 課題分析の演習（実務経験者：足立一）
- 第14回 作業遂行技能の観察体験（実務経験者：大谷将之）
- 第15回 作業遂行技能の観察体験（実務経験者：大谷将之）

■ 評価方法

レポート課題80% 小テスト20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の進行に合わせてその予習復習を促す。
授業時間内で遂行できる程度のレポート課題と小テストを行うが、できなかった場合は宿題とする。

■ 教科書

書 名：メイクセラピー入門（3級対策）
著者名：岩井結美子
出版社：一般社団法人メイクセラピストジャパン メイクセラピー検定事務局

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

1年次の解剖学の予習復習をしておくように

授業科目	集団作業療法学				
担当者	足立一（実務経験者）、平河真未（実務経験者）、楠本涼介（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	足立一（実務経験者）、平河真未（実務経験者）、楠本涼介（実務経験者）は、医療福祉機関で勤務し、集団作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

教科書を中心とした集団活動の理論と実践を行う。集団作業療法実践報告。
足立一（実務経験者）、平河真未（実務経験者）、楠本涼介（実務経験者）

■ 到達目標

集団作業療法実践に必要な基本的技術を習得する。ウォーミングアップ指導ができるようになる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 集団の定義と構造（実務経験者：足立一）
- 第2回 集団作業療法の治療因子（実務経験者：足立一）
- 第3回 発達の観点からの集団の捉え方（実務経験者：足立一）
- 第4回 様々な集団治療（実務経験者：足立一）
- 第5回 様々な集団治療（実務経験者：足立一）
- 第6回 様々な集団精神療法（実務経験者：足立一）
- 第7回 様々な集団精神療法（実務経験者：足立一）
- 第8回 集団での介護予防（実務経験者：足立一）
- 第9回 集団での認知リハ・脳トレ（実務経験者：足立一）
- 第10回 集団作業療法の理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第11回 集団作業療法の理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第12回 集団作業療法の理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第13回 集団作業療法の理論と演習（実務経験者：足立一）
- 第14回 集団作業療法の実際（実務経験者：平河真未）
- 第15回 集団作業療法の実際（実務経験者：楠本涼介）

■ 評価方法

レポート課題80% 小テスト20%
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の進行に合わせてその予習復習を促す。
授業時間内で遂行できる程度のレポート課題と小テストを行うが、できなかった場合は宿題とする。

■ 教 科 書

書 名：Brain Gym?101
著者名：ポール・E・デニソン ゲイル・E・デニソン 翻訳：石丸賢一
出版社：日本教育キネシオロジー協会

■ 参考図書

--

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

毎時間実技を行うため、動きやすい服装で参加すること。

授業科目	作業療法研究法				
担当者	井口知也（実務経験者）				
実務経験者の概要	学会および学術誌での研究の報告がある。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法の発展を支えるのは研究であることを理解し、研究に必要な基礎知識を学ぶ。また、演習を通じて、卒業論文実施計画書を作成する技術を身につける。各論の個々の内容は目標を参照。
井口知也（実務経験者）

■ 到達目標

- 1) 研究疑問を立て、研究を進める方法を理解する
- 2) 研究の種類やデザインを理解する
- 3) 研究計画の具体的な手順を学び、実践することができる

■ 授業計画

- 第1回 作業療法研究法の概論：井口知也（実務経験者）
- 第2回 研究とは何をするのか：井口知也（実務経験者）
- 第3回 研究の種類と論文構成：井口知也（実務経験者）
- 第4回 研究に関わる基礎知識：井口知也（実務経験者）
- 第5回 研究論文の発表と手続き：井口知也（実務経験者）
- 第6回 実際の作業療法研究事例について：井口知也（実務経験者）
- 第7回 研究疑問の立て方と解決法：井口知也（実務経験者）
- 第8回 文献検索（演習）：井口知也（実務経験者）
- 第9回 文献検索（演習）：井口知也（実務経験者）
- 第10回 研究計画の報告①：井口知也（実務経験者）
- 第11回 研究計画の報告②：井口知也（実務経験者）
- 第12回 研究計画書の作成（演習）：井口知也（実務経験者）
- 第13回 研究計画書の作成（演習）：井口知也（実務経験者）
- 第14回 研究計画書の作成（演習）：井口知也（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポート：80%，取り組み態度：20%（欠席，遅刻早退も評価される）

なお，欠席，遅刻早退は減点対象（無断遅刻・無断欠席は-10点、事前連絡のある遅刻・欠席は-5点とする）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際，前回の内容に関する確認をしたり，レポートを提出する。また，講義前に予習として教科書を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。

■ 講義受講にあたって

「作業療法研究(卒業研究)」で必要になる研究計画書や研究活動などの基礎知識を「作業療法研究法」でしっかりと学習する。

授業科目	作業療法評価学概論				
担当者	辻 郁 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

講義により、作業療法評価の枠組みを学習する
演習によって生活機能の把握方法を学ぶ

■ 到達目標

- 1) 作業療法評価とは何かを説明できる
- 2) 作業療法評価の過程を説明できる
- 3) 作業療法評価における記録と責任について説明できる
- 4) 面接、観察による情報収集のポイントがわかる
- 5) 意識やバイタルサインについて理解する

■ 授業計画

- 第1回 作業療法と評価 評価とは
- 第2回 記録と報告の意義と特徴
- 第3回 作業療法の効果判定
- 第4回 面接による情報収集
- 第5回 観察による情報収集
- 第6回 身体機能検査による情報収集
- 第7回 身体機能検査による情報収集
- 第8回 意識の評価、バイタルサイン

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】80% 実技試験20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

テキストの該当ページを必ず読みおおよその理解をしておくこと
授業終了後はノートを整理し直し、わからないことや興味があることは調べておくこと

■ 教科書

書 名：作業療法評価学
著者名：岩崎テル子編集
出版社：医学書院

書 名：DVD シリーズ1 PT・OTのための測定評価 第2版 ROM測定
著者名：福田 修(監修)
出版社：三輪書店

■ 参考図書

■ 留意事項

欠席しないように日頃の健康管理につとめる 授業には主体的に参加する
メジャーやゴニオメーター，聴診器を使用するので忘れないようにする
演習があるので，動きやすい服装で参加する

■ 講義受講にあたって

作業療法士として，対象者を深く理解する第一歩になる評価学の第一歩です。つまり，基礎の基礎ですから，この科目で作業療法評価とは何か，実際にどのように進めるのかを習得しましょう

授業科目	作業療法評価学 I				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)				
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法評価で用いる検査・測定にはどのようなものがあるのかを知り、その方法を実技によって学ぶ。

■ 到達目標

1. 作業療法場面で用いる検査・測定が理解できる。
2. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で実施できる (オリエンテーション・フィードバックを含む)。
3. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で判断し、正確に記載することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・ランドマークや運動方向の確認
関節可動域測定 (上肢)
- 第2回 関節可動域測定 (上肢・下肢)
- 第3回 関節可動域測定 (下肢・体幹・頸部)
- 第4回 関節可動域測定 (手指)
- 第5回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第6回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第7回 徒手筋力テスト (下肢)
- 第8回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第9回 徒手筋力テスト (体幹・頸部)
- 第10回 運動麻痺の検査
- 第11回 実技試験 (第1回～第10回)
- 第12回 反射検査・筋緊張の検査・握力とピンチ力
- 第13回 上肢機能検査・バランス検査・感覚検査
- 第14回 脳神経検査
- 第15回 実技試験 (第12回～第14回)

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、【科目試験 (筆記試験)】40%、実技試験40%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内で全てを網羅することは困難である。そのため、解剖学、生理学、運動学の知識の整理、復習を行なっておくこと。レポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

書名：作業療法評価学 第3版

著者名：矢谷玲子監修

出版社：医学書院

書名：新・徒手筋力検査法 第9版

著者名：Helen J.Hislop, Dale Avers ら

出版社：共同医書出版

書名：ROM測定 第2版（PT・OTのための測定評価DVDシリーズ1）

著者名：福田修監修

出版社：三輪書店

■ 参考図書

書名：動画で学ぶ関節可動域測定法 ROMナビ 増補改訂2版

著者名：青木主税ら

出版社：round Flat

■ 留意事項

欠席・遅刻に注意すること。正確な実技と記載を心がけること。

■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

授業科目	作業療法評価学Ⅱ				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)・吉田文 (実務経験者)・林部美紀 (実務経験者)			(オムニバス)	
実務経験者の概要	身体障害・精神障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域のそれぞれの作業療法対象者の特徴を講義や動画などで学ぶ。また、事例を検討しながら評価から統合と解釈の流れを学ぶ。

■ 到達目標

1. 身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域の作業療法対象者の特徴が理解できる。
2. 面接・観察・情報収集・検査測定の実施方法が分かる。
3. 全体像が分かる (ICF で整理し、情報を統合し解釈できる)。
4. 作業療法ニーズが抽出でき、その理由を説明できる。
5. 作業療法計画 (長期・短期目標、具体的なプログラム) が立案できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法過程の復習
ICF 分類と作業療法評価項目について
- 第2回 事例による ICF の図を作成する
- 第3回 身体障害の特徴説明
身体障害の評価計画
- 第4回 身体障害の評価 (観察・情報収集・面接・検査測定)
- 第5回 身体障害の評価 (検査測定)
- 第6回 身体障害の評価 (検査測定・観察)
- 第7回 身体障害の統合と解釈 (ICF で整理)
- 第8回 身体障害の統合と解釈 (問題点の焦点化と ICF で整理・目標設定)
- 第9回 身体障害の統合と解釈 (作業療法プログラム立案・統合と解釈)
- 第10回 身体障害の統合と解釈 (統合と解釈)
- 第11回 精神障害の特徴説明
- 第12回 精神障害の分析
- 第13回 精神障害の統合と解釈
- 第14回 発達障害の特徴説明
- 第15回 発達障害の分析・統合と解釈

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域それぞれ、【科目試験 (筆記試験)】50%、レポート・報告40%、態度10% として評価する。合格は60% 以上とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

各領域の授業について予習を行っておくこと (指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと)。次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。指定されたレポートについては必ず期日までに提出すること。

■ 教科書

書名：標準作業療法学(専門分野)作業療法評価学

著者名：岩崎テル子 他(編集)

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

他者に説明できるまで、調べて熟考すること。わからないままにしないこと。欠席遅刻に注意すること。

■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

授業科目	身体障害治療学 I				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)				
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体障害の作業療法の概要やアプローチを学ぶ。中枢疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、中枢疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。中枢疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 身体障害の作業療法の概要やアプローチ方法を理解できる。
2. 中枢疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
3. 中枢疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
4. 中枢疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 身体障害作業療法の概論・様々な身体障害の作業療法アプローチ
- 第2回 脳卒中の概要
- 第3回 脳卒中の作業療法評価
- 第4回 脳卒中の作業療法評価
- 第5回 脳卒中の作業療法評価アプローチ
- 第6回 頭部外傷・運動失調 (検査含む)
- 第7回 脊髄損傷の概要
- 第8回 脊髄損傷の概要
- 第9回 脊髄損傷の作業療法評価
- 第10回 脊髄損傷の作業療法評価
- 第11回 脊髄損傷の作業療法アプローチ
- 第12回 中枢疾患の事例検討
- 第13回 中枢疾患の事例検討
- 第14回 中枢疾患の事例検討 発表
- 第15回 痛みの評価

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、【科目試験 (筆記試験)】60%、小テスト20%、レポート・報告20% として評価する。合格は60% 以上とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、解剖学・生理学・運動学や中枢疾患の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間が30分以上必要である。授業後のレポート課題は必ず提出すること

■ 教科書

書名：標準作業療法学 - 専門分野 身体機能作業療法学
著者名：編集：岩崎テル子他
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第2版
著者名：二瓶隆一ら 編著
出版社：協同医書出版社

書名：第3版 リハビリ実践テクニック 脳卒中
著者名：千田 富義, 高見彰淑 編集
出版社：メジカルビュー社

書名：動画でわかる 摂食・嚥下リハビリテーション
著者名：藤島一郎, 柴本 勇 監修
出版社：中山書店

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。実技のある日はジャージ着用のこと。

■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

授業科目	身体障害治療学Ⅱ				
担当者	林部 美紀 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士として病院に勤務していた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

内部障害・神経筋疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法に応じて痰の吸引や実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 内部障害・神経筋疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 内部障害・神経筋疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 内部障害・神経筋疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・内部障害の概要・心疾患の概要
- 第2回 心疾患の作業療法評価
- 第3回 心疾患の作業療法アプローチ
- 第4回 呼吸器疾患の概要と作業療法評価
- 第5回 呼吸器疾患の作業療法アプローチ
- 第6回 痰の吸引
- 第7回 糖尿病の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第8回 がんの概要・作業療法評価とアプローチ
- 第9回 神経筋疾患の概要
- 第10回 パーキンソン評価と作業療法アプローチ
- 第11回 脊髄小脳変性症・ギランバレー・筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症の概要と作業療法評価とアプローチ
- 第12回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第13回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第14回 呼吸器疾患の作業療法評価とアプローチ例
- 第15回 がんの作業療法評価とアプローチ例

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験)】60%、小テスト20%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格 (留年) とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、それぞれの疾患に関係する解剖学・生理学・運動学や疾患の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

書名：標準作業療法学-専門分野 身体機能作業療法学 第3版

著者名：矢谷 令子監修

出版社：医学書院

書名：作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション

著者名：石川 朗

出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：心臓リハビリテーション

著者名：上田正博

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：がんのリハビリテーションガイドライン

著者名：公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会

出版社：金原出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。実技のある日はジャージ着用のこと。

■ 講義受講にあたって

小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。

授業科目	身体障害治療学Ⅲ				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士として病院に勤務していた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

整形外科疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。手の整形外科疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。整形外科疾患ごとの作業療法に応じて実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 整形外科疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 整形外科疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 整形外科疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・手のROM, 手のMMT
- 第2回 手の骨折の概要
- 第3回 手の骨折の作業療法評価とアプローチ
- 第4回 末梢神経障害の概要
- 第5回 末梢神経障害の作業療法評価とアプローチ
- 第6回 関節リウマチの概要
- 第7回 関節リウマチの作業療法評価とアプローチ
- 第8回 腱損傷の概要
- 第9回 腱損傷の・作業療法評価とアプローチ
- 第10回 熱傷と切断の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第11回 大腿骨頸部骨折の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第12回 変形性膝関節症の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第13回 手の整形外科疾患の症例検討
- 第14回 手の整形外科疾患の症例検討
- 第15回 手の整形外科の作業療法評価とアプローチ例

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】60%、小テスト20%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、各疾患に共通する解剖学・運動学や整形外科の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。

■ 教科書

書名：標準作業療法学-専門分野 身体機能作業療法学 第3版

著者名：矢谷 令子監修

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：臨床ハンドセラピー

著者名：文光堂

出版社：坪田貞子

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。

■ 講義受講にあたって

実技の際は袖を捲り上げやすい服装とバスタオルを持参のこと。小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。

授業科目	精神障害治療学 I				
担当者	足立一（実務経験者）、上原央（実務経験者）、南庄一郎（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	足立一（実務経験者）、上原央（実務経験者）、南庄一郎（実務経験者）は、精神医療司法機関で勤務し、精神障害者を対象とした作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

教科書及び配布資料を用いた講義と演習。

足立一（実務経験者）、上原央（実務経験者）、南庄一郎（実務経験者）

■ 到達目標

精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的視点を理解し、その介入方法を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 精神科作業療法の歴史（実務経験者：足立一）
- 第2回 精神症状の基礎知識（実務経験者：足立一）
- 第3回 精神科治療とリハビリテーション（実務経験者：足立一）
- 第4回 統合失調症の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）
- 第5回 統合失調症の作業療法（回復過程）（実務経験者：足立一）
- 第6回 統合失調症の作業療法（評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第7回 器質性精神障害の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）
- 第8回 器質性精神障害の作業療法（評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第9回 精神作用物質による精神および行動の障害（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）
- 第10回 精神作用物質による精神および行動の障害（評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第11回 認知行動療法 SST（実務経験者：足立一）
- 第12回 認知作業療法（実務経験者：上原央）
- 第13回 認知作業療法（実務経験者：上原央）
- 第14回 作業療法の実際（実務経験者：上原央）
- 第15回 作業療法の実際（実務経験者：南庄一郎）

■ 評価方法

レポート課題40% 小テスト60%

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

非常勤講師の授業終了後はレポート課題に取り組みその内容を復習する。

その他の授業については、教科書に基づき、その内容を予習復習し、達成度を小テストで確認する。

■ 教科書

書 名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2精神障害

著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集

出版社：協同医書出版社

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学

著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

2年次で学習した精神医学を見直しておくこと。

授業科目	精神障害治療学Ⅱ				
担当者	足立一（実務経験者）・松田匡弘（実務経験者）・芳賀大輔（実務経験者）・ 櫛田理彩（実務経験者）・南庄一郎（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	足立一（実務経験者）、松田匡弘（実務経験者）、芳賀大輔（実務経験者）、櫛田理彩（実務経験者）、南庄一郎（実務経験者）は、精神医療福祉機関で勤務し、精神障害者を対象とした作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

教科書及び配布資料を用いた講義と演習。作業療法実践報告

足立一（実務経験者）、松田匡弘（実務経験者）、芳賀大輔（実務経験者）、櫛田理彩（実務経験者）、南庄一郎（実務経験者）

■ 到達目標

精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的知識と技術を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 気分感情障害の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）
- 第2回 気分感情障害の作業療法（評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第3回 神経症性障害の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）
- 第4回 神経症性障害の作業療法（評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第5回 人格障害・摂食障害の作業療法（疾患の基礎）（実務経験者：足立一）
- 第6回 人格障害・摂食障害の作業療法（評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第7回 てんかんの作業療法（疾患の基礎、評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第8回 発達障害の作業療法（疾患の基礎、評価と治療、留意点）（実務経験者：足立一）
- 第9回 精神科作業療法評価 まとめ（実務経験者：足立一）
- 第10回 就労支援と作業療法（実務経験者：足立一）
- 第11回 就労支援と作業療法（実務経験者：足立一）
- 第12回 作業療法の実際（実務経験者：松田匡弘）
- 第13回 作業療法の実際（実務経験者：芳賀大輔）
- 第14回 作業療法の実際（実務経験者：櫛田理彩）
- 第15回 作業療法の実際（実務経験者：南庄一郎）

■ 評価方法

レポート課題40% 小テスト60%

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

非常勤講師の授業終了後はレポート課題に取り組みその内容を復習する。

その他の授業については、教科書に基づき、その内容を予習復習し、達成度を小テストで確認する。

■ 教科書

書名：作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2 精神障害
著者名：社団法人日本作業療法士協会監修 富岡詔子・小林正義編集
出版社：協同医書出版社

書名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
著者名：奈良勲 鎌倉矩子 監修
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

2年次で学習した精神医学を見直しておくこと。

授業科目	発達障害治療学Ⅰ				
担当者	小林哲理（実務経験者）				
実務経験者の概要	発達障害児・者を対象とした児童療育機関等に勤務し、発達障害児・者を対象とした作業療法の経験を有する				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

子どもの生活における遊びや作業課題全般への関わりをもつ視点で、発達障害領域の作業療法を学習する。

■ 到達目標

感覚・知覚・認知・行動の発達と障害との相互関係が説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、イントロダクション（発達障害領域の作業療法）
- 第2回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景①（粗大運動・微細運動）
- 第3回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景②（口腔運動発達）
- 第4回 子どもの発達と作業療法Ⅰ 姿勢・運動発達とその背景③（正常筋緊張、原始反射の統合と立ち直り平衡反応の出現）
- 第5回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達①
- 第6回 子どもの発達と作業療法Ⅱ 感覚統合機能の発達②
- 第7回 子どもの発達と作業療法Ⅲ 認知・思考機能の発達
- 第8回 子どもの発達と作業療法Ⅳ コミュニケーション機能の発達
- 第9回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び①
- 第10回 子どもの発達と作業療法Ⅴ 子どもの心理・社会的発達と遊び②
- 第11回 子どもの発達と作業療法Ⅵ 子どもの心理・社会的発達とセルフケア
- 第12回 発達障害領域の作業療法評価Ⅰ（評価の焦点、流れ、情報収集および面接・観察の視点）
- 第13回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査①）
- 第14回 発達障害領域の作業療法評価Ⅱ（発達像を把握するための検査②）
- 第15回 発達障害領域の作業療法評価Ⅲ（評価結果と障害構造の分析）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】（70%）、レポート・小テスト等提出課題（30%）
講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業前に教科書の該当箇所を読み、授業における習得目標を明確にする。復習：授業で行った教科書やプリントに目を通す。該当箇所の国家試験問題を解く。授業で指定した課題等に取り組む。

■ 教科書

書 名：作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学（第2版）
著者名：監修：長崎重信 編集：神作一実
出版社：株式会社 メジカルビュー社

■ 参考図書

書名：発達障害の作業療法 基礎編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

書名：発達障害の作業療法 実践編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

■ 留意事項

発達分野への就職を考える方は参考図書を購入し授業の該当箇所を読むことをお勧めします。

次期に行う発達障害治療学Ⅱは、発達障害治療学Ⅰで学んだ知識や技術が前提となります。

■ 講義受講にあたって

授業科目	発達障害治療学Ⅱ				
担当者	小林哲理(実務経験者)				
実務経験者の概要	発達障害児・者を対象とした児童療育機関等に勤務し、発達障害児・者を対象とした作業療法の経験を有する				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

発達障害治療学Ⅰの講義を踏まえて、疾患、障害、年齢別に作業療法における援助技法を学習・演習する。

■ 到達目標

発達障害領域の作業療法の実際について教科書とモデル事例を通じて理解する。
障害のある子どもの遊びや作業を可能にする援助技法の基本を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 疾患・障害別発達障害領域作業療法の実際(感覚統合機能、姿勢と運動及び心理・社会的機能へのアプローチ概論)①
- 第2回 疾患・障害別発達障害領域作業療法の実際(感覚統合機能、姿勢と運動及び心理・社会的機能へのアプローチ概論)②
- 第3回 脳性麻痺①
- 第4回 脳性麻痺②
- 第5回 脳性麻痺③
- 第6回 脳性麻痺④
- 第7回 重症心身障害
- 第8回 二分脊椎
- 第9回 筋ジストロフィー
- 第10回 知的障害・Down症候群
- 第11回 発達障害概論
- 第12回 発達障害-広汎性発達障害
- 第13回 発達障害-注意欠陥多動症
- 第14回 発達障害-学習障害
- 第15回 家庭生活支援 ペアレントトレーニング、障害児の子育て支援

■ 評価方法

【科目試験(筆記試験)】(70%)、小テスト・レポート等提出解題(30%)
講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

予習:授業前に教科書の該当箇所を読み、授業における習得目標を明確にする
復習:授業該当箇所の教科書を読む。指定したプリントやレポート課題等に取り組む。該当箇所の国家試験問題を解く。授業で触れた治療方法を練習してみる

■ 教科書

書名:作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学(第2版)
著者名:監修:長崎重信 編集:神作一実
出版社:株式会社 メジカルビュー社

■ 参考図書

書名：発達障害の作業療法 基礎編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

書名：発達障害の作業療法 実践編（第2版）

著者名：編集：鎌倉矩子、山根寛、二木淑子 著者：岩崎清隆、岸本光夫

出版社：三輪書店

■ 留意事項

この授業は、発達障害治療学Ⅰの知識を前提としております。事前に、発達障害Ⅰの授業で行った教科書の該当箇所を目を通してから授業に臨んでください。

■ 講義受講にあたって

授業科目	老年期障害治療学 I				
担当者	井口知也（実務経験者），森本かえで（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者へ健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供 森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期～高齢期の方への就労支援プログラムを提供				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

高齢者の加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する基礎知識を学ぶ。老年期特有の障害に対する作業療法アプローチの概要やマネジメントを教授する。各論の個々の内容は目標を参照。井口知也（実務経験者），森本かえで（実務経験者）

■ 到達目標

- 1) 高齢者が生きてきた時代背景と社会の推移を理解する。
- 2) 高齢者の心身機能、その特性について理解する。
- 3) 老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、それらに対する具体的援助を考えられる。
- 4) 老年期作業療法で活用できる検査・測定方法を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 高齢社会に伴う諸問題：井口知也（実務経験者）
 第2回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について1：井口知也（実務経験者）
 第3回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について2：井口知也（実務経験者）
 第4回 高齢期の特徴1：井口知也（実務経験者）
 第5回 高齢期の特徴2：井口知也（実務経験者）
 第6回 介護保険制度：井口知也（実務経験者）
 第7回 老年期作業療法の実践（基本的枠組み）：井口知也（実務経験者）
 第8回 老年期作業療法の実践（特定高齢者，一般高齢者について）：井口知也（実務経験者）
 第9回 老年期障害のマネジメント1：井口知也（実務経験者）
 第10回 老年期障害のマネジメント2：森本かえで（実務経験者）
 第11回 老年期疾患別作業療法（認知症）①：井口知也（実務経験者）
 第12回 老年期疾患別作業療法（認知症）②：井口知也（実務経験者）
 第13回 老年期疾患別作業療法（整形疾患）：井口知也（実務経験者）
 第14回 老年期疾患別作業療法（中枢神経疾患）：井口知也（実務経験者）
 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する
 レポートおよび発表 40%，【科目試験（筆記試験）】60%とするが、いずれも60%以上ないと合格としない。
 なお、欠席、遅刻早退は減点対象（無断遅刻・無断欠席は-10点、事前連絡のある遅刻・欠席は-5点とする）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関する発表をしたり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする。

■ 教科書

書名：高齢期障害領域の作業療法 第2版
著者名：山田 孝 編集
出版社：中央法規

■ 参考図書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期
著者名：村田 和香 編集
出版社：協同医書出版社

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学
著者名：太田 睦美
出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法 第2版
著者名：小川 敬之, 竹田 徳則 編集
出版社：歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。

■ 講義受講にあたって

「老年期障害治療学Ⅰ」は「老年期障害治療学Ⅱ」「作業療法治療学実習ⅠⅡ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習ⅠⅡ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

授業科目	老年期障害治療学Ⅱ				
担当者	井口知也（実務経験者），森本かえで（実務経験者），熊野宏治（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	井口知也：身体障害領域の病院と高齢者施設で青年期～高齢期の方への作業療法を担当、地域在住高齢者へ健康増進と認知症予防、就業プログラムを提供 森本かえで：高齢者施設で高齢期の方への外来作業療法と訪問リハビリテーションを担当、精神科病院で青年期～高齢期の方への就労支援プログラムを提供 熊野宏治（実務経験者）：身体障害領域の病院で青年期～高齢期の方への整形疾患，呼吸器疾患，がんなどの作業療法を担当				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

高齢者の特性に合わせた評価の方法，高齢者に対して使用頻度の高い生活評価，身体機能評価，認知機能評価，心理機能評価の実施方法などについて演習を実施する．評価から得られた情報をもとに全体像を把握する方法を学び，個々の文脈に沿った意味ある作業を提供し実践できる手だてを教授する．各論の個々の内容は目標を参照．

井口知也（実務経験者），森本かえで（実務経験者），熊野宏治（実務経験者）

■ 到達目標

- 1) 老年期での作業療法実践に必要な知識と技術の習得を目指す．
- 2) 高齢者を対象とした作業療法プログラムを立案できる．

■ 授業計画

- 第1回 老年期障害治療学Ⅰの振り返りと老年期障害治療学Ⅱのオリエンテーション：井口知也（実務経験者）
- 第2回 老年期作業療法の実際（プロセス）：井口知也（実務経験者）
- 第3回 老年期作業療法の実際（検査測定）：井口知也（実務経験者）
- 第4回 老年期作業療法の実際（計画立案と実施，再考）①：井口知也（実務経験者）
- 第5回 老年期作業療法の実際（計画立案と実施，再考）②：井口知也（実務経験者）
- 第6回 入所系サービスにおける作業療法：井口知也（実務経験者）
- 第7回 施設系サービスにおける作業療法：井口知也（実務経験者）
- 第8回 通所，訪問系における作業療法：森本かえで（実務経験者）
- 第9回 認知症高齢者に対する事例検討1：井口知也（実務経験者）
- 第10回 認知症高齢者に対する事例検討2：井口知也（実務経験者）
- 第11回 中枢神経疾患に対する事例検討1：井口知也（実務経験者）
- 第12回 中枢神経疾患に対する事例検討2：井口知也（実務経験者）
- 第13回 整形疾患，がんに対する事例検討1：熊野宏治（実務経験者）
- 第14回 整形疾患，がんに対する事例検討2：井口知也（実務経験者）
- 第15回 まとめ：井口知也（実務経験者）

■ 評価方法

以下の素材と割合で総合的に評価する

レポートおよび発表 40%，【科目試験（筆記試験）】60%とするが、いずれも60%以上ないと合格としない．
なお、欠席、遅刻早退は減点対象（無断遅刻・無断欠席は-10点、事前連絡のある遅刻・欠席は-5点とする）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義の際、前回の内容に関するの発表をしたり、レポートを提出する．また、講義前に予習として教科書を読んでくること．復習内容やレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする．

■ 教科書

書名：高齢期障害領域の作業療法 第2版
著者名：山田 孝 編集
出版社：中央法規

■ 参考図書

書名：作業療法学全書第7巻 老年期
著者名：村田 和香 編集
出版社：協同医書出版社

書名：作業療法学全書第13巻 地域作業療法学
著者名：太田 睦美
出版社：協同医書出版社

書名：認知症の作業療法 第2版
著者名：小川 敬之, 竹田 徳則 編集
出版社：歯薬出版

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。

■ 講義受講にあたって

「老年期障害治療学Ⅱ」は「作業療法治療学実習Ⅱ」「臨床評価学実習Ⅱ」「総合臨床実習ⅠⅡ」の基礎となる高齢期の方への作業療法を学ぶ。個々の文脈にある人間と生活という視点に立ち、作業の意味をしっかりと捉えること。その上で、高齢者にとっての作業とは何かを考え、生活を支援する者としての作業療法士の役割の意味を吟味してほしい。

授業科目	作業療法治療学実習 I				
担当者	辻 郁, 足立 一, 井口 知也, 掛川 泰朗, 林部 美紀, 山田 隆人, 吉田 文 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後, 医療機関, 保健行政で作業療法を実践してきた. 特に保健行政では, 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害, 一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

実際の対象者（演習協力者）に対し，作業療法評価（作業療法に関連する情報収集と情報の統合もよび課題の焦点化と作業療法計画）を実施し，ICF の枠組みで系統立てて報告する

■ 到達目標

1. 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる
2. 作業療法評価計画が立案できる
3. 正確な情報が収集できる
4. 情報を統合し，ICF の枠組みで対象者を理解できる
5. 実践結果をまとめて報告できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 関連する医学的知識を修得する 評価計画を立案する
- 第3回 情報収集実践 1
- 第4回 フィードバック
- 第5回 情報収集実践 2
- 第6回 フィードバック
- 第7回 情報収集実践 3
- 第8回 フィードバック
- 第9回 全体フィードバック
- 第10回 情報収集実践 4
- 第11回 フィードバック
- 第12回 情報収集実践 5
- 第13回 フィードバック
- 第14回 まとめと報告
- 第15回 報告書作成

■ 評価方法

- 実践後の記録・レポート 35%
- 実践技術 40%
- 最終報告・報告書 25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- 実践に関連する知識と技術を習得し練習しておくこと
- 実践後には，レポートをまとめて必要な知識を深化させておくこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

健康に留意し、実践に影響が出ないように十分な自己管理をすること
障害がある方の協力があって成り立つ授業であるから、普段の講義以上に真摯な態度で臨むこと

■ 講義受講にあたって

座学で学んだ知識や演習で習得した技術をこの経験を通して統合していきます。そのためには、これまでの復習と本授業に臨むための準備は不可欠です。十分な準備をしましょう。

授業科目	作業療法治療学実習Ⅱ				
担当者	辻 郁, 足立 一, 井口 知也, 掛川 泰朗, 林部 美紀, 山田 隆人, 吉田 文 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後, 医療機関, 保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では, 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害, 一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

実際の対象者（演習協力者）に対し，作業療法評価（作業療法に関連する情報収集と情報の統合もよび課題の焦点化と作業療法計画）を実施し，ICFの枠組みで系統立てて報告する

■ 到達目標

1. 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる
2. 作業療法評価計画が立案できる
3. 正確な情報が収集できる
4. 情報を統合し，ICFの枠組みで対象者を理解できる
5. 実践結果をまとめて報告できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 関連する医学的知識を修得する 評価計画を立案する
- 第3回 情報収集実践 1
- 第4回 フィードバック
- 第5回 情報収集実践 2
- 第6回 フィードバック
- 第7回 情報収集実践 3
- 第8回 フィードバック
- 第9回 全体フィードバック
- 第10回 情報収集実践 4
- 第11回 フィードバック
- 第12回 情報収集実践 5
- 第13回 フィードバック
- 第14回 まとめと報告
- 第15回 報告書作成

■ 評価方法

- 実践後の記録・レポート 35%
- 実践技術 40%
- 最終報告・報告書 25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- 実践に関連する知識と技術を習得し練習しておくこと
- 実践後には，レポートをまとめ必要な知識を深化させておくこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

健康に留意し、実践に影響が出ないように十分な自己管理をすること
障害がある方の協力があって成り立つ授業であるから、普段の講義以上に真摯な態度で臨むこと

■ 講義受講にあたって

座学で学んだ知識や演習で習得した技術をこの経験を通して統合していきます。そのためには、これまでの復習と本授業に臨むための準備は不可欠です。十分な準備をしましょう。

授業科目	動物と作業療法				
担当者	黒川晶平 (実務経験者)・木村佳友・水上 言 (実務経験者)・吉田 文 (実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	黒川晶平 (実務経験者)：獣医として動物リハビリテーションに携わる 水上 言 (実務経験者)：介助犬トレーナーとして介助犬の育成・啓発、障害者の支援に携わる 吉田 文 (実務経験者)：作業療法士として介助犬の導入、合同訓練への協力など介助犬使用者のリハビリテーションに携わる、また精神科病院、認知症デイケアで動物介在療法を実施				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

ひとの作業の中でもひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を学ぶ。動物介在療法・身体障害者補助犬(介助犬)を中心に、健康な生活をつくり、社会参加を促進するために動物との関わりをどのように活かすことができるのかを学習する。作業療法の中で実践できるように当事者の講義や実務経験者による事例紹介や臨床を再現した体験学習を含めて授業を展開する。

■ 到達目標

1. ひとと動物の関わる作業の分類と作業療法との関係について説明できる
2. ひとと動物の関わる作業が人の生活にどのように影響するか説明できる
3. ひとと動物の関わる作業を用いた作業療法を実践するための計画が立てられる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 人と動物の関わり
- 第2回 動物介在療法、動物リハビリテーション、身体障害者補助犬の概要
吉田 文 (実務経験者)
- 第3回 動物リハビリテーション① (概要)
黒川晶平 (実務経験者)
- 第4回 動物リハビリテーション② (疾患と評価)
黒川晶平 (実務経験者)
- 第5回 動物介在療法① (概要)
吉田 文 (実務経験者)
- 第6回 動物介在療法② (作業療法と動物介在療法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第7回 動物介在療法② (作業療法における展開例)
吉田 文 (実務経験者)
- 第8回 動物介在療法③ (演習)
吉田 文 (実務経験者)
- 第9回 動物介在療法④ (まとめ) 小テスト
- 第10回 身体障害者補助犬① (盲導犬・聴導犬・介助犬の概要、身体障害者補助犬法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第11回 身体障害者補助犬② (介助犬と作業療法)
吉田 文 (実務経験者)
- 第12回 身体障害者補助犬③ (介助犬育成の実際、育成事業者と作業療法士の連携)
水上 言 (実務経験者)
- 第13回 身体障害者補助犬④ (介助犬使用者の生活、社会参加を促進するために)
- 第14回 身体障害者補助犬⑤ (まとめ) 小テスト
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

リアクションペーパーの提出及び内容20%、提出物30%、最終レポート50%
出席を基本とする授業のため遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡がありやむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：作業活動実習マニュアル
著者名：古川 宏
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：別冊総合ケア 医療と福祉のための 動物介在療法
著者名：高柳友子他
出版社：医歯薬出版

書名：よくわかるアニマルセラピー—動物介在療法の基礎とケーススタディ
著者名：メリー・R. パーチ
出版社：インターズー

書名：BSAVA 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法
著者名：長谷川篤彦 監修
出版社：学窓社

書名：犬のリハビリテーション
著者名：北尾貴史 他監訳
出版社：インターズー

書名：犬と猫のリハビリテーション実践テクニック
著者名：枝村一弥他 訳
出版社：インターズー

書名：介助犬を知る
著者名：高柳哲也
出版社：名古屋大学出版会

書名：介助犬を育てる少女たち—荒れた心の扉を開くドッグ・プログラム
著者名：大塚敦子
出版社：講談社

書名：介助犬僕に生きる力をくれた犬：青年刑務所ドッグ・プログラムの3か月
著者名：NHK プリズンドッグ取材班
出版社：ポット出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	スポーツと作業療法				
担当者	足立一（実務経験者）、中尾拓（実務経験者）、山田隆人（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	実務経験者：足立一、山田隆人は、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本認定コーチであり、2次救急救命研修修了者でもある。障害者スポーツ現場で実践経験がある。 実務経験者：中尾拓は、教員免許を有し、障害者スポーツへの指導経験がある。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

科目担当者の指導の下、スポーツを通じた障害児童への介入を中心に行う。
足立一（実務経験者）、中尾拓（実務経験者）、山田隆人（実務経験者）

■ 到達目標

障害児童に対する安全な介入の仕方やスポーツ分野における社会資源の開発や運営に必要な知識と技術を習得する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 障害児・者の特性（実務経験者：足立一）
- 第2回 障害児・者スポーツの概要（実務経験者：足立一）
- 第3回 障害児・者スポーツの歴史（実務経験者：足立一）
- 第4回 障害児・者スポーツ教室の環境整備（実務経験者：足立一）
- 第5回 担当児童紹介（スクリーニング評価）（実務経験者：足立一）
- 第6回 担当児童紹介（スクリーニング評価）（実務経験者：足立一）
- 第7回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、足立一）
- 第8回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）（演習協力者：未定）
- 第9回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）（演習協力者：未定）
- 第10回 障害児童スポーツ教室体験（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）（演習協力者：未定）
- 第11回 障害児童スポーツ教室体験まとめ（実務経験者：足立一）
- 第12回 障害児童スポーツ教室の企画・検討（実務経験者：足立一）
- 第13回 障害児童スポーツ教室の企画・検討（実務経験者：足立一）
- 第14回 障害児童スポーツ教室の実践（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）（演習協力者：未定）
- 第15回 障害児童スポーツ教室の実践（実務経験者：中尾拓、山田隆人、足立一）（演習協力者：未定）

■ 評価方法

レポート課題100% レポート作成は体験や実践した上で作成すること。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業の進行に合わせてその予習復習を促す。
授業時間内で遂行できる程度のレポート課題を行うが、できなかった場合は宿題とする。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

障害児童スポーツ教室では大阪市立滝川小学校の体育館で実施。ジャージと体育館シューズを持参すること。

授業科目	芸術と作業療法				
担当者	石橋奈美・鈴木暁子（実務経験者）・有賀喜代子（実務経験者）・橋本弘子（実務経験者）・吉田 文（実務経験者）				（オムニバス）
実務経験者の概要	鈴木暁子（実務経験者）：臨床心理士および音楽療法士として青年期～老年期まで様々な施設で音楽療法を実施 有賀喜代子（実務経験者）：作業療法士として精神障害・知的障害を中心に様々な施設で絵画療法を実施 橋本弘子（実務経験者）：作業療法士として身体障害・精神障害の様々な施設でダンスセラピーを実施 吉田 文（実務経験者）：作業療法士として精神科作業療法において芸術を用いるプログラム全般に携わる				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

「芸術」にはこれまでに様々な解釈があるが、この科目では芸術を広く解釈し作業療法にどのように用いるかを中心に学習する。芸術活動の意味・価値、自己表現としての芸術、人の生活に芸術はどのような影響を及ぼすのか、芸術はどのように治療に生かされるかなどをグループ活動などにより学ぶ。障害当事者と活動を共有し、各実務経験者の指導や臨床での応用を体験する方法を用いる。

■ 到達目標

1. 芸術に分類される作業活動を述べることができる
2. 芸術が人の生活にどのような影響を及ぼすのか説明できる
3. 芸術活動を作業療法の中でどのように展開していくか計画が立てられる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、アロマセラピー
吉田 文（実務経験者）
- 第2回 アロマセラピー
石橋奈美（実務経験者）
- 第3回 音楽療法
鈴木暁子（実務経験者）
- 第4回 音楽療法
鈴木暁子（実務経験者）
- 第5回 絵画療法
有賀喜代子（実務経験者）
- 第6回 絵画療法、観察記録の書き方
吉田 文（実務経験者）
- 第7回 絵画療法（障害当事者参加）
有賀喜代子（実務経験者）
- 第8回 絵画療法のまとめ
吉田 文（実務経験者）
- 第9回 ダンスセラピー
橋本弘子（実務経験者）
- 第10回 ダンスセラピー
吉田 文（実務経験者）
- 第11回 ダンスセラピー（障害当事者参加）
橋本弘子（実務経験者）
- 第12回 ダンスセラピーのまとめ
吉田 文（実務経験者）

- 第13回 書道
吉田 文(実務経験者)
- 第14回 書道
吉田 文(実務経験者)
- 第15回 授業のまとめ
吉田 文(実務経験者)

■ 評価方法

出席を基本とする授業のため遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡がありやむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

リアクションペーパーの提出及び内容20%、提出物30%、最終レポート50%

出席を基本とする授業のため遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡がありやむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：作業活動実習マニュアル
著者名：古川 宏
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：芸術と福祉

著者名：藤田治彦

出版社：大阪大学出版会

書名：ホスピスが美術館になる日 ケアの時代とアートの未来

著者名：横川善正

出版社：ミネルヴァ書房

書名：進化するアートコミュニケーション

著者名：林容子・湖山泰成

出版社：レイライン

書名：感覚統合を活かして子どもを伸ばす 「音楽療法」 苦手に寄り添う音楽活動

著者名：土田玲子

出版社：明治図書出版

書名：パーキンソン病はこうすれば変わる！

－日常生活の工夫とパーキンソンダンスで生活機能を改善

著者名：橋本 弘子

出版社：三輪書店

書名：こころを癒す音楽

著者名：北山修

出版社：講談社

書名：音楽療法入門（上） 理論編

著者名：日野原重明 他

出版社：春秋社

書名：音楽療法入門（下） 実践編

著者名：日野原重明 他

出版社：春秋社

書名：誰でも描けるキミ子方式 楽しみ方・教え方入門

著者名：楽しい授業編集委員会

出版社：仮説社

書名：アロマセラピーのための精油ハンドブック

著者名：日本アロマセラピー学会

出版社：丸善出版

書名：香りで心と体を整える

著者名：千葉直樹

出版社：フレグランスジャーナル社

書名：香りで痛みを和らげる ある整形外科医の処方箋から（香りで美と健康シリーズ3）

著者名：千葉直樹

出版社：フレグランスジャーナル社

書名：医師がすすめる「アロマセラピー」決定版 肥満、ぜんそく、アトピーからパニック障害まで撃退

著者名：川端一永他

出版社：マキノ出版

書名：現場で実践されている「心と身体にアロマケア」 介護に役立つアロマセラピーの教科書

著者名：櫻井かつみ

出版社：BAB ジャパン

書名：メディカル・アロマセラピー（補完・代替医療）改定第3版

著者名：今西二郎

出版社：金芳堂

書名：香りはなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療

著者名：塩田清二

出版社：NHK 出版

書名：アロマの香りが認知症を予防改善する

著者名：浦上克哉

出版社：宝島社

書名：病院のアート 医療現場の再生と未来

著者名：森口ゆたか

出版社：アートミーツケア叢書

書名：石川九楊の書道入門 石川メソッドで30日基本完全マスター

著者名：石川九楊

出版社：芸術新聞社

書名：書とはどういう芸術か 筆蝕の美学

著者名：石川九楊

出版社：中央公論新社

書名：ダンスセラピー入門 リズム・ふれあい・イメージの療法的機能

著者名：平井タカネ編著

出版社：岩崎学術出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	福祉用具と作業療法				
担当者	山田 隆人 (実務経験者)				
実務経験者の概要	診療所、訪問看護ステーションにて作業療法士として勤務 専門作業療法士 (作業療法士協会)、二級建築士免許証を有する。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

障害を持つ方々が社会生活を送る際、社会参加する際に、それぞれの置かれている環境や提供できるサービスや使用している道具により、可能になる作業には差が生じる。

本講義では、社会生活の課題別に環境調整を行うための生活評価や環境調整方法を学び、理解を深める。事例を通して、課題解決に向けた演習を行う。

■ 到達目標

障がいを持つ方々の社会生活について理解する
障がいを持つ方々が社会生活を送る上での課題について理解する
障がいを持つ方々への環境調整方法を理解する
障がいを持つ方々へ環境調整方法を検討する

■ 授業計画

- 第1回 義肢の作成見学及びスポーツに関わる義肢 1
- 第2回 義肢の作成見学及びスポーツに関わる義肢 2
- 第3回 車椅子の理解と適合 1
- 第4回 車椅子の理解と適合 2
- 第5回 福祉用具の開発と制作 1
- 第6回 福祉用具の開発と制作 2
- 第7回 義手のつくりの理解および義手の適合 1
- 第8回 義手のつくりの理解および義手の適合 2
- 第9回 スプリントの理解及び適合及び作成 1
- 第10回 スプリントの理解及び適合及び作成 2
- 第11回 環境計測実習 1
- 第12回 環境計測実習 2
- 第13回 住宅改修の法制度および改修場所および内容 1
- 第14回 住宅改修の法制度および改修場所および内容 2
- 第15回 住宅改修事例検討 1
- 第16回 住宅改修事例検討 2

■ 評価方法

講義での課題の提出50%、提出された課題内容50%で評定を行う。欠席の場合は、提出課題および内容の評点が加算されない。各単元での課題を実施し、課題提出する予定。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

本講義は、外部講師の協力の下で行う講義・演習および演習課題がある。その為、日程等は外部との調整により、講義日程・進行は変更されることがある。また、学外での見学等を行う予定にしている。集合場所および服装等は、見学等の内容に応じて、指定する場合がある。

■ 教科書

書名：生活環境学テキスト

著者名：監修 細田多穂

出版社：南江堂

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床ゼミナール I				
担当者	吉田 文 (実務経験者)				
実務経験者の概要	精神科病院における作業療法の臨床経験および臨床実習指導の経験				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

この科目では、作業療法に欠かせないコミュニケーションスキルや面接・観察を中心に学習を行う。臨床見学実習でその知識・技術を活用できるようにグループワークによる演習を行い、事例を基にディスカッションする。他の科目で学んだ知識・技術も使いながら、作業療法場面における情報を掴み、作業療法と対象者について概説できる力をつける。

■ 到達目標

1. 作業療法学生として対象者・スタッフとコミュニケーションができる
2. 面接により作業療法評価に必要な情報を収集する
3. 観察により作業療法評価に必要な情報を収集する
4. 得た情報をもとに作業療法と対象者について概説できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 臨床実習の環境、社会人・医療人としての基本的資質とは
- 第2回 コミュニケーションとは？人と接するための基本
コミュニケーションスキル演習①
- 第3回 人との関係づくりの基本 対象者・家族との関係づくり
コミュニケーションスキル演習②
- 第4回 人との関係づくりの基本 スタッフ・社会との関係づくり
コミュニケーションスキル演習③
- 第5回 作業療法における観察とは？
観察の演習①
- 第6回 観察に必要な知識・技術
観察の演習②
- 第7回 観察場面についてのディスカッション 事例を用いて
観察の演習③
- 第8回 作業療法における面接とは？
面接の演習①
- 第9回 面接に必要な知識・技術
面接の演習②
- 第10回 面接場面についてディスカッション 事例を用いて
面接の演習③
- 第11回 作業療法場面の捉え方 作業療法に関する文献を治療構造に沿って捉える
- 第12回 臨床実習記録の書き方 SOAP 形式
- 第13回 臨床実習における報告・連絡・相談
- 第14回 臨床実習におけるリスク管理 (車イス介助含む)
- 第15回 授業のまとめ

■ 評価方法

リアクションペーパーの提出及び内容20%、提出物30%、最終レポート50%
グループワークや演習を交えながら進めるため出席を基本とする。遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回のリアクションペーパーと提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版
著者名：小林夏子 福田恵美子
出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：コミュニケーションスキルトレーニング 患者満足度の向上と効果的な診療のために
著者名：松村真司 編集
出版社：医学書院

書名：医療コミュニケーション 実証研究への多面的アプローチ
著者名：藤崎 和彦 編集
出版社：篠原出版新社

書名：高齢者援助における相談面接の理論と実際
著者名：渡部律子
出版社：医歯薬出版

書名：コミュニケーションスキルの磨き方
著者名：澤 俊二・鈴木孝治
出版社：医歯薬出版

書名：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版
著者名：矢谷令子
出版社：医学書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床ゼミナールⅡ				
担当者	吉田 文 (実務経験者)				
実務経験者の概要	精神科病院における作業療法の臨床経験および臨床実習指導の経験				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床評価学実習Ⅰの記録等を利用して学習を進める。評価内容（観察・面接・検査・測定など）のより深い理解、記録の書き方の復習、記録の修正点と次回の実習のための対策を考える。また、学生自身の作業療法対象者やスタッフとの関わり方について再検討する。さらに、文献等を調べ、作業療法対象者への理解を深め、3年次の評価・治療の理解へとつなげていく。適宜グループでのディスカッションを用い、相互に学習を深める。

■ 到達目標

1. 記録等から、評価内容（観察・面接・検査・測定など）と学生自身の関わり方の課題を説明 することができる
2. 評価やその記録、自身の関わり方の修正を行うための対策を立てることができる
3. 文献等を参考に作業療法対象者をどのように理解できたか説明することができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、実習の振り返り
- 第2回 担当事例の疾患・障害を調べ直す
- 第3回 自分の苦手と得意の分析、3年に向かっての対策
- 第4回 担当事例と同じ疾患・障害の標準的な作業療法（教科書）
- 第5回 SOAPの復習、記録を読み直す
- 第6回 標準的な作業療法の文献の理解を深める、評価項目の抽出
- 第7回 自分の記録の分析と補足
- 第8回 似ている事例報告の文献を読み、教科書と合わせて不足している評価を考える、評価計画を立てる
- 第9回 自己の実習の振り返りのまとめ 発表PPT作成
- 第10回 担当事例について不足している評価項目を考え、評価計画を立てる
- 第11回 文献の統合と解釈を読み、治療までの流れを理解する、SVの治療の意味を考える
- 第12回 文献を参考に統合と解釈と、今後必要な治療を考える
- 第13回 担当事例の報告についてPPT作成
- 第14回 実習の振り返りと担当事例の報告
- 第15回 実習の振り返りと担当事例の報告

■ 評価方法

リアクションペーパー等の提出物の提出及び内容20%、提出物30%、最終レポート50%
グループワークや演習を交えながら進めるため出席を基本とする。遅刻・早退-2点、欠席-5点の減点とする。但し事前に連絡があり、やむを得ない遅刻・早退・欠席と認められた場合は考慮することがある。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

*授業で提示する課題（復習と予習、A4で1～2枚程度）を次回授業時または定められた期限内に提出すること

■ 教科書

書名：ICF 国際生活機能分類 - 国際障害分類改定版 -

著者名：世界保健機関（WHO）

出版社：中央法規

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床ゼミナールⅢ				
担当者	辻 郁 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法治療学実習Ⅱとリンクさせ、課題に応じて自己学習する。その結果を口頭報告とレポート作成で示す

■ 到達目標

- 1) 作業療法治療学実習Ⅱで担当する当事者の理解を深める (口頭とレポートで説明できる)
- 2) 担当事例に関する専門基礎科目領域の知識を定着させる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める (ケースノート作成)
- 第3回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める (学修と関連する問題作成)
- 第4回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める (ケースノート作成)
- 第5回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める (学修と関連する問題作成)
- 第6回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める (ケースノート作成)
- 第7回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める (学修と関連する問題作成)
- 第8回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める (ケースノート作成)
- 第9回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める (学修と関連する問題作成)
- 第10回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める (ケースノート作成)
- 第11回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める (学修と関連する問題作成)
- 第12回 作業療法治療学実習Ⅱのケースノートを整理し考察を深める (ケースノート作成)
- 第13回 作業療法治療学実習Ⅱの担当ケースの専門基礎医学領域の知識を深める (学修と関連する問題作成)
- 第14回 作成した問題の統合 (解答する)
- 第15回 作成した問題の統合 (作成者からの解答と説明)

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験)】 100% ※ケースノートの評価は作業療法治療学実習Ⅱの成績に反映させます

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業時に持参すべきテキスト等の確認をしておくこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

必要な参考図書，文献を準備して臨むこと
それぞれ自己課題を掲げ，授業経過の中で自己課題を明確化すること

■ 講義受講にあたって

これまでのすべての学修が基盤となって進みます。臨地実習に出る前の最終準備として取り組んでください。

授業科目	総合作業療法学				
担当者	林部 美紀 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士として病院に勤務していた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

今まで得て来た知識を総動員し、国家試験の知識が身につくように、講義・グループワークをメインに行う授業である。

■ 到達目標

1. 専門基礎科目及び専門科目を再整理し、アウトプットすることができる。
2. 作業療法士として必要な知識を身につけることができる。

■ 授業計画

- 第1回 解剖学の整理とアウトプット
- 第2回 生理学の整理とアウトプット
- 第3回 運動学の整理とアウトプット
- 第4回 臨床心理学・精神医学の整理とアウトプット
- 第5回 整形外科学の整理とアウトプット
- 第6回 神経内科学の整理とアウトプット
- 第7回 内科学の整理とアウトプット
- 第8回 病理学・人間発達学・リハビリテーション医学の整理とアウトプット
- 第9回 作業療法評価の整理とアウトプット
- 第10回 脳卒中の作業療法の整理とアウトプット
- 第11回 脊髄損傷の作業療法の整理とアウトプット
- 第12回 整形外科の作業療法の整理とアウトプット
- 第13回 発達障がいのある作業療法の整理とアウトプット
- 第14回 精神科の作業療法の整理とアウトプット
- 第15回 総まとめ

■ 評価方法

小テスト40%、【科目試験（筆記試験）】50%、課題10%とする。60%以上で合格とする。
小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教科書

書 名：クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2020共通問題
出版社：医療情報科学研究所

■ 参考図書

書名：見て学ぶ作業療法の極意 イラスト作業療法 ブラウン・ノート 7850のイラストで極める
著者名：長崎 重信
出版社：MEDICAL VIEW

■ 留意事項

遅刻・欠席のないようにしてください。

■ 講義受講にあたって

4年間の総まとめの授業になります。今までの知識をフル活用してください。

授業科目	生活支援作業療法				
担当者	橋本卓也・田中歩・小野稿樹・多崎紗耶香（すべて実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	<p>（橋本 卓也）通所リハビリ・訪問リハビリ等を通して身体・知的・精神等の障害がある方たちの地域での生活支援を17年間行ってきた</p> <p>（田中 歩先生）老人保健施設において長年、作業療法士として入所・在宅の身体・認知症高齢者及び家族等に対する生活支援を経験されている。老人保健施設における作業療法士の機能・役割について学ぶ</p> <p>（小野 稿樹先生）進行性の神経難病の方々を中心とした訪問リハビリテーション領域において長年、作業療法士として活躍されている。神経難病の方々に対する作業療法の実際（機能と役割）を学ぶ</p> <p>（多崎 紗耶香先生）重度の精神障害があるの方々に対して作業療法士としてACT（包括型地域生活支援プログラム）を使った地域生活支援を長年経験されている。ACTの概念と機能・役割を学ぶ</p>				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

様々なニーズをもつ障害児・者や高齢者等が地域社会の中で「いきいき」と、そして質の高い生活を送ることができるために作業療法（士）は、何を提供することができるのか？当事者の豊かな生活を支えるために必要な作業療法の機能・役割について学ぶ。また、ライフステージごとにおける生活の変化に関連づけながら生活支援という視点から作業療法について考察する。

■ 到達目標

- ①地域作業療法の理念や目的を理解する。
- ②ライフステージ及び障害等に起因する生活の変化に応じた作業療法の実践を理解する。
- ③ライフステージの変化や当事者が希求する生活に応じた法制度等を理解する。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（地域作業療法について：歴史・理念・目的・機能と役割）（実務経験者：橋本卓也）
- 第2回 地域で生活することの意味（OTの視点から捉えた「地域」とは、「生活」とは）（実務経験者：橋本卓也）
- 第3回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（乳児期～学童期～思春期）（実務経験者：橋本卓也）
- 第4回 ライフステージごとの生活特性と健康・生活ニーズ（青年期～壮年期～老年期）（実務経験者：橋本卓也）
- 第5回 生活支援に関連する法制度・施策（実務経験者：橋本卓也）
- 第6回 老人保健施設における作業療法について（実務経験者：田中歩）
- 第7回 地域診断について（実務経験者：橋本卓也）
- 第8回 出身地の地区診断を行う（GW）：発表にむけての準備（1）（実務経験者：橋本卓也）
- 第9回 出身地の地区診断を行う（GW）：発表にむけての準備（2）（実務経験者：橋本卓也）
- 第10回 地域診断発表（実務経験者：橋本卓也）
- 第11回 地域診断発表（実務経験者：橋本卓也）
- 第12回 難病患者に対する訪問作業療法について（実務経験者：小野稿樹）
- 第13回 地域作業療法における評価の視点（実務経験者：橋本卓也）
- 第14回 発達障害児・者に対する生活支援（実務経験者：橋本卓也）
- 第15回 アクトについて（非常勤講師）（実務経験者：多崎紗耶香）

■ 評価方法

GWの発表：20% 【科目試験（筆記試験）】80%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護問題に関する記事・ニュース等について関心をもつこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：地域作業療法学

著者名：太田睦美

出版社：協同医書出版

書名：地域作業療法学

著者名：小川恵子

出版社：医学書院

■ 留意事項

授業への積極的参加を望む。

■ 講義受講にあたって

授業科目	就労支援作業療法				
担当者	橋本卓也（実務経験者）・酒井京子（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	（橋本卓也）通所リハ・訪問リハを行っている施設において在宅障害者の就労支援（現・就労継続支援B型施設）の事務局長を17年間行ってきた（酒井京子先生）身体・知的・精神・発達障害者の方たちへの就労支援を約30年行ってきた経験を元に就労支援の現状と作業療法の可能性について学ぶ（元：サテライトオフィス平野所長（発達障害者支援）、現：大阪市職業リハビリテーションセンター所長）				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

職業リハビリテーションの理念と意義及び歴史等について学ぶ。また、職業リハビリテーション領域における作業療法（士）の機能と役割についても理解を深める。さらに障害種別ごとのアプローチの違いや職業評価についても学習する。職業リハビリテーション施設の見学も含めて学習を行う。

■ 到達目標

- ①職業リハビリテーションの理念・意義等について説明できる。
- ②職業リハビリテーションにおいて作業療法（士）が果たす役割が説明できる。
- ③就労ニーズをもつ障害者に対する作業療法評価と介入の方法を理解できる。
- ④障害種別ごとの就労支援の違いを理解できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 職業リハビリテーションの歴史・意義等について（人にとって仕事・職業とは）（実務経験者：橋本卓也）
- 第2回 障害者の就労支援における法制度について（障害者雇用促進法を中心に）（実務経験者：橋本卓也）
- 第3回 日本における障害者雇用の実態について（実務経験者：橋本卓也）
- 第4回 職業リハビリテーションの原理について（実務経験者：橋本卓也）
- 第5回 職業リハビリテーション領域における関連職種について（実務経験者：橋本卓也）
- 第6回 職業リハビリテーションにおける作業療法（士）の機能と役割（1）（実務経験者：橋本卓也）
- 第7回 職業リハビリテーションにおける作業療法（士）の機能と役割（2）（実務経験者：橋本卓也）
- 第8回 対象者の特性と支援内容について（身体障害者領域）（実務経験者：橋本卓也）
- 第9回 対象者の特性と支援内容について（精神・知的障害者領域）（実務経験者：橋本卓也）
- 第10回 対象者の特製と支援内容について（発達障害者領域）（実務経験者：橋本卓也）
- 第11回 就労支援の実際について（実務経験者：酒井京子）
- 第12回 職業能力に対する評価について（実務経験者：橋本卓也）
- 第13回 ジョブコーチの役割と支援技術（1）（実務経験者：橋本卓也）
- 第14回 ジョブコーチの役割と支援技術（2）（実務経験者：橋本卓也）
- 第15回 事例を通じた就労支援の実際（実務経験者：橋本卓也）

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】100% 出席率は減点対象とする

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回の授業項目について「参考図書」その他の当授業に関連する書籍を読んだ上で、授業に臨むこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

書名：①作業療法学全書 職業関連活動」

著者名：①日本 OT 協会監修

書名：職業リハビリテーション入門

著者名：松為信雄

■ 留意事項

授業への積極的な参加を望む。出席を重視する。

■ 講義受講にあたって

授業科目	日常生活活動学				
担当者	山田 隆人 (実務経験者)				
実務経験者の概要	診療所、訪問看護ステーションにて作業療法士として勤務 専門作業療法士 (作業療法士協会)、二級建築士免許を有する。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法は人の生活行為を広く社会の場において支援する。それら支援を行うには、ADL の概念を理解する必要がある。さらに、ADL 支援を行うためには、対象者の生活機能を評価、生活行為への支援方法を検討し、実施していく。本講義では、これら ADL の支援を行うための過程を学ぶ。

■ 到達目標

- ・ ADL について理解する
- ・ ADL 評価に関して一連の手続きについて理解する
- ・ ADL 支援計画立案の構造について理解する

■ 授業計画

- 第1回 作業時の筋活動と関節運動
- 第2回 日常生活活動の解析
- 第3回 運動を作業療法の応用する
- 第4回 運動時の重心をコントロールする活動
- 第5回 運動時の重心をコントロールする活動2
- 第6回 運動時の重心をコントロールする活動3
- 第7回 日常生活活動学概論
- 第8回 日常生活活動の支援
- 第9回 日常生活活動評価
- 第10回 日常生活活動の治療理論
- 第11回 更衣活動
- 第12回 更衣の支援方法
- 第13回 排泄活動
- 第14回 排泄活動の支援方法
- 第15回 入浴活動
- 第16回 入浴活動の支援

■ 評価方法

課題の提出状況50%、提出課題の内容 (50%)、出席状況 (無断欠席や遅刻は5点減点する)、の結果を総合的に評価する。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業前に教科書の該当ページを全て読んでくること。
確認のための課題・テストなどを実施する場合がある。

■ 教科書

書名：標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学

著者名：編集 濱口豊太

出版社：医学書院

書名：基礎作業学 第3版

著者名：編集 濱口豊太

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント

著者名：社団法人 日本作業療法士協会 監修

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

人の運動を映像等で解析することを行います。スマホやカメラを使用します。

■ 講義受講にあたって

講義では、受講者の体を用いて、触診等を行い確認します。触診がしやすい・運動しやすい服装をお願いすることがあります。

授業科目	国際リハビリテーション				
担当者	井口知也				
実務経験者の概要					
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	自由

■ 内 容

スタディツアーに参加し、他国の障害児者など人々と交流し、生活やリハビリテーションの現状に触れる交流するための活動の準備をする
 帰国後は、レポート作成を通して、ツアーを振り返り、人々の生活やリハビリテーションの現状を自国と比較しその相違を明らかにする。同時にセラピストのなるための自己課題を明らかにする

■ 到達目標

体調管理に努め、一連の活動に参加する
 帰国後に活動全体を振り返りレポート作成ができる

■ 授業計画

スタディツアー準備
 スタディツアーへの参加（5泊6日程度）
 スタディツアーの振り返り

■ 評価方法

スタツア準備課題の提出と内容（70%）
 レポート内容（30%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

必要の応じて調べ物をしたり、期限までに準備等ができるよう取り組むこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。そして、体調管理に努めること。

■ 講義受講にあたって

国外に出かけることは学生時代に与えられた良い機会です。多くの学生が参加することを期待します。参加する者は十分な体調管理に努めてください。

授業科目	作業療法研究				
担当者	井口知也				
実務経験者の概要					
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	3単位
		開講時期	通年	選択・必修	必修

■ 内 容

作業療法領域における具体的なテーマを設定し、研究計画を立て、それに沿って必要な情報や資料を収集し、整理し、結果を導き出さす。研究の基本手法を実践から学ぶ。その集大成を卒業論文として完成させる。研究の結果を報告する。

■ 到達目標

1. 作業療法における問題を科学的根拠に基づいて解決する姿勢と能力を高める
2. 卒業論文を完成させ、報告できる

■ 授業計画

第1回～15回 ゼミ単位で進行する
 オリエンテーション
 研究テーマの決定 / 先行研究論文の抄読
 研究計画書の作成
 研究データの収集
 収集したデータの整理・解析
 結果についての考察
 論文作成
 報告準備
 報告

■ 評価方法

課題の提出と内容：50% 論文内容：30% 報告姿勢（質疑応答を含む）と内容：20%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

研究の進行に沿って、課題を仕上げ、ゼミではディスカッションによって考えをまとめることが出来るように準備すること

■ 教 科 書

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意すること。教員と連絡を密にとって研究を進めていくことが重要。

■ 講義受講にあたって

自らが興味を持って取り組んでいることなので、積極的であってほしい。
 研究の大変さと楽しさ、達成感、さらには、作業療法の面白さ、大切さが実感できることを期待する

授業科目	臨床見学実習				
担当者	OT 専任教員	(オムニバス)			
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床見学，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5日間（2月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う

■ 到達目標

1. 作業療法の実施状況を観察し，記録できる
2. リハビリテーションの流れの中の作業療法（士）の役割を理解できる
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る

■ 授業計画

- 第1回～第15回 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床見学実習（5日間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

実実習前後の課題が25%、実習地での成績が50%、実習終了後の報告・報告書の内容25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

授業科目	臨床評価学実習 I				
担当者	OT 専任教員 (実務経験者)			(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：5日間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと作業療法評価の実践を行う

■ 到達目標

1. 作業療法の実践と実施状況を観察し，記録できる
2. 作業療法評価の位置づけを理解できる
3. 作業療法士を目指す学生として適切な取り組みが出来る

■ 授業計画

第1回～第15回 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床見学実習（5日間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

実習前後の課題が25%、実習地での成績が50%、実習終了後の報告・報告書の内容25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

■ 講義受講にあたって

授業科目	臨床評価学実習Ⅱ				
担当者	OT専任教員(実務経験者)			(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	3単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 臨床現場での実習期間：3週間（2月）
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法評価を行う

■ 到達目標

1. 作業療法評価の位置づけと過程がわかる
2. 対象者の作業療法評価（情報収集，検査測定，統合と解釈，作業療法プログラムの立案）が出来る
3. 上記を適切に記録できる

■ 授業計画

第1回～第30回 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 臨床見学実習（3週間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

実習前後の課題が25%、実習地での成績が50%、実習終了後の報告・報告書の内容25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

授業科目	総合臨床実習Ⅰ				
担当者	OT専任教員(実務経験者)			(オムニバス)	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	4年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 現場での実習期間：9週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など？基本的資質を習得できる
2. 指導者の指導のもと，一連の作業療法を実践できる
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる
4. 義務と責任および倫理観を修得できる

■ 授業計画

第1回～第30回 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 総合臨床実習（4週間）
 総合臨床実習学内演習（1週間）
 総合臨床実習（4週間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

実習前後の課題が25%、実習地での成績が50%、実習終了後の報告・報告書の内容25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度か？不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由がない欠席は原則として実習を中止する

■ 講義受講にあたって

授業科目	総合臨床実習Ⅱ（実務経験者）				
担当者	OT専任教員			（オムニバス）	
実務経験者の概要	担当教員、実習指導者全てが実務経験者で、医療福祉機関で勤務し、作業療法の経験を有する者				
学科名	作業療法学専攻	学 年	4年	総単位数	8単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

1. 実習前学習，臨床実習，終了後のまとめと報告会で構成する
2. 実習施設：一般病院，リハビリテーション病院など大学が依頼し決定した施設
3. 現場での実習期間：9週間
4. 実習形態：同一施設で臨床実習指導者の指導体制のもと対象者の作業療法を行う

■ 到達目標

1. 作業療法士としての知識・技術・臨床推論・態度など基本的資質を習得できる
2. 指導者の指導のもと，一連の作業療法を実践できる
3. チームにおける作業療法の役割と機能がわかる
4. 義務と責任および倫理観を修得できる

■ 授業計画

第1回～第30回 全体オリエンテーション
 実習前準備（講義・演習・レポート）
 総合臨床実習（4週間）
 総合臨床実習学内演習（1週間）
 総合臨床実習（4週間）
 実習のまとめ
 実習報告会

■ 評価方法

実習前後の課題が25%、実習地での成績が50%、実習終了後の報告・報告書の内容25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回に担当教員および臨床実習指導者の指示に従って，予習復習を行うこと

■ 教科書

書名：なし

■ 参考図書

■ 留意事項

1. 実習は対象者や関係者，実習施設の好意により行われるため感謝と礼儀を忘れないこと
2. 日頃から健康管理に努め，特に臨床実習期間は健康に留意すること
3. 全体を通して，身だしなみや取り組み態度が不適切であると判断した場合，また，無断欠席や正当な理由か？ない欠席は原則として実習を中止する

■ 講義受講にあたって

授業科目	理学療法概論				
担当者	今井 公一（実務経験者）				
実務経験者の概要	今井公一（病院などの医療施設、介護保険施設などで診療及び臨床指導経験あり）				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法の歴史、概念、理学療法の実際についてを理解するため、リハビリテーションや生活機能といった周辺との関連性を重視しながら、なおかつ理学療法の原理についても学びます。

■ 到達目標

1. リハビリテーションと理学療法の歴史について説明できる。2. 理学療法の実際について説明できる。

■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションと理学療法
- 第2回 理学療法に必要な基礎知識（1）
- 第3回 理学療法に必要な基礎知識（2）
- 第4回 理学療法に必要な基礎知識（3）
- 第5回 理学療法に必要な基礎知識（4）
- 第6回 姿勢と歩行
- 第7回 理学療法プロセスと評価
- 第8回 物理療法概論
- 第9回 運動療法概論
- 第10回 高齢社会と理学療法
- 第11回 理学療法研究（1）
- 第12回 理学療法研究（2）
- 第13回 理学療法研究（3）
- 第14回 理学療法研究（4）
- 第15回 総括

■ 評価方法

提出物 40% 科目試験 60%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

適宜与えられる課題について、しっかりと学習し授業に臨むこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：不要

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

授業科目	在宅ケア論				
担当者	山田隆人・益子千枝・平川隆啓 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	診療所・訪問看護ステーションに作業療法士として勤務、MPDLP 研修受講 (山田) 福祉施設に利用者へのサービス提供者として勤務 (益子) 都市計画等の事務所にて都市計画等の実務に従事、福祉サービス提供経験あり (平川)				
学科名	作業療法学専攻	学 年	4 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

現状の社会福祉システムの理解、社会福祉において実施されている生活支援の実際を学びます。加えて、生活行為向上マネジメントについて、学び支援過程を事例を通じて学びます。

■ 到達目標

障がいを持つ方々の生活支援の法制度について理解する障がいを持つ方々の生活支援について理解する学んだ内容をまとめ、自身の意見を記述することができる生活行為向上マネジメントを理解する生活行為向上マネジメントの流れを理解する

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーションと在宅ケアとは (山田)
- 第2回 MTDLP の概要 (山田)
- 第3回 MTDLP の概要の評価内容 (山田)
- 第4回 MTDLP の支援内容の検討の流れ (山田)
- 第5回 MTDLP 事例検討1 (山田)
- 第6回 MTDLP 事例検討2 (山田)
- 第7回 社会福祉の現状の姿 (益子)
- 第8回 社会福祉の実践状況の理解 (平川)

■ 評価方法

課題の提出が50%、課題提出物の内容50%で評価します。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

生活行為向上マネジメントについて、作業療法士協会のホームページ等確認し、事前に学習しておくこと。

■ 教科書

書 名：作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント
著者名：一般社団法人 日本作業療法士協会
出版社：一般社団法人 日本作業療法士協会

■ 参考図書

書 名：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント
著者名：一般社団法人 日本作業療法士協会
出版社：医歯薬出版株式会社

■ 留意事項

本講義は、外部講師の協力の下で行う講義・演習および演習課題がある。その為、日程等は外部との調整により、講義日程・進行は変更されることがある。また、学外での見学等を行う予定にしている。集合場所および服装等は、見学等の内容に応じて、指定する場合がある。

■ 講義受講にあたって

授業科目	地域医療実践学				
担当者	辻 郁				
実務経験者の概要	作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	理学療法学専攻	学 年	4年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

地域支援の実際を見学し、その経験から地域で理学療法・作業療法の位置づけや役割を考える講義形式ではなく、見学とその後のフィードバックおよび地域概況を把握する自己学習で構成する

■ 到達目標

- 1) 事前準備ができる
- 2) 見学し施設やサービスの現状と課題を具体化できる
- 3) 課題から改善策を提案できる
- 4) レポートとしてまとめることができる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 見学施設及びサービスに関する事前学習
- 第3回 見学1
- 第4回 見学1
- 第5回 見学1
- 第6回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第7回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第8回 見学施設及びサービスに関する事前学習
- 第9回 見学2
- 第10回 見学2
- 第11回 見学2
- 第12回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第13回 見学のまとめおよびフィードバック
- 第14回 該当地域および課題の抽出と改善策の提案
- 第15回 該当地域および課題の抽出と改善策の提案

■ 評価方法

【科目試験（レポート）】100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：不要

■ 留意事項

見学を基盤とする授業であるため、欠席しないように健康管理に留意する

■ 講義受講にあたって

地域理学療法或いは地域作業療法で学んだこと体験したことを振り返っておいてください

授業科目	臨床ゼミナールⅣ				
担当者	辻 郁				
実務経験者の概要	作業療法士免許取得後、医療機関、保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では、身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害、一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

臨床現場での実習直前の準備のための科目とする
情報の統合の方法を事例を通して学習する

■ 到達目標

事例を読み込めて全体像が把握出来る
専門基礎科目で学んだ知識が定着している

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事例分析 1-1
- 第3回 事例分析 1-2
- 第4回 事例分析 2-1
- 第5回 事例分析 2-2
- 第6回 事例分析 3-1
- 第7回 事例分析 3-2
- 第8回 分析事例のまとめ・報告

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】100% ※ケースノートの評価は作業療法治療学実習Ⅱの成績に反映させます

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時に持参すべきテキスト等の確認をしておくこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

書 名：国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 -
著者名：世界保健機関（WHO）
出版社：中央法規

■ 留意事項

これまでの学習内容が実践への橋渡しとなるよう、自ら積極的に取り組むこと
自ら取り組むことで、学習の楽しさや作業療法の面白さ、大切さが実感できることを期待する

■ 講義受講にあたって

これまでのすべての学修が基盤となって進みます。臨地実習に出る前の最終準備として取り組んでください。